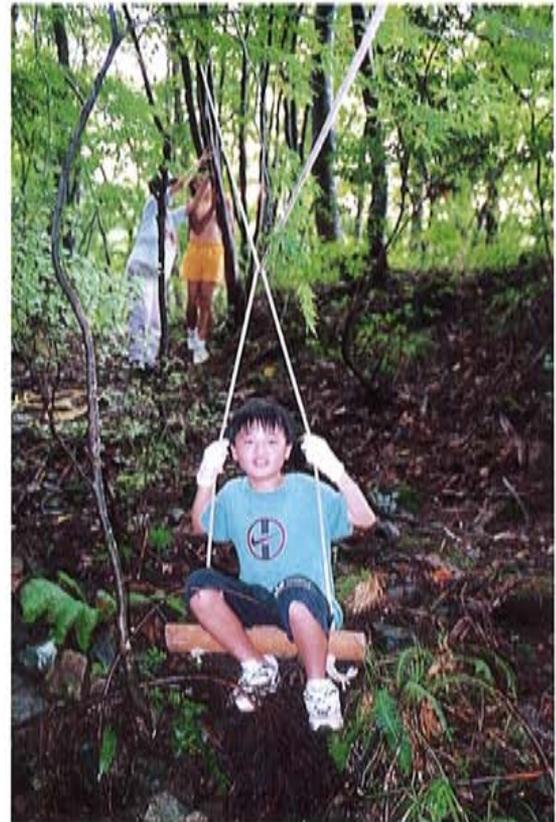


平成11年度

自然・人・地域に学ぶ

— 南但馬自然学校プログラム研究委員会のまとめ —



兵庫県立

南但馬自然学校

HYOGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO

はじめに

マンネリ？ 一会？

自然学校って教師にとってはマンネリでも子どもにとってはただ一回、だから去年よかったプログラムをそのまま使ってもいいのだ、なんて言われたらどう答えますか？

この議論、正しくないと思ってもトコトン言い合えば勝てそうにないし、困ってしまいませんか？ きっと何か言い当てている部分があるのでしょう。どうもそれがこっちにはわかってない、そんなことではないでしょうか。

とにかく学校行事の中での自然学校、マンネリ化、いま一度基本に戻って、いろんなことが言われています。そんな中で今回は「教育」という視点から自然学校を見ました。マンネリ化、行事化を「活動本位」ととらえたつもりです。どんな活動にも通用する概念、これを「理論編」「指導編」という形でまとめました。

「基本に戻って」「どんな活動にも通用」なんて考えるとまたまた画一化、マンネリ化の方向になりかねないのでは、アァ〜〜わかんないわかんない。でも、みんなそうやって悩んでいる自然学校、すてきだなぁ〜なんて自分勝手に思っています。

平成12年3月

兵庫県立南但馬自然学校

校長 森本雅樹

今始まったことではありませんが、このところ命が軽んじられた事件が相次いで起こっています。報道で最も目に付くのは人命に対してですが、干潟の命、河川の命、野山の命、社会の命なども窮地に追いやられています。このままですと21世紀が危ないというのが正直なところですが、それを救う特効薬はなかなか見つかりませんが、時代を担う子どもたちに人と人との関係の大切さや自然の大切さ、地域に密着した文化の意味などを肌で考えさせる自然学校がその一助になることは確かではないでしょうか。

自然学校事業も、はや12年が経過し、教育的な成果が認識され発展してきました。今や兵庫県の小学校教育の中に定着したとあってよいでしょう。しかし一般的によくあることですが、その事業が定着するとマニュアル化がはじまり、現象面だけが一人歩きするようになりがちです。そして主旨や意義、その事業が生まれた背景などへの意識が薄れがちになってきます。また時間の経過に伴って解釈の変容がみられることがあります。現在県下各校で行われている自然学校事業がそのようになっていると言っているわけではありませんが、12年というのは客観的に振り返り軌道を確認する必要のある時期であることは確かでしょう。

本委員会の今年度の主なテーマは、上記のような問題意識から出発し、これまでも当然押さえられてきた事柄ではありますが、今一度自然学校に期待される教育的意義を整理して理論編としてまとめることと、プログラム作成や指導に際してその理論に合致した具体的な観点を提起することとしました。このような整理はまず原点に立ち返って行われましたが、これまでの研究の積み重ねが反映され、事業開始当時考えられたものに深みと膨らみが加えられたものになっているのではないのでしょうか。

実際の指導に当たって、理論と実践がかみ合ったものになるようこの冊子に著されたものが役に立つことを期待しています。

兵庫県立南但馬自然学校プログラム研究委員会

委員長 山 田 誠

も く じ

○ はじめに	
I 開発にあたって	1
II 理論編	3
III 指導編	7
IV 実践編	
・自然丸かじり	17
・潮風に誘われて	19
・自然にどっぷり、自然を味わう	21
・ちびっこ建築家	23
・自分の好きな南但馬!	25
・挑戦! 生き物博士!	27
・創ろう! ぼくたち・わたしたちの自然学校大作戦	29
・アート in 南但馬	31
・わたしたちにまかせなさい	33
・風の中のわたし	35
・自分の好きな村!	37
・海辺満喫! & 海に挑戦!	39
・これが、われらのアドベンチャー!	41
・ザ・サバイバル体験記	43
・ティピー村でくらそうよ	45
・広げよう、わたしたちの世界	47
・エンジョイ! 脱 現代文明	49
・おかげで助かったよ!	51
・原始人になろう!	53
・ぼくら わたしらのトライ	55
・自分で食べるぞ! 自然学校	57
・いたずら大好き!	59
・ふれあいウィーク	61
・チャレンジ!!	63
・何回も挑戦するよ!	65
・ぼくたちのふれあいヒストリー	67
・スーパーマンになろう!	69
○ 活動集	71
参考	
・自然学校の円滑な実施のために	141
・自然学校推進事業補助金交付要綱	143
・自然学校に活用されている主な宿泊施設	147
・自然学校に活用されている主な県立施設	148

1 開発にあたって

昭和63年度から始まった自然学校は、本年度で12年を経過しようとしている。

この事業を実施するにあたっての根本には、現代の子どもたちが豊かな物質社会に慣らされ、知育優先、学歴偏重といった社会の流れの中で、人間としての基本を教える自然との関わりや自分の手や足を使っての直接体験が減少してきたことから生じるさまざまな問題への反省がある。そのことが昭和62年の心豊かな人づくり懇話会で提起され、自然学校事業が生まれた。

自然学校は従来から行われていた訓練中心の1泊2日といった短期間型の野外活動でなく、5泊6日という長期間、学校や家庭を離れて、豊かな自然とふれあい、友だちや先生と生活する点で子どもにとっても親にとっても画期的な事業である。自然学校の特徴として、第1は1週間という長期間学校と家庭を離れて生活すること、第2は知識の伝達に必要な教科書や黒板等の教具がなく、体験を通して学び、自分で考えて生活することがあげられる。

実施当初は初めての試みということもあって、試行錯誤の中で始まったが、この事業の意義と成果はすばらしいものがあつた。帰ってきた子どもたちがたくましくなり、自立する心、人を思いやる豊かな心が培われ、友だちと心を合わせて成し遂げた時の満足感を持ったという本人や保護者の感想が続々寄せられた。

5泊6日のプログラムについては、まずどう展開するかということが課題となった。当初は学習の場を豊かな自然に移すのであるから、今まで経験したことのないことをたくさん詰め込み、それを何とかこなすことに腐心し、ゆとりのないものになりがちであった。そこで、ひとつの活動にじっくり取り組むことができるようにするなど、活動に十分ゆとりを持たせ、子どもたちの興味や関心を重視し、子どもたちの主体性や自主性を大切にすることを重視し、重要性が問い直されるようになってきた。

平成6年に当県立南但馬自然学校が自然学校の中核施設として開校され、今日に至るまで一貫して自然学校の先導的なプログラム開発をすすめてきた。活動の方法や形態に工夫を凝らし、できるだけ子どもが主体的に判断し、自主的に活動する等の視点で研究をすすめてきた。歴史的にみると、「まず多様な活動ありき」から始まり、次にいろいろな活動をさせるとい

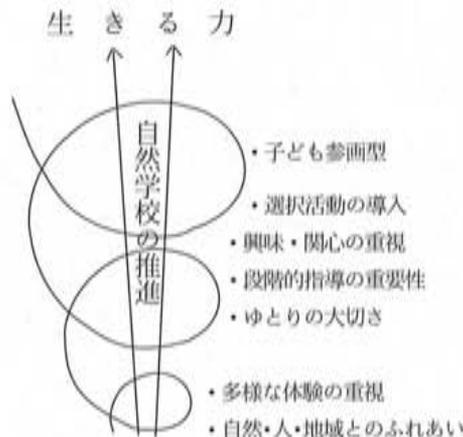


図1 プログラムの変遷

☆ 平成6年から10年度
「自然・人・地域に学ぶ」
—南但馬自然学校プログラム
研究委員会のまとめ—参照

☆ 自然学校10周年記念誌
参照

う「体験重視型」に移り、さらに、子どもの興味や関心、主体性を重視した「子ども参画型」へ変遷してきたのである。(図1)

どの活動も一定の成果をあげながら進んできたが、ただ、時間の経過とともに指導者にとって自然学校自体が行事化して、みずみずしい感動を覚えたり心躍るようなダイナミックな展開がやや影をひそめてきたことも否めない。これまではその根本にある教育的な理論を当然のこととして見過ごし、ともすればプログラムの開発だけに目が向きがちであった。そこで、今一度原点に立ち返り、自然学校の目的や役割について再確認し、自然学校理論の再構築が必要であると考えた。

今回のプログラム研究委員会では、自然学校が果たす教育的な意義を理論編としてまとめ、自然学校の考え方の根本を形成する大前提として提示する。次にこの理論編を受けて、指導者が子どもたちを指導する際の視点を提起する。さらに、これらの視点を盛り込んだ具体的な5泊6日のプログラムを作ることにした。

II 理論編

5泊6日の自然学校そのものが、自ら考え自ら学ぶ活動であるが、この理論編では自然学校のどういう部分がどのような教育的意義を持つのかを明らかにすることで、一層自然学校の在り方や方向性を明確にすることをねらっている。

「自然から学ぶ」や「自分で学ぶ」等を基本として、以下5つの考えを提示し、論を進める。

☆ 自然の多様さ、偉大さ、厳しさにたっぷりひたる

「自然は生きた教科書」ジャン・ジャック・ルソー

自然は自分からはものは言わず無言であるが、かかわり方によって無限の深まりと無限の多様性を我々に見せてくれる。自然学校では、このことを子どもたちにこころゆくまでたっぷりと体得させることに大きな意味がある。その際に大切なことは、自然を観賞の対象として見るのではなく、自然の中にどっぷりと浸り、自然そのものと共にあるという考えが重要になる。つまり、人間も自然の中で共に生きているという観点が大切であろう。本来人間は自然の中で生活することで自然の有り様を理解しながら自らの能力を伸ばし、生きる知恵、生きる技術を開発してきた。この本来人間に備わっている能力を蘇らせ伸ばすことができるのは自然そのものである。

また、現在の子どもたちは知識中心の教育を受けている。それはそれで非常に大切なことであるが、一方自然は一切ものを言わないが言葉による知識と同様に、時にはそれ以上に、豊かなこと、大切なことを教えてくれるものである。例えば、雨上りの後の木々に朝の太陽が照りかかる様子、朝日にダイヤモンドのように輝く蜘蛛の巣の糸、夕日に真っ赤に映える遠くの山々等を目の当たりにする時、我々はその美しさ、神秘さに感嘆するとともに畏敬の念さえ持つであろう。また、この自然は同時に人間の存在を揺るがしかねない力をもあわせて持っている。地震、台風、大風、天気の急変等時には人間に牙を向けることもある。自然学校の活動でも、夜の闇の中で大自然の懐に抱かれゆったりとしたり、雨の中でぬれながらも様々な活動に挑戦したりすることは、子どもたちにとってはやや困難をともしなう体験であるが、心に強烈な印象となって残るであろう。これらの曰く言い難しの体験こそが子どもの心の奥底に残り、知識と合体し、必要な時にはいつでもフィードバックすることができる生きた知恵の核となるであろう。まさしく、この意味でも自然は生きた教科書といえる。

☆ ゆとりと深み

「生き続けて行け、そのうちわかることがある」ロマン・ローラン

一定の期間に決められた内容を知識としていかに早く正確に習得

するかがこれまで考えられてきた学習の在り方であった。そのために効率や記憶を中心とした学習が主として行われてきた。しかし、ものごとを本当に理解するためには、自分の手足で実際にとりくむことが不可欠となる。学習を氷山にたとえると、知識として習得することは水面から上の部分に相当するだろう。目には見えない水面下の力を培うためには、ゆとりと深みが前提として必要となる。知識の量を基準とする見える部分の大きさは比較的評価しやすいが、本当に大切なそして評価しにくいことは水面下にかくれているのである。

自然学校を実施する際に指導者が一番配慮してほしいことは、この水面下の活動を一人一人の子どもたちにたっぷり体験させることである。ともすると、利用施設でできる活動に目がいきがちであるが、本質的に考えると、どんな活動をさせるのかも大切であるが、どの活動であろうともねらいと具体的なやり方を研究することで、子どもたちをその活動に没頭させることが可能であり、またそのことが一番大切なことである。つまり、楽しくて楽しくて仕方がない没頭した活動は多くの場合ものごとの本質に迫ることであり、知識の核として身に付くものである。さらにその事が次への意欲を喚起し、発展するものとなる。この何事も忘れて没頭する体験こそが、知識を生きたものとして、根でしっかり支え、子どもたちに生きる力を生み出すものとなる。一つのことには無心に取り組む体験は、時間的なゆとりや精神的にゆったりしている自然学校だからできることである。また、没頭するためには、与えられてする活動でなく、自ら進んで取り組むことが必須条件となる。そして、没頭する体験を通して子どもたちは、集中力や意欲、興味・関心といった力を育むことができるのである。さらに、一つのことには没頭し、深い集中を体験することは、他のことにも転移する力を持っている。このゆとりと深みの体験こそが、まさしく「一芸に秀でるものは百芸に通ず」の所以であり、真に生きる力を育成するものであろう。

☆ 自分で自分を律することの苦しさ楽しさ、嬉しさ

「汝等、汝等自身の燈火たれ」仏陀

現代の子どもたちは自分のすべき事を、大人である親や学校の先生等にしてもらっていることが多い傾向にある。社会が豊かになり、親たちは自分たちが子どもの頃にしてもらえなかったことを子どもにしてやるのが親の責任や配慮と思い込んできた。その結果、子どもは本来自分のやるべき身の自立に関する基本的なことができなくなる傾向になってきた。自然学校実施中でも、子どもたちの忘れ物が多いということが、しばしば指摘され問題になっている。子どもたちに聞いてみると、自然学校に持っていく準備物等を親がしてしまうことが多く、子どもは自分の持ち物かどうか自分でも分からないという現状もある。

自分の人生は自分のものであり、自分を自分が管理し、自分で生活することが生きていくうえでの大原則である。即ち、自立は自己実現の大きな柱でありこの柱が立ち上がらないと、一人の人格の完成へと向かわないものである。

自分を律することは、自分のわがままを抑えるという意味だけでなく、自分自身の向上に向けて自分に働きかける行為に他ならない。さらに、みんなと楽しく暮らすための生きるエチケットも大きなことであり、大変重要な生活上の生きた知恵である。また、友だちと5泊6日寝食を共にすることで、友だちのすばらしさ、思いがけなかった一面を垣間見ることで、他人から学ぶことを自ずと学ぶものである。

小学校の5年生という時期は徐々に自我に目覚めてくる頃である。自我の芽生えは独立への欲求を引き起こす。子どもの発達を認め、できるだけ自立を促す温かな大人の存在が何より必要である。自然学校は子どもが自分の我を抑え、自分のことは自分でやることを通して、自立の苦しさとしらぬ喜びをいやおうなく体験することに意味がある。

☆ 教えないから子どもは学ぶ

「どんなことでも自分でするということに勝ることはない」

ヘルマン・ヘッセ

自然学校と学校での教育の一番大きく異なる点は、自然学校では教科書や黒板、教室といったものがなく、子どもたちが多様な自然の中で伸び伸びと生活する中で学ぶことであろう。子どもたちは自然の中では放っておいても生き生きと生活する。このことの意味するものは、子どもは未熟で指導しないと何もできない存在ではないということである。大人から見て、未熟であろうとも子どもは子ども自身で充分生きる力を持っている。

また、人間というものは他人に頼りにされるとこれまで以上に意欲をもって活動するものである。子どもは指導者が心の底から信頼することで、頑張るものである。この際に考えなければならないことは、指導者は教えたい気持ちを我慢することである。大人はとすると教えたがり、教えること即ち教育、指導と考えがちである。しかし、教えないことの重要性に言及することは意外に少ない。小さくても自前のエンジンを持つことが生きる力の核になる大切なことである。自ら動くためにはひっぱってもらってグライダーであってはならない。なぜなら、グライダーはそれ自身では飛ぶ能力がないからである。グライダーは人に引っ張られたり、押してもらって初めて空を飛ぶ。このことは自然学校の指導にあたって大切なことである。教えられたことはすぐに忘れるが、自分で考え、工夫し、悩み、他人の知恵を真似たりしたことは、決して忘れないものである。それどころか、生きる力の核となって心に残るものである。

☆ 頭で考えることと実際にやることの違い

「目は臆病、手は万力」福本嘉吉

頭で考えることは人間が他の生物と異なる最大の特徴である。しかし、頭で考えることは実際に手や足でやってみることとかなりの違いがある。この違いに気づくことは重要なことである。実社会では情報化が進み一層疑似体験の度合いがたかまっているが、人間はコンピューターの中や疑似社会で生きるのではない。実際に生きるのは、あくまでも現実の自然や人間社会の中である。自然学校で体験するような匂いや感触、汗、涙といった直接的な体験がなければ、人間の全人的な発達には保障されないであろう。

学校教育はある意味では意図的にしくまれているのに対して、自然学校は5泊6日自然の中でみんなと寝食を共にするので、筋書きどおりでないハプニングがつきものである。ここで大切なことは、人間は実際に自分の手足を使って活動をする時、それまで頭の中で考えていたことと全く違うことに気づく。それは人智をこえた大きな自然を人間の頭という小さな窓からのぞくからであろう。例えていうなら、プールサイドでイメージする泳ぎと、実際プールの中で体全体を使っての泳ぎの差である。自然学校では、事前に悩むことがあってもとにかく5泊6日暮らさなければならないのである。その一つ一つの積み上げが自然学校を終えた時、子どもたちの心に自信となって残るのである。だから、事前にいろいろ悩むことがあっても思い切ってやることで道は開ける。頭で考えると絶対に不可能と思われることも実際にやってみると、意外と簡単に乗り越えられることがある。まさしく目は臆病であるが手は万力である。

Ⅲ 指導編

理論編では自然学校が果たす教育的な役割として5つの観点を取りあげて検討した。この考えの上に立ち、具体的な指導に結びつけるためにはどうしたらよいか考えていきたい。

5泊6日の自然学校だけで子どもが変容し成長するということはなかなか難しいことである。子どもの心を耕すことは時間と熱意と根気と技術のいることであり、たとえそれらをもって指導に当たっても教育の効果はすぐ目の前に表れるものではない。子どもの心に響く指導には、自然学校に来るまでの学級、学校での耕しと事後の指導までのトータルな見通しが必要になる。

以下、理論編で考察したことが指導編でどう生きるか、あるいは、指導するならばどのような観点から指導すればよいかを項目として表にまとめた。

	理論編	指導上の項目
1	自然の多様さ、偉大さ、厳しさにたっぷり ひたる ○自然とふれあう ・多様さ ・美しさ ・厳しさ ・畏敬の念 ・神秘さ ○自然から学ぶ ・好奇心 ・危険察知能力 ・治癒力	(1)様々な自然とのふれあい (2)自然と裸でつきあう (3)自然の厳しさに耐える (4)危険との対面
2	ゆとりと深み ○体験から没頭へ ・自由さ ・柔軟さ ・自分からやる ○没頭から楽しさへ ・集中力 ・転移	(1)柔軟な思考、大胆な発想 (2)時間的なゆとり (3)子どもの発想を生かす (4)深みの楽しさ
3	自分で自分を律することの苦しさ楽しさ、嬉しさ ○自分の力で暮らす ・楽しく暮らす ・わがままを抑える ・他人から学ぶ ○共に生きる	(1)小さな我慢の大切さ (2)自分でやること (3)自立の楽しさ (4)友だちと協力する (5)リーダーシップとフォロワーシップの大切さ
4	教えないから子どもは学ぶ ○子どもは自然から学ぶ ○子ども自身の生きる力を伸ばす ・自分のエンジンを持つ ・知恵は使えば伸びる	(1)感動、不思議さ、なぜから学ぶ (2)追いつめることと待つこと (3)子どもの良さを引き出す (4)自分で学ぶ (5)子どもとともに
5	頭で考えることと実際にやることの違い ○体験から学ぶ ○本物の世界にふれる ・ハプニング ・匂い、感触、汗、涙 ・五感を使う	(1)試行錯誤と洞察力 (2)失敗に価値がある (3)本物の体験は感動を生む (4)自分の手足で稼ぐ

指導上の項目

1 自然の多様さ、偉大さ、厳しさにたっぷりひたる

秋の雲海、雨上がりの太陽に照らされる木々、朝日に輝く蜘蛛の巣、きれいな夕焼け、谷川のサワガニ、土の中から生まれ出るセミ等、自然は時々刻々実に多種多様な姿を見せてくれる。しかし、このようなきれいで心洗われるような自然にどれほど現代の子どもたちは接しているのでしょうか。自然学校では自然と腰を落ち着けて対峙し、自然の持つ様々な顔をはだで感じる事が何にもまして大切になる。

(1) 様々な自然とのふれあい

自然学校は、1日24時間、様々な自然とふれあうことができる。例えば、施設探検をする場合でも施設に来た時の1回だけでなく、何日かたって同じ活動をするともまた違った自然にふれることができる。また、夜間の散策(ナイトハイク)は鳥や虫の鳴き声、辺りの感じ、木々のざわめき等これが同じ場所かと思えるほどの違いがある。このように自然との様々なふれあいは時間、場所、活動の人数、同じことを何回も実施する等工夫を凝らせばかなりのバリエーションが考えられる。この際大切なことは、5泊6日の全体の流れに注目し、バランスをとると同時に、子どもの健康状態、精神状態を考えて柔軟に対応することである。

- ☆「自然丸かじり」
- ☆「潮風に誘われて」
- ☆「自然にとっぷり、自然を味わう」

(2) 自然と裸でつきあう

自然にふれあうには、そのふれあい方がある。一番大切なことは先入観を持たずに、虚心坦懐たんかいに自然の中に裸で入りこむことであろう。ともすれば、植物観察でもその植物の名前やその性質等知的な面からの理解を重視しがちである。知的で系統的な理解はもちろん重要なことではあるが、自然学校ではむしろ裸でつきあう楽しさを体験させてやりたい。裸で自然とつきあう意味は、物事とふれあう時に知的な理解だけにたよらないということである。自然ふれあいビンゴ活動でも、植物等の種類を分類したり、マス目に課題を書きそれについて解答するという形式ばかりではなく、自分がこれまで気が付かなかった自然の一コマを自分が感じるままに記入することでより深く自然とふれあうことになる。

- ☆「ちびっこ建築家」

さらに、自然の美しさ、神秘さ、畏敬の念等感じたことをみんなの前で発表したり、絵で表現する等の活動を設ければ深く強く心に残るであろう。

(3) 自然の厳しさに耐える

自然はうつくしくやさしい面と同時に時には人間にとって厳しい面をあわせ持つ。この事は永い歴史の中で、人間が常に自然に対して畏敬の念を持ち続けてきたことでもよくわかる。自然学校では、

- ☆「自分の好きな南但馬！」

自然のすばらしさと同時に自然の厳しさに耐えて活動することも重要である。自然学校で自然の厳しさはどのような場面で見られるのであろうか。例えば、登山が雨のために実施できないとしよう。常識で考えると雨にぬれて道路がすべりやすかったり、子どもの体力面で無理があると思える時でも、やり方や装備等を考えることで雨の時でも実施可能になる。実際にやってみると、雨が横や下から降ったりする体験や霧雨の中に鹿やリスを見ることがあろう。最初は嫌でも思い切ってその気になって取り組むと意外に自然は優しくこたえるものである。この一枚突き破った体験を通して一層自然の懐の大きさを感じるものである。

(4) 危険との対面

人間に本来備わっている力もそれが必要とされない時には開花しない。自然学校では、普段の生活ではできないちょっと危険なことでも子どもたちの体調や周囲の状況を考慮することで、活動が可能になる。

例えば、山の中でのけもの道体験を例にとろう。比較的樹木の生えていない稜線の雑木林を一人一人バラバラで下る500メートル程のコースを設定する。もし、恐がって行くことができないようだったら2メートル幅くらいの帯状のコースを設けてもよい。樹木の枝がしなり、はねかえって顔にあたったり、切り株に足をすくわれたり、蜘蛛の巣が顔についたりする。こういう普段の生活では体験できないちょっと危険なことが子どもには必要なことであろう。その際、いきなり危険なことを体験させるのではなく、段階を追った活動を展開することが必要であろう。

☆「挑戦！ 生き物博士！」

2 ゆとりと深み

物事を理解するにも段階がある。同じようにわかったといっても表面だけの場合もあるし、表面を突き抜けて核心に迫るわかり方もある。自然学校では、言葉のうえだけの理解（もちろん言葉の理解も重要な学習である。）を越えて物事を本当にわかるためには、時間的にも精神的にもゆとりが必要となる。また、ゆとりと同時に物事に没頭し深く集中するという深みの体験も物事を本質的に理解することにつながる。

自然学校ではこのゆとりと深みを活動や生活の中に生かしていく必要がある。

(1) 柔軟な思考、大胆な発想

子どもが生き生きと活動するため、まず指導者が持たなければならないことは、子どもの実態や状況に応じて、柔軟な思考と思いついた大胆な発想である。柔軟な思考と大胆な発想はどうしたら生まれてくるのか。それは、基本的には指導者自身の自由さ（とらわれの

☆「創ろう！ ぼくたち・わたしたち
の自然学校大作戦」
☆「アートin南但馬」

なさ)から生まれる。自然学校では普通の学校ではできない思い切った取り組みが実践できる絶好の場である。

例えば川遊びを例にとろう。子どもたちは最初川遊びというと魚とりを連想するかもしれない。しかし、実際に川に行くと、そこには水たまっているやや深い淵があり、また浅いが流れの速い瀬もある。最初は魚を釣っていた子も魚でないイモリやヤゴ、カニ、カエル等と遊びはじめる。生き物を小石で囲いこんで牧場を作りはじめる。気がつくと川原がたくさん生き物がいる小さな動物園になる。そういう自由さの中で柔軟な思考や大胆な発想が生まれるのである。

(2) 時間的なゆとり

活動にあたって一番見落としがちなのが時間的なゆとりである。時間に余裕がないと、指導者も子どもたちも活動自体に追い立てられイライラしてしまう。そしてその活動で一番ねらっていたことが時間切れで焦点がずれてしまうことになる。また、じっくりと時間をとって活動することは、集中力を高め、工夫を生み、さらには次への意欲を喚起することにもつながる。また、時間のゆとりのもう一つの機能は、熟成ということである。自分の中でゆっくりとねかし、時を経るとものごとを深く広く把握することができる。

ゆとりは一つの活動について時間をとるという考えだけでなく、一つの事を5泊6日の間、空いた好きな時間にゆったりとした気持ちで活動できるという意味をも示す。

大切なことは漫然とたっぶり時間をとるだけでは、子どもたちは深い集中を見せない。漫然とした時間を少なくし、指導者が子どもの心に減り張りをつけて活動に取り組む必要がある。

☆「チャレンジ II」

(3) 子どもの発想を生かす

この考えは自然学校の底流にある一番重要なことである。ただ、子どもの発想をまとめあげ一つの具体的な流れにもっていく力量が指導者に求められる。この力量は子どもの思考を解釈する力とも考えられる。つまり、いろいろな雑多な発想を汲み上げコーディネートすることが求められるのである。

料理づくりを例にとってみよう。子どもの発想を生かすには食材を買うことから活動させる方がよい。準備する鍋や食器などいるものを自分たちで考え、相談しながら調理することで子どもたちが自分たちで考える力を発揮できる。その際に子どもの発想を生かすためには、子どものつぶやきや思いつきなどを見のがさないという指導者の力量が求められる。

☆「わたしたちにまかせなさい」

☆「風の中のわたし」

☆「自分の好きな村」

☆「広げよう、わたしたちの世界」

(4) 深みの楽しさ

物事に深く入りこむとこれまでと全く違う観点で物事が見えてく

☆「海辺満喫！ & 海に挑戦！」

る。物事に深く入りこみ、没頭することは感性を研ぎ澄まし、次への意欲につながる。木の葉の皿づくりという活動を例にとろう。この活動はヤマナラシ、クヌギ、ホオの葉等自分の気に入った材料探しから始まる。しかし、面白く楽しいのはこの材料探しである。虫が喰っているのもまた面白いし、2枚を重ねて1枚にしてもいい。このように一つの活動に深く入りこむことは子どもの気持ちを思い切り集中し、思考力を高めることになる。また、この深みの体験こそがやり遂げたという満足感や次も作ってみようという意欲を生み出すのである。

3 自分で自分を律することの苦しさとしら、嬉しさ

子どもたちは自分の力で何とか自然学校の5泊6日を暮らそうとするとき、様々な苦しさや楽しさ、嬉しさを体験することになる。自律という力は、活動だけでなく自然学校の生活そのものの中で鍛えられるものかもしれない。指導者は子どもの実態をよく把握して、活動とともに子どもたちの食事や風呂といった生活上のことも自分たちで考えてやらせるのがよい。

(1) 小さな我慢の大切さ

小さな我慢を体験させることは現在の子どもたちにとっては大切なことである。登山を例にとると、登る時はしんどいし疲れるので嫌々歩いていた子どもも、頂上では別人のように晴れ晴れとし嬉しそうである。つまり、自分で我慢しなんとか活動をやり終えた時に感じるすがすがしさを子どもたちは体験したのである。このすがすがしさの体験が次への意欲を生むのであろう。

一方子どもたちをとりまく生活の実態として、少子化と核家族化が進み、家族の人数が少なくなり、家庭で我慢することが少なくなってきた。ところが自然学校に入ると毎日の生活で、集団で行動したり、活動したりする機会が多くなってくる。そこでは当然小競り合いが日常茶飯事に噴き出すことになる。ちょっと自分を抑えることで、みんながスムーズに生活できることに気づけばしめたものである。ちょっとした言葉掛けも大切なことがよくわかる。自分が困った経験をもとに、友だちはそういうことがないようにという小さな配慮で友情が生まれることがある。

(2) 自分でやること

自然学校では基本的に家庭と違って自分のことは自分で処理せざるを得ない。ここに大きな目に見えない自然学校の良さがある。これまでには自然学校の活動の開発に目を向けてきたが、子どもたちが自分のことは自分でやるという視点も大切であろう。このことは5泊6日の自然学校実施中はもちろん、事前、事後の生活にも大きな影響を与えらると思える。

☆「これが、われらのアドベンチャー！」

☆「ザ・サバイバル体験記」

☆「ディビー村でくらそうよ」

自分でやるということは同時にやり終えたあとの達成感や満足感を体得させる。先生に指導されてする活動よりも、自分で課題を見つけてする活動の方が、深い満足感を覚えるものである。

(3) 自立の楽しさ

自分で自分のことがきちんとできることは次への意欲につながる。自然学校では生活上のことだけでなく、活動面でも自分がこれまでできなかったことに挑戦し、それができると自分に自信を持つことがよくある。包丁で皮を剥くことがどうしてもできなかった子どもが、自然学校でやってできるようになり、以後自分に自信を持った例もある。こういった体験こそが自立への第一歩といえる出来事であろう。そして自立することが心地よい楽しいことであることを実感できるのである。

☆「広げよう、わたしたちの世界」

☆「エンジョイ！ 脱現代文明」

(4) 友だちと協力する

一人だけではできないことを友だちと協力して取り組むことでずんわりできてしまうことがある。飯盒炊飯やテント泊等はお互いに協力しないとできない活動である。友だちと協力する時に子どもたちは自分と他者との関係やがまんの意味を学ぶ。この意味で5泊6日の中で、ほとんどの活動は協力ができない活動であろう。このことを上手に活動に使う必要がある。

☆「おかげで助かったよ！」

☆「原始人になろう」

☆「ほくら わたしらのトライ」

また、この友だちとの協力を育成するプログラムは、学級、学校の日頃の耕しの上に立つことで一層深い強い絆となるのである。

(5) リーダーシップとフォロワーシップの大切さ

人間関係を築いている要素に、リーダーシップとフォロワーシップがある。この2つの関係はどちらが優位かという性質のものでなく、どちらもがからんでいるものだ。これまでともするとリーダーシップに目がいきがちであったが、もう一方のフォローも大切なことである。たとえば、自然学校で夕食前にフリーな時間があったでしょう。そこで、一人がリーダーシップをとり、「トンボ捕りをしよう」と提案する。そこで、「うんやろう」という反応を示すのと、「しょうもないからやめよう」というのでは天と地の差がある。できるだけいろいろなことに反応し、積極的に物事に取り組む集団こそよりよい人間関係が築かれた集団であろう。

☆「自分で食べるぞ！ 自然学校」

4 教えないから子どもは学ぶ

自然学校で学ぶことは頭で考えることと異なり、実際に様々なことに挑戦し、体験することである。一人一人の成育歴等の違いから、同じことを体験しても受け取り方は様々であろう。だからといって、指導者は何も教えずにいいのかという疑問が残る。これに対する答えは、教えずに見守るである。このことは、教えることよりはる

かに力量のいることである。そのためのいくつかの視点を以下にあげてみる。

(1) 感動、不思議さ、なぜから学ぶ

物事に感動したり、不思議に思ったり、なぜだろうと考えることから本当の活動は始まる。自然学校での活動においても同様であろう。草木染めを例にとると、まずタマネギの皮で染めてみる。きれいに染まると、次に子どもたちはどうしてタマネギの皮だけなのにきれいな茶色になるのだろうか。他の植物ではどうだろうか。一体なぜ色が染まるのか。古代人の着ていた衣装も色がついていたが、何を材料に染めたのか等染め物の歴史に興味をもつ子もいよう。これら「感動」「不思議さ」「なぜ」から活動が始まり、次々に新たな課題を見つけることへ発展させることも大切なことである。

(2) 追いつめることと待つこと

この2つのことは相矛盾することである。しかし、自然学校においては使い分けて指導することが重要である。追いつめることと待つことは子ども自身に考えざるを得ない状況をつくることである。それは、ソクラテスが産婆術という手法で弟子たちを導いたのと同じことである。時には厳しく突放すことがその子にとって大切なこともある。また、時にはただひたすら待つことが重要なこともある。その底にあって大切なことは、子どもを真に信頼することである。

※ 対話によって相手の無知を自覚させ、真の理解へ導く方法。

(3) 子どもの良さを引き出す

子どもという存在は他人のために何かをしたがる存在である。そのことは承認への欲求である。自然学校では様々な活動をするので、学校よりも子どもの良さに気づくことが多い。そこで子どもたちのキラリと光る行動に対して誉めることがポイントであろう。誉められることで子どもたちはさらなる行動へと意欲づけられる。ただ、子どもを誉めるには指導者側にも、その良さに気づく豊かな感性と鋭い観察力が必要である。子どものどんなところや何を誉めるかは指導者の力量にかかっている。

☆「いたずら大好き！」
☆「自分で食べるぞ！ 自然学校」

(4) 自分で学ぶ

学び方を学ぶというのが課題解決型学習の手法である。自分で課題を見つけていく楽しさを知れば充分活動できる力を子どもたちは本来持っている。

自然学校では子どもが自分でやったといえる人気のある活動の一つに手打ちうどんがある。手打ちうどんがなぜ人気があるのだろうか。基本的には手打ちうどんはうどん粉と水、少々の食塩あとはひたすらこねて、のばして、切ってゆがくことだけである。しかし、

うどん粉に水をいれ、こねはじめると手に粉がひっつき手がどろどろになる。それをさらにこねていくと、だんだんうどんの塊になってくる。単純な作業であるが、不思議な感覚である。こねたうどんを麵棒^{めんぼう}でのばし、切ってゆがく。この作業も子どもたちは大喜びである。常に自分が積極的に取り組まないとできない活動であり、しかも最後は自分が作ったものを食べるができるのが魅力なのであろう。

(5) 子どもとともに

指導するのでなく、子どもとともにある存在は子どもにとってとても有難いものである。指導者は子どもが困ってもすぐに解決しないで、一緒に困る存在であること。この重要性はいくら強調してもしすぎではない。指導者が子どもの目の位置で指導すると今まで見えてこなかった子どもの姿が見えてくる。竹トンボ作りの活動でも、指導者が思わずその活動に熱中し、一生懸命に取り組んでいると、不思議に子どもたちが指導者の周りを取り囲み、楽しい雰囲気醸し出すことがある。まさしく、指導者は子どもとともにあることの重要性を示唆するものである。

☆「ふれあいウィーク」

5 頭で考えることと実際にやることの違い

自然学校のねらいは子どもたちが活動を通して、心と体を鍛え、生きる力を育むことにある。自然学校では自分の五感を使い、5泊6日実際にものごとにチャレンジし、積極的に過ごすことが何より大切である。何かをやろうとすると、失敗や試行錯誤はつきものであるし、悩むことも大事なことであろう。ゆったりとした時間、空間の中でじっくりと取り組むことが大切であろう。

(1) 試行錯誤と洞察力

実際に一つの活動に挑戦する際に、どうしてもぶつかる壁がある。それは、こうしたらできるはずなのに上手^{うま}くいかないということである。マイギリ式火おこし器で火をおこす活動がある。堅い心棒で柔らかな杉板をこすり炭素をため、それが摩擦熱で自然発火する原理である。しかし、頭でわかっても実際にやってみるとなかなかできないものである。ここで必要となる力は試行錯誤と物事を直感的に把握する洞察力である。何回か取り組んでいるうちに、心棒を摩擦させる時に押さえるようにした方がいいこと。途中で止めずに一気にやった方がいいこと等々、子どもたちは考えはじめる。ここが一番大切な点である。

☆「チャレンジ II」

(2) 失敗に価値がある

自然学校では失敗を大切にし、その失敗を価値づけることが大切である。むしろ自然の中で失敗はつきもので、失敗がないのは本当

☆「何回も挑戦するよ！」

の活動をしていないといっても過言ではない。だから指導者は子どもの失敗を失敗のまま終わらせず、それを発展的にとらえることが必要になる。飯盒炊飯でご飯の炊き方を失敗し、ご飯粥がゆのようになったとする。一回だけの活動なら失敗であるが、次回の炊飯にもう一度チャンスを与えれば今度はかなりうまくなるであろう。

(3) 本物の体験は感動を生む

偽物と本物の違いは体験してみるとすぐに分かる。偽物は奥行や幅、深みに欠けるが、本物はそれ自身に感動を与えるものを内在している。

早朝登山にチャレンジした学校がある。秋の霧の中に、突然鹿があらわれた。目と目があつたような感じで自分も動物と一体化し、まるで仲間のように感じた感想に書いている。また、キツツキの仲間のコゲラが木をつついたりしているのを見つけたり、樹を逆さにおりてくるリスを見つけて感動したということを書いている。本物に出会う体験はそれ自体が感動を生むものである。自然学校ではこういう本物体験をさせたい。

☆「ぼくたちのふれあいヒストリー」

(4) 自分の手足で稼ぐ

自然学校での活動は自分の手足で稼ぐことに意味がある。その際に自分の五感を全開することが大切である。山の中を一人で歩く活動がある。その時には、あらゆる感覚のアンテナを張り巡らせて活動する。ここは陽当たりがよいが木の葉の裏にハチがいそうだとか、ここはじめじめしているから、マムシがいるのではないかと思ったりしながら歩くことで、自然を身体全体で把握することになる。つまり、実際に自分の手足を使って活動する時、人間は全力で物事に集中して取り組むのである。自然学校では子どもが自分の手足や身体全体で体験する活動を取り入れることが必要である。

☆「スーパーマンになろう！」

以上、理論編の5つの観点を受けて、それを実現するために必要な指導上の項目を取り上げてきた。この項目はお互いが密接に関係して、単純にこれを達成するためにこれをすればよいというようなものではない。そのことは、自然学校の持つ教育的な意義の多様性や自然学校の効果の大きさを逆に証明している。そして、これらの指導上の項目は、お互いに響きあい、刺激しあい、高めあう教育的な転移機能を持ちながら、子どもたちの主体性を伸ばす生きた力となるものである。

実践編のプログラムにあらわれた指導上の項目一覧表

◎印は、中心となるねらい
○印は、関連するねらい

指導上の項目 作成プログラム名	1-(1) の様々な自然と	1-(2) 自然と関わりあ	1-(3) に耐える	1-(4) 危険との対面	2-(1) 大胆な発想、	2-(2) 時間的なゆとり	2-(3) 子どもの発想を生かす	2-(4) 深みと楽しさ	3-(1) 小さな我慢の大切さ	3-(2) 自分でやること	3-(3) 自立の楽しさ	3-(4) 友だちと協力する	3-(5) リーダーシップ	4-(1) 感動、不思議さ、なぜから学ぶ	4-(2) 追いつめることと待つこと	4-(3) 子どもの良さを引き出す	4-(4) 自分で学ぶ	4-(5) 子どもとともに	5-(1) 実行錯誤と洞察力	5-(2) 失敗に価値がある	5-(3) 本物の体験は感動を生む	5-(4) 自分の手足で稼ぐ
自然丸かじり	◎	○		○			○					○	○				○					○
湖風に誘われて	◎					○												○				
自然にどっぷり、自然を味わう	◎			○		○		○		○	○	○	○		○	○	○					○
ちびっこ建築家	○	◎		○	○	○						○				○		○	○		○	
自分の好きな南但馬!			◎																			
挑戦! 生き物博士!	○			◎			○	○						○		○						
創ろう! ぼくたち・わたしたちの自然学校大作戦					◎		○					○										○
アート in 南但馬	○				◎		○	○				○										○
わたしたちにまかせなさい							◎					○										
風の中のわたし	○	○					◎															
自分の好きな村!					○	○	◎														○	
海辺講堂! & 海に挑戦!	○			○		○	○	◎								○			○		○	
これが、われらのアドベンチャー!			○	○	○	○			◎	○	○	○					○					○
ザ・サバイバル体験記	○		○						◎							○						
ティビー村でくらそうよ			○							◎	○	○										
広げよう、わたしたちの世界	○	○				○	○	○	○	○	◎	○	○						○			
エンジョイ! 臨現代文明						○	○			○	◎	○	○		○	○	○		○	○		
おかげで助かったよ!										○		◎										
原始人になろう!		○			○	○	○					◎									○	
ぼくら わたしらのトライ							○					○	◎				○	○				○
自分で食べるぞ! 自然学校							○						◎									
いたずら大好き!	○	○				○	○	○				○				◎						
ふれあいウィーク		○				○	○		○									◎			○	
チャレンジ!!	○				○							○							◎	○		
何回も挑戦するよ!					○	○					○	○							○	◎		
ぼくたちのふれあいヒストリー		○				○	○										○				◎	○
スーパーマンになろう!	○					○						○									○	◎

IV 実 践 編

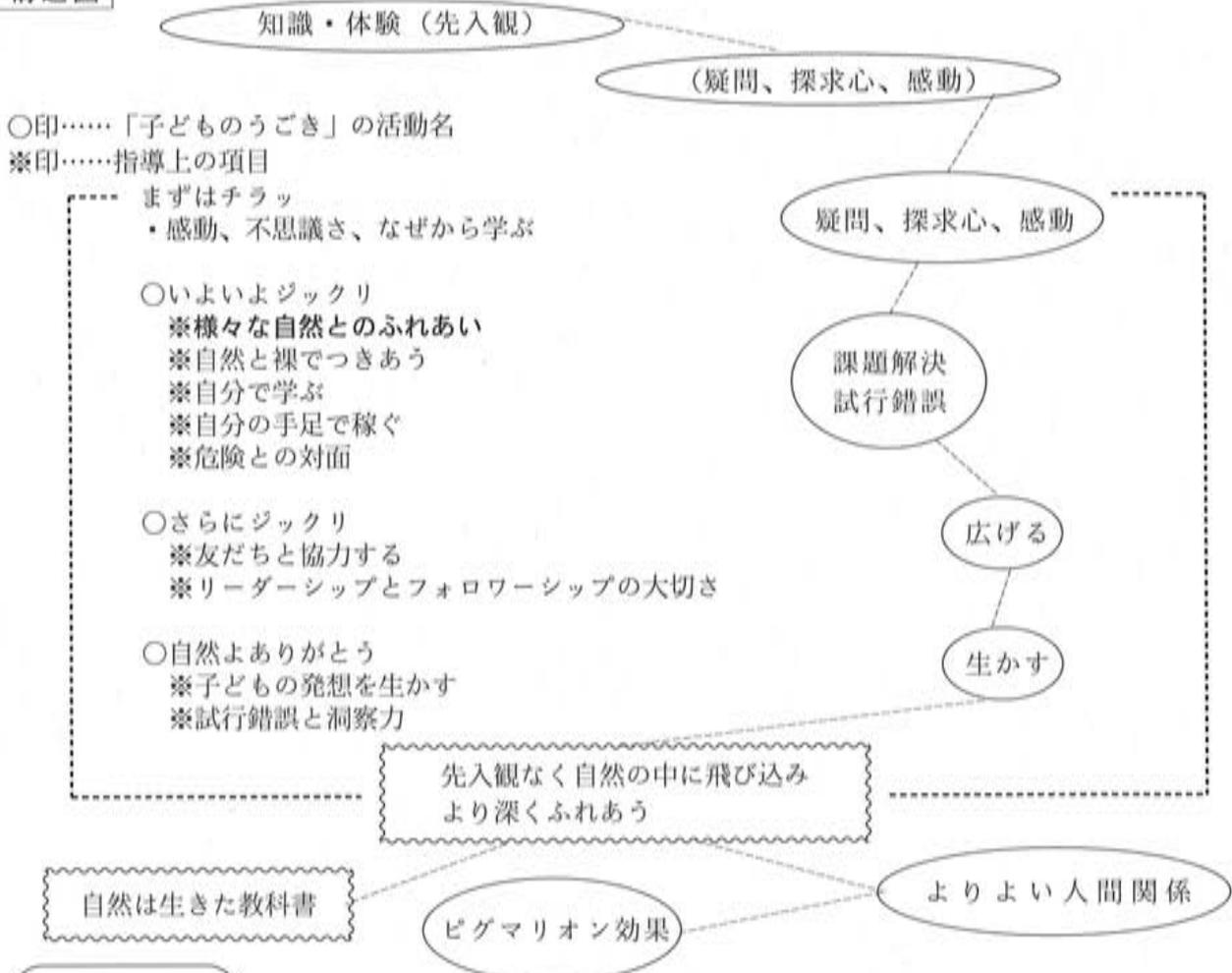
自然丸かじり

◎このプログラムでねらうこと

自然の中で先入観をもたずに飛び込んでいき、知識だけに頼らないで新しいことを見つけることで、より深くふれあう。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	まずはチラッ ・地図作り ・ビンゴ形式カード	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりと回り施設の様子を知る。 ・一人でもグループでもよい。 ・疑問や関心をもつようなめあてで回る。
2 日 目	いよいよジックリ ・広く感じよう (山・滝等のハイキング)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動形態は、各自の意欲を大切にしながら、内容や場所によって危険面を配慮して考える。 ・準備物等も指導者と相談して自分たちで取り組む。 ・めあてを決めて活動範囲を選択する。 ・五感を使ってじっくりと活動し、感じるまま記録することにより確かなものにする。 ・夜の自然を味わう事も考える。 ・中間発表会をもつことでヒントを得たり、さらなる意欲を喚起したりする。
3 日 目	・深く感じよう (動物・植物・昆虫等の観察)	
4 日 目		
5 日 目	さらにジックリ ・裸で語ろう (報告会、自然物ゲーム大会)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が取り組んだこと、見つけたもの、作り上げたもの等の発表会をする。 ・体験したことや見たり聞いたりしたことから、今後の自然に対する気持ちへつなげる。 ・会場は自然の中が好ましい。 ・自然物を使ったゲームを作る。 ・友だちとのふれあいをもつことを考える。
6 日 目	自然よありがとう ・自然物から創り出そう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作りたいものを選択し、材料・作り方などを調べながら作る。 ・作るものは、残るものもその場で楽しむものもある。

構造図



Q & A

- Q：1日目に回るときのめあては、そのときに見つからなくてもよいのでしょうか？事前に決めないと難しいのでは？
- A：課題解決だけでなく、活動している際の感動や発見も含めて考えればよいでしょう。期間中に解決できない場合には、事後へとつなげていく観点でアドバイスをしましょう。
実態にもよりますが、あらかじめ疑問や知識を自主的にまとめておき意欲を喚起するような指導もあっていいでしょう。指導者が活動場所や児童の実態をより多くつかんでおくことは、児童への意欲付けにも大きく影響してきます。
- Q：自然物から創り出す時はどのような関わりを持つのでしょうか？
- A：施設のプログラムとして完成されているものの他に、児童が自由に考案したものができるよう進めたいものです。人、物、資料等の準備をして意欲的に製作させたいです。ワークショップのような形式でも、始終指導を受けるのではなくアドバイスが提供できる場とするように考えるとよいでしょう。
- Q：5日目の集いの内容や形態はどのようなものが好ましいでしょうか？
- A：この集いが目標の一つにもなりますが、自然との出会いや感動・意欲のまとめだけではなく、人との真のつきあいということも意識します。友だちに対して気づかなかった一面を感じさせることができるとよいでしょう。そのためにも、発表会という形に終わらないで自由に語らいがもてるような雰囲気作りをして進めたいものです。
ゲームについては、自然ふれあいゲーム、ビンゴゲーム、集団ゲームのようなものをアレンジしてグループや全体で活動するとよいでしょう。
- Q：事後活動にはどのように結びつけられるでしょう？
- A：新聞をまとめたり、自然・環境について調べたり、地域のことと結び付けたりする機会を設けることができます。いつか自主的に取り組んでいく姿勢も現れることを期待して心に響いた活動を体験させたいものです。

潮風に誘われて

～ 海辺の自然探し ～



◎このプログラムでねらうこと

なんといっても海辺はそれだけで、魅力あふれたフィールドです。なにかワクワク・ドキドキの体験が海辺を歩くだけでも予感され、心ウキウキします。このようなワンダフルな自然をゆったりした時間の流れの中で、感じることをねらっています。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	海辺のさんぽ	ここは、どんなところ？ ・海辺にはなにがあるかな？ ・海の中にはなにがいるかな？ 地球は丸いかな。 ・大の字になって砂浜に寝っころがってみようか。
2 日 目	砂や貝であそぼう	ぼくらはちびっこゲイジユツ家。 ・海辺のいろいろなもので時間を忘れて遊んでみよう。
3 日 目 ・ 4 日 目	いかだを作って 海へ漕ぎ出そう！	風や波にゆられてみよう。 ・向こうの島はどんなところ？ ・ちょっと冒険していかだで行ってみようか。
5 日 目	みんなでアート！ 最後の夜を楽しもう 思い出を話そう	思い出を創ろう。 ・自分たちだけの思い出を創ってみたいね！ 星空のもとで潮騒を聞こう。 ・せんせいあのね。
6 日 目	海辺をもとに！	感謝しよう。 ・またくるよ！

指導者の指導のポイント

海での事故は直接的に人命に関わる重大な事故につながっています。ですから安全確保は重要であり、万全の体制で臨むことは欠くことができません。

しかしながら、なんと言っても海はそこにいるだけで魅力あるフィールドです。ともすると活動に没頭してしまうかもしれません。そのために5泊6日のプログラム全体に十分な時間的ゆとりを持たせることが大切です。そして、子どもたちの自由な活動を温かく見守るとともに、可能な限り教師も子どもたちと遊びや創作活動などを一緒になって体験し、子どもの目線の高さを実感する機会とし、心の通い合う活動にすることが重要です。

Q & A

Q：海岸を散策するときどのような指導をすべきか？

A：海岸を散策すると、まず海の香りに出会うでしょう。それだけではなく、子どもたちは海草・貝、色々な漂着物など普段見かけない多くの発見に出会うことができます。

指導者としては、子どもたちの発見を丁寧に聞いてやるのが大切です。また、5日目の作品を創る素材集めの時間としても生かすことができるでしょう。

Q：アイデアのない子は？

A：アイデアを相談することを利用して、ゆとりある時間を子どもたちとの対話の時間と考えればよいです。指導者も一緒に砂遊びなどをしながら子どもと同じ視点に立って2人・3人と対話してみても良いでしょう。

Q：いかだ等で遊ぶ基本は？

A：まず安全確保がポイントです。海での活動は直接的に人命と関わります。事前の現地踏査や実施時期及び当日の天候の予測、監視体制、緊急時の救急体制を指導者全員で確認することが重要です。

また、装備（救命胴衣・救助ロープ等）等の事前の点検も欠くことはできません。いかだの材料などは竹・チューブ・発砲スチロール等を使い、ロープでしっかり固定し組み立てましょう。

Q：全員が楽しく参加するためには？

A：みんなのアイデアの具体化をしっかりと計画することがポイントです。また、必要な材料なども多めにあった方がよいでしょう。また、学級ごとのコンテストをするなど、子どもたち相互の創作意欲を刺激するのもよいでしょう。

最後に工夫した点やできばえ、困ったことなどを発表させる機会（ふりかえり）を持つことも大切です。

Q：清掃活動での指導は？

A：子どもたちが魚釣りをする機会等海に親しむことも多いので、てぐすのからまった海鳥の悲惨な話等をもとに、海辺で遊ぶマナーも指導するとよいでしょう。

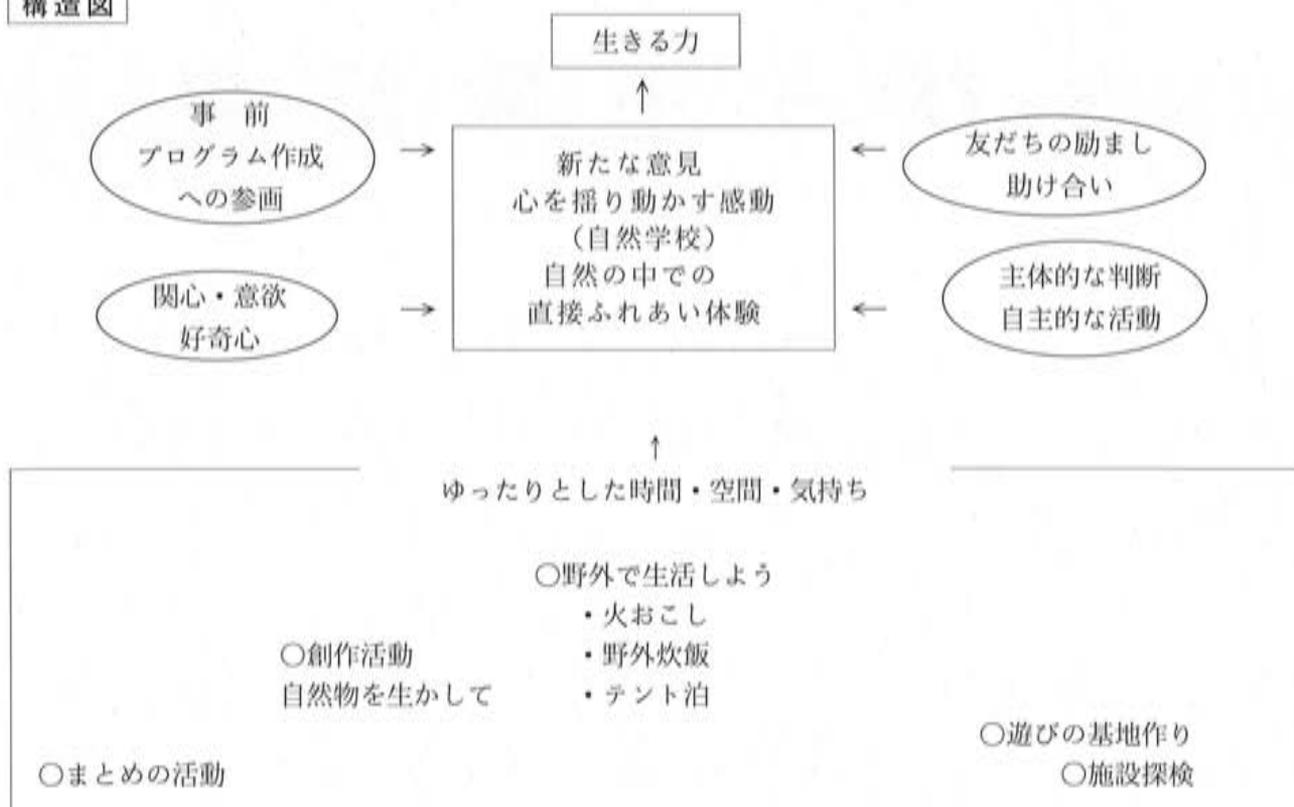
自然にどっぷり、自然を味わう

◎このプログラムでねらうこと

さまざまな自然とのふれあい活動を通して、自然の多様さ、偉大さ、厳しさを実感する。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	施設を探検しよう 情報を交換しよう	<ul style="list-style-type: none"> 施設案内図を持って自由に散策する。 (個人活動も可) 2日目からの選択活動の下見をしよう。
2 日 目	遊びの基地を作ろう <ul style="list-style-type: none"> ターザンごっこ 川遊び(水生昆虫) バードウォッチング 昆虫観察 森探検 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気に入った場所で自分のやりたい遊びを友達を誘ってやる。 施設をフルに活用した遊びをする。
3 日 目	野外で生活しよう <ul style="list-style-type: none"> 食材の買い出し テント設営 ご飯炊き 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に子どもたちが班で計画したプログラムにそった活動をする。 準備物等の用意もできるだけ自分たちの手で取り組む。
4 日 目	<ul style="list-style-type: none"> 火おこし おかず作り 星空ウォッチング 	
5 日 目	創作活動をしよう <ul style="list-style-type: none"> 焼き板 植物のしおり 草木染め 竹細工 自然物クラフト 	(個人選択活動) <ul style="list-style-type: none"> たっぶりの時間の中で、自分のやりたい作品作りに取り組む。 自然の恵みを使って作品を作る。
6 日 目	まとめの活動をしよう <ul style="list-style-type: none"> 清掃 片付け 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの計画に添った活動をする。 係の分担の責任をしっかりと果たす。

構造図



※様々な自然とのふれあい
※深みの楽しさ
※自分で学ぶ
※自立の楽しさ
※自分でやること

※時間的なゆとり
※追いつめることと待つこと
※友だちと協力する
※子どもの良さを引き出す

※感動、不思議さ、なぜから学ぶ
※自分の手足で稼ぐ
※リーダーシップとフォロワーシップ
※危険との体面

指導者の指導のポイント

このプログラムは、1日目と2日目で自然との直接体験を通して自然の多様さ、偉大さ、厳しさにどっぷりとひたらせる。

3日目、4日目、5日目で子どもたちが計画してきたプログラムに添った活動をする。指導者も子どもたちと同じような活動をやってみせることは必要だが、教え過ぎずに子どもを信頼して待つ姿勢が大切である。教えられたことは、すぐに忘れるが、自分で考え、工夫し、悩み、他人の知恵から学んだことは、いつまでも心に残り、生きる力の核となるからである。

Q & A

Q：虫を大変こわがる子や皮膚にアレルギーのある子の活動は、どのようにするとよいでしょうか？

A：アレルギーに対しては、服装に気をつけさせたり、いざというときのための薬やどんな注意が必要か良く話してやり、不安をできるだけ取り除いてやるのが大切です。また、その子の支えになれるような友だちや指導体制も考えておくとよいでしょう。

ちびっ子建築家

◎このプログラムでねらうこと

子どもたちが本来もっている好奇心を呼び起こし、ダイナミックな活動を通して、自然の多様さ、厳しさにふれあう。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	調査隊になろう	<ul style="list-style-type: none"> ・すみかを作るのに好ましい場所を考えながら歩く。 ・グループで活動し、時間をかけて行う。 ・個人の考えは十分にふくらませる。
2 日 目	設計技師になろう	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の考えも尊重しながらどんな形にするか、場所はどこがいいか相談する。 ・必要な器材を集める。
3 日 目	大工さんになろう	<ul style="list-style-type: none"> ・場所や道具等の安全に注意しながら作る。 ・使える自然物で装飾等させることも工夫する。 ・生活しながら不十分な部分に気づきながら、どんどん発展させる。 ・無理のないよう、宿泊にも挑戦してみる。 ・天候や時間による自然の変化にも気づく。
4 日 目	展示会を開こう 遊び場交流会 ・ターザン ・木登り	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループのすみかと交流をもつ中で、情報交換をしながら意欲の喚起を図る。 ・セールスポイントを紹介する。
5 日 目	・かくれんぼ等 ・食事会 ・自然のものを食べよう	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び場の自由交流も考える。 ・ゆとりをもって、いろいろな野外炊さんにも挑戦する。
6 日 目	自然に返そう	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や写真を残し、すみかを元に戻す。 ・自然を守ることや片づけのマナーを考える。

構造図

- 調査隊になろう
 - ※自然と裸でつきあう
 - ※柔軟な思考、大胆な発想
- 設計技師になろう
 - ※友だちと協力する
- 大工さんになろう
 - ※様々な自然とのふれあい ※危険との対面
 - ※試行錯誤と洞察力
 - ※時間的なゆとり
- 展示会を開こう
 - ※子どもの良さを引き出す
 - ※子どもとともに
- 自然に返そう
 - ※本物の体験は感動を生む

○印…「子どものうごき」の活動名
※印…指導上の項目



指導者の指導のポイント

このプログラムは、子どもがもっている好奇心を十分に引き出し、自然の中でダイナミックに行動させることに重点を置く。

頭で考えることや疑似体験との違いを、自然の中で体験することのギャップにも気づくであろう。そんな中で自然の偉大さや多様さを感じる。

また、友だちと協力したり友だちから学んだりしながら、試行錯誤と洞察力を高めさせる。指導者はここでは、子どもの良さを引き出すための豊かな感性や興味関心を引き出すことに重点を置く。

Q & A

Q：活動場所についての安全面での対策、範囲の設定などが心配なのですが……

A：活動場所の危険箇所や動植物の知識は、下見等を含めて十分しておく必要はあります。

必要に応じて道具の使い方などの製作についても事前指導を考えましょう。

それらも考慮して活動の範囲は、場所にに応じて考慮することも必要でしょう。しかし、あらかじめ指定するのではなくて、児童の希望を十分聞き、危険回避についても気づかせたり理解させることで、柔軟性や大胆な発想を生かすことを大切にしたいものです。

Q：どのようなものを作れるのか事前指導をしておく必要はないのでしょうか？

A：ケースバイケースで進めるとらえ方でよいでしょう。

図や模型などで事前に頭で考えさせることもできるでしょう。その場で試行錯誤をしながら友だちと頭をひねることもよいでしょう。画一的な建物のイメージではなく、いろいろな様式の建物が並ぶのを楽しむぐらいの気持ちでスタートしてみましょう。

Q：泊まったり食事をしたり生活の部分に統一性はいらないのでしょか？

A：出来映えに差が出てくるのも試行錯誤の結果で当然でしょう。結果よりも過程を大切に、そして、価値あるものにしたいものです。ただし、健康・安全に関することでの避難場所や補助的な道具は対応できるように準備します。当然、子どもの意欲を大切にしたい場面での設定なども忘れずに。

Q：せっかく作ったものを元に戻すのは、達成感を半減させそうな気がするのですが……

A：基本的には、制作段階に大きな意味を持つのであり、この大切な時間をまた他の子どもたちが体験するための活動であると考えます。いろいろな状況によっては、特別な場合も出てくるでしょうが、活動場所の条件やその自然学校のねらい等と関係づけて考えることになります。

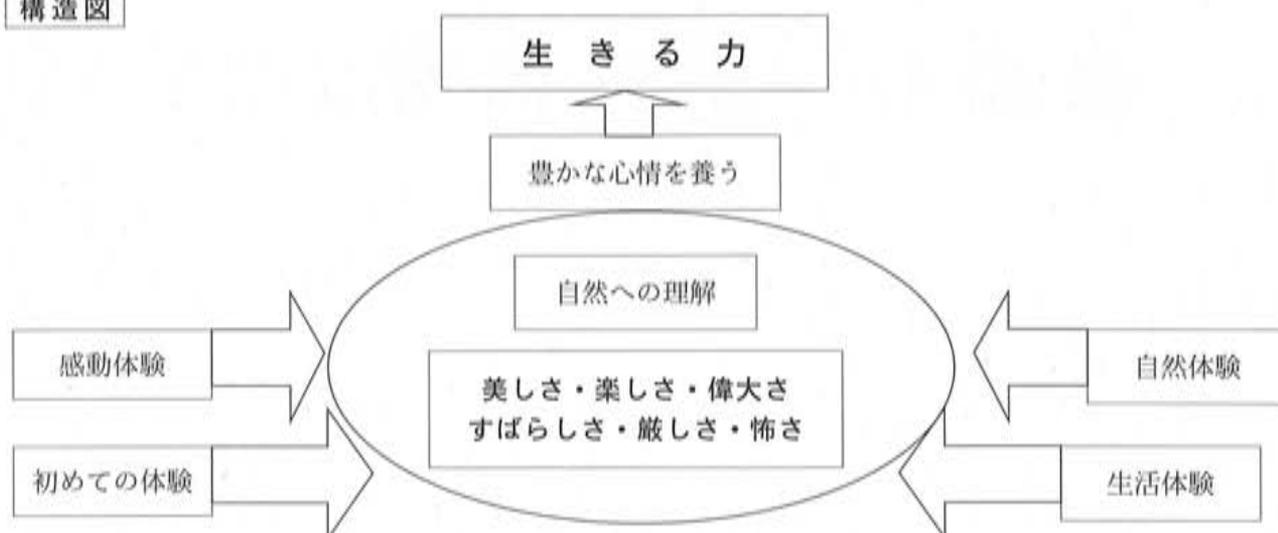
自分の好きな南但馬！

◎このプログラムでねらうこと

自然の多様さ、偉大さ、厳しさにたっぷりひたる。自然のすばらしさや厳しさを発見する。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	施設内を散策する	<ul style="list-style-type: none"> • どんな自然が発見できるかゆっくり散策する。 • 班で行動する。 • 施設マップをもとに多少の雨でもチャレンジする。
2 日 目	地域エリアをゆっくりと歩く	<ul style="list-style-type: none"> • 川、公園、あぜ道を散策する。 • 興味のあるポイントを見つける。 • 危険な動植物に注意する。 • 長い道のりもみんなで歩けばもっと楽しい。
3 日 目	竹田の町並みを散策する	<ul style="list-style-type: none"> • 寺町通りをゆっくりウォーキングする。 • 地図で町の様子を調べておく。 • 虎臥城公園周辺の小川の鯉をじっくり観察する。
4 日 目	竹田城跡へ旅をしよう	<ul style="list-style-type: none"> • 竹田城跡への登山に挑戦する。 • 築城の様子について話を聞く。 • 天守台（353.7m）から南但馬を感じよう。
5 日 目	私の見つけた南但馬を紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> • 班ごとに南但馬で見つけた好きなポイントを発表する。
6 日 目	まとめをする	<ul style="list-style-type: none"> • 各自が感じた自然のすばらしさや厳しさをまとめる。

構造図



○施設内散策 ○与布土エリア散策 ○竹田の町並み散策 ○竹田城跡へ ○発表会

※自然の厳しさに耐える

- ・自然とふれあう
- ・自然から学ぶ
- ・自然に対する理解を深める
- ・自然のすばらしさを発見する
- ・畏敬心を育成する

指導者の指導のポイント

- ・不安はだれにでもある。まずは一度チャレンジさせてみよう。
- ・地図と勘を頼りにトライさせよう。
- ・子どもたちの「好奇心」を大切に、思い切ってつき放そう。

Q & A

Q：散策中、飽きてしまう児童がいたら？

A：班の中で励まし合って行動する。

Q：班の中で自分勝手に行動する児童がいたら？

A：あらかじめ地図をもとにポイントを決めてから出発しよう。

Q：分からないことがあれば、どうしたらいいか？

A：地域の方にインタビューしてみる。

Q：うまくまとめができない時はどうしたらいいか？

A：模造紙やホワイトボード等を利用しよう。コンピュータでプレゼンテーションを試してみるのもいいね。

Q：今後利用できるものは？

A：発表したことは学校に持ち帰り、掲示してみよう。

挑戦！ 生き物博士！

◎このプログラムでねらうこと

自然の中を自由に散策するなかから、生き物の美しさや不思議さに気づくことにより、生き物をより詳しく調べたり観察しようという気持ちを育てる。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	山野を散策しよう！	<ul style="list-style-type: none"> • ゆったりとした時間のなかで自然を見つめ、美しいものや不思議なものを見つける。 • 自然のなかの危険なものに気づく。
2 日 目	生き物ウォッチングをしよう！ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 虫 鳥 植物 水生生物 等 </div>	<ul style="list-style-type: none"> • グループで危険な生き物について調べ、安全に気をつけて活動する方法を話し合う。 • 自分がめざす生き物はどのような場所にいそうかを考えて行動する。
3 日 目	探せ！ 発見！ 生き物の秘密！	<ul style="list-style-type: none"> • 1日目、2日に発見した生き物の中から、自分が好きなものについて詳しく調べたり、観察する方法を考える。 • 調べ学習で困ったとき、どのような問題解決の方法があるか相談をする。 • 書物などで調べた内容と実際に観察した事柄に相違があったとき、それはなぜか自分なりの考えがもてるようにする。
4 日 目		
5 日 目	大好きな生き物を作ろう！	<ul style="list-style-type: none"> • 石や木などの自然物を使って自分の好きな生き物を工夫をして作る。
6 日 目	発見や感動や作品を発表しよう！	<ul style="list-style-type: none"> • 個人やグループで発見したことや感動したことを、作品を通して相手にわかりやすく発表する方法を考える。

指導者の指導のポイント

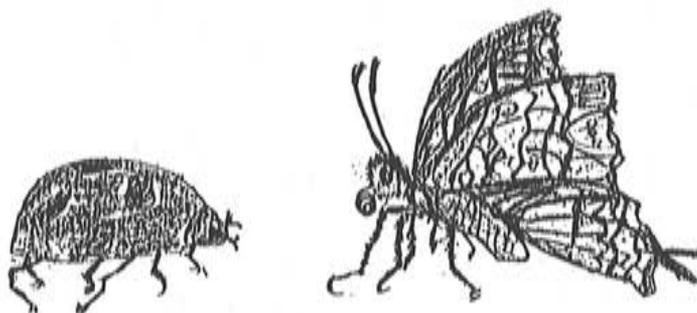
このプログラムは、1週間を通して自分が好きな生き物をじっくりと観察し、その生き物の様々な特徴や秘密を発見しようというものである。

1日目、2日目はゆったりとした時間の流れの中で、各自が大自然の思い思いの場所で思い思いの

生き物をウォッチングする。そして、メインの活動となる3日目、4日目は個人、またはグループで気に入った生き物について詳しく調べたり、知らなかった点を詳しく観察する。1つの生き物をじっくり観察することにより新しい発見と出会い、そこから疑問が生まれ、それが調べ学習につながる。

そこからまた、観察へとつながっていくのである。1つのことに集中、没頭していく中で深みの楽しさが味わえるのである。5日目は、自分が発見したり気づいたことを作品製作により表現しようというものである。

この活動は、様々な生き物が観察できるということが大前提になるので活動時間と活動場所の選定が大きなポイントとなる。また、子どもたちの追求課題に対応できる人材と資料も前もって準備しておく必要がある。



活動の流れ（○）と指導上の中心項目（※）

○山野を散策しよう→○探せ！ → ○大好きな → ○発見、感動発表
○生き物ウォッチング 発見！生き物の秘密 生き物を作ろう

※危険との対面

※様々な自然とのふれあい

※深みの楽しさ

※子どもの発想を生かす

※子どもの良さを引き出す

※感動、不思議さ、なぜから学ぶ

Q & A

Q：安全についての話し合いが十分でないときはどうすればいいですか？

A：安全については十分に指導しなければならないので、子どもたちの話し合いで不十分な点については教師が指導すべきです。

Q：詳しく調べる方法がわからなくて困っている子どもの指導は？

A：まずは待つ姿勢が大切なのですが、いきづまってしまえば参考文献のヒントを与えたり適切な指導者の手助けが必要です。

創ろう！ ぼくたち・わたしたちの自然学校大作戦

◎このプログラムでねらうこと

自分たちで活動プログラムを作り、計画を立てて生活することにより、指導者の予想を超えた活動を保証するとともに、活動自体が大胆で楽しい自然学校にする。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	施設内を探検して、活動内容を決めよう	<ul style="list-style-type: none"> 施設を散策し、使えるものや行ける場所を確認させる。 マップを参考に1日かけて散策とともに自由に選ぶ。 散策をもとに、班ごとに明日からの自由活動1, 2を決める。
2 日 目	☆自由活動 1	<ul style="list-style-type: none"> 午前午後に分けてやるか、1日中その活動をするかは各班ごとに決める。
3 日 目	☆自由活動 2	<ul style="list-style-type: none"> 活動1と同じメニューでも構わないことにし、やりたい活動を思い切りやらせるようにする。
4 日 目	①自由活動発表会の準備をしよう ②自由活動発表会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 昨日までやった活動を他の班に紹介することにより、明日の最後の活動の参考にさせる。 発表方法は自由にし、劇でも紙芝居でも何でもいいことにする。
5 日 目	やってみたい活動をしよう ☆自由活動 3	<ul style="list-style-type: none"> 昨日の発表をもとに今日やる最後の活動を決める。 班ではなく、個人個人で活動を選ばせることにする。
6 日 目	活動発表会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校でやった活動を4年生に紹介することにより、自分たちの活動をふりかえらせる。

指導者の指導のポイント

- 1 自由活動を3回入れることにより、指導者の考えた活動ばかりでなく、子どもの大胆な活動を引き出す。
- 2 自由活動途中に「活動発表会」を入れることにより、活動の幅を広げるようにし、一つの活動に固執することも、違う活動を取り入れることも班、個人で考える。
- 3 指導者はあらかじめ、できるだけたくさんのもや活動例を準備しておき、子どもの活動に対応できるようにしておく。
- 4 最終日の発表会の形式は自由にし、様々な発想を認めるようにする。

活動をささえる指導者の支援

- 1 自由活動の際に、始めに留意事項だけ確認し、後は様々な活動を認める。

[留意事項]

- 例
- (1) 野外での活動を原則とする。
 - (2) 施設にある道具を使う。
 - (3) 活動エリアは決めておく。
 - (4) 何か大きい物を作った場合は、記念撮影し後は片づけるようにする。
 - (5) 全員で協力してやることを一つは活動に入れる。

- 2 自由活動の計画書を作らせ、活動に幅ができるような助言をする。

- 3 自由活動発表会の際も、短時間で効果的に発表できるように指導する。

- 例
- (1) 時間は出入り含めて3分以内。
 - (2) 視覚的に訴えるような絵、劇を使う。言葉だけの発表にはしない。

Q & A

Q：活動で、危険なことを子どもが言ってきたらどうしますか？

A：だめなものはだめとはっきりさせます。ただ危険から逃れる手だてはないか考えさせます。指導者をつけることで解決する場合はそのようにします。

Q：3回とも同じ活動を子どもが言ってきたらどうしますか？

A：認めます。同じことを何回もやっているうちに新しい発見が生まれてくるからです。

プログラムの視点

子どもたちにとって、物を創り出すことは、子どもが元来持っている、創りたい・描きたい欲求を満たし、この上ない楽しいことであると考えられる。

物を創造する喜びは、一人で作るより友だちと意見を出し合い、協力しながら作品をつくり上げた時、喜びは何倍も増すであろう。

広大な自然の中に身を置き、様々な自然の姿に触れることで、新しい気づき・発見をする。その発見をもとに、想像の世界を表現する。

子どもたちの大胆な発想を引き出し、生かすことによって、自然がひとつの画面となる。

自然学校が思い出深いものとなる。

- ← ※ 柔軟な思考・大胆な発想
- ← ※ 様々な自然とのふれあい
- ← ※ 子どもの発想を生かす
- ← ※ 深みの楽しさ
- ← ※ 友だちと協力する
- ← ※ 自分の手足で稼ぐ



指導者の指導のポイント

どのようなアートを創るか子どもの発想を引き出し、生かすことがこのプログラムのポイントとなる。そのためには、指導者が自然を豊かに感じ取る感性が必要となってくるであろう。子どもの発想は些細なことから大きく広がる無限の可能性がある。その子どもの発想の多様性や豊かさを持っていることを十分踏まえながら、遊びを取り入れたり、童話や夢を語りながら子どもの想像力を高めていくことが大切である。

友だちと協力しながら創造することを通して、自然や人とのふれあいを深めさせる。

Q & A

Q：イメージがわからない子どもにはどうすれば良いか。

A：巨大アートをつくる場所設定をあらかじめ考えておく必要があり、その場所の周りを熟視しておくことが大切です。最初は動物や鳥、怪獣など具体的な物でイメージさせることとします。そして、全体のイメージにこだわらず、部分から全体へとふくらませていく表現方法が良いのではないのでしょうか。

わたしたちにまかせなさい

◎このプログラムでねらうこと

計画段階から実施まで子どもたちが主体的に活動することで、活動意欲と自主性を高める。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	総合進行……委員長会 開校式 A班運営 場内散策 B班運営	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがつくるセレモニー独自の創意工夫を促す。 エリア内を一回りしながら、班内で仲間づくりを進める。
2 日 目	施設の様々なところを使った活動 (自然観察、ウォークラリー等) C班運営 スペシャル・カレー(野外炊飯) D班運営	<ul style="list-style-type: none"> 施設の様子を活動を通じてつかみ、3日目、4日目の活動に生かせるようにする。 D班の指示に従って一斉にカレーを作り、野外炊飯の段取りを覚える。
3 日 目	計画した活動(班別) E班運営	<ul style="list-style-type: none"> 児童が計画した活動を2日間実施する。 食事と入浴の時間帯だけ前もって子どもたちに連絡しておき、その他の時間の使い方は自由にする。 ※いつ野外炊飯をするのかは、班によって異なる。
4 日 目	↓ 野外炊飯を一回入れる (買い出しから)	
5 日 目	登山(まる1日かける) F班運営	※達成感のある活動を取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> 忍耐力のある活動にみんなで挑戦し、苦しくても音を上げずに、励まし合う取り組みにする。
6 日 目	ボランティア活動 G班運営 閉校式 H班運営	<ul style="list-style-type: none"> G班が計画する。事前と実施中に場所、用具、内容、時間等を施設の方と相談して決めていく。 子どもたちがつくるセレモニーなので、事前に子どもたちが創意工夫する。

このプログラムの特徴

地域では、子どもたちだけで運営していく行事や集団遊びが影を潜めて来た。

今では、行事存続のために保護者や地域の方が手助けをして子どもたちの主体性や自主性を取り戻そうとしている。家庭や学校から離れた自然学校は、子どもたちの主体性を引き出し、自主性を高めるのに絶好の機会となりえる。

そこでこのプログラムでは、子どもたちが運営する自然学校を取り上げた。

前もって子どもたちが考えること（班別）

- ・各活動を各班が分担して受け持ち、リーダーシップを発揮する。
集合・整列、司会・進行、活動内容、連絡指示・説明等
- ・各班で生活を設計する。
起床・食事・入浴・消灯時間等
- ・3日目、4日目の班別活動
活動内容、野外炊飯（いつ、どこで、何を）

指導者の指導のポイント

- ・子どもが計画するところを明確にしておく。
- ・施設の様子や活動の紹介など資料を提供する。アイデアのヒントを与える。
- ・当日、指導者は全体の前に立たない。全体に対して一切の指示をしない。
（連絡したいことがあれば、係にメモを渡し子どもが連絡する。）

前もって子どもたちが準備すること（班別）

A・H班

- ・開閉会式を工夫する。
- ・集合時の整列を担当し、号令、点呼の仕方を学ぶ。

B・C班

- ・地図を製作する。
- ・活動を考える。
- ・道具の準備をする。

D班

- ・カレー作りを研究する。
- ・手順を説明できるようにする。
- ・食材を準備する。

E・F班

- ・ルールをつくる。
- ・必要な物を準備する。
- ・連絡、指示の仕方を学ぶ。

G班

- ・施設と連絡しあい、内容と場所を決める。
- ・道具を準備する。

Q & A

Q：1学期（5月）に自然学校を実施する場合、子どもたちが計画や準備をする時間の余裕がないのですが。

A：4年生の3学期から取りかかってみてはどうでしょうか。来年度の担任が決まっていますが、自然学校は教育課程に位置づけて全職員で取り組んでいくものです。自主性を育成するためには、学年を越えた継続した取り組みが必要です。事前に、子どもたちが主体的に運営する行事（例えば、老人ホーム慰問、学年レクレーション大会）などを実施しておくのもいいでしょう。

風の中のわたし

～身近な周りの自然探し～



◎このプログラムでねらうこと

魅力ある自然を五感すべてで感じることをねらっています。この豊かな自然の中に6日間を通して無理なくとけ込んでいけるよう、それぞれの活動を配置しています。南但馬自然学校で、よく実施されているプログラムです。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	施設内散策	<p>ここは、どんなところかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なにがあるかな？ ・なにがいるかな？ <p>草や花になって身近な自然を感じてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大の字になって草原に寝ころんでみようか。
2 日 目	朝来山登山	<p>鳥の目になってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなふうに見えるかな？ ・スケッチをしてみよう。
3 日 目	サイクリング (ヒメハナ公園へ)	<p>風によって飛んでみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町や村を通りこし、ちょっと遠くへ行ってみよう。 ・周りの風景も休憩しながら、じっくり観察しよう。 ・自分の住んでいるところと、どこが違うかな。
4 日 目	野外炊事	<p>野草を味わってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べられるかな？ ・どんな味かな。じっくりと味わってみよう。
5 日 目	思い出で工作 キャンプファイヤー	<p>思い出を創ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちだけの思い出を創ってみたいね！ ・自然の素材を使ってみよう。 <p>月の明かりで楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕闇の中、友だちと小さな火を囲んでいろんな話をしてみよう。 ・自然学校の思い出を話すのもいいかも。
6 日 目	清掃活動	<p>感謝しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・またくるよ！そのためには、もとどおり！

指導者の指導のポイント

5泊6日の中で、子どもの実態・指導者や保護者の願いなどを十分に考え「自然学校のねらい」を明確にすることが大切です。このことによって、各活動の実施形態にも工夫すべき点が生じてきます。例えば同じ炊飯活動でも一斉活動とするのか、昼食や夕食で招待ランチ形式にするのか、また登山にしても、そのコースを個人選択とするのか班で選択させるか等も考え実施することが大切です。さらに、自然学校を実施した後の学校生活につながる内容も視野に入れることも大切です。

Q & A

Q：初日の行動範囲の設定は？

A：子どもたちにとって活動初日でもあり、初めて訪れるところです。やはり安全確保は大切です。

現地踏査を十分するとともに施設の方から情報を十分聞いておくことが必要です。また、実施中は必ずスタッフを要所要所に配置しましょう。そうすることによって子どもたちの活動は広がります。

Q：体力差のある子どもが多いが登山についてどうすれば？

A：&コースの設定、班編成を工夫することが大切です。時間をたっぷりとり早く登頂した子どもたちは、山頂でスケッチをするなどプログラムにふくらみを持たせてはどうでしょうか。

Q：思い出づくりなどで焼き板などと少し違った活動がしたいのですが？

A：自然にふれることを中心にして、枯れ枝や落ち葉、石ころ等、可能な限り自然のものを使い、アイデアや工夫によって思い出深い個性的な作品はできます。また、竹などを利用して楽器を作り自然学校終了後、学校で「ふれあい音楽会」等として異年齢集団との交流会を実施するのもよいでしょう。

Q：清掃活動を主体的に取り組ませたい？

A：自然の中での活動の楽しさを味わわすことが大切です。十分楽しむことによって次に利用するとき「どうすればよいか」を考え、指導すればよいでしょう。



指導者からの便り

「……(中略)……人権の研究会を本校で持ちました。その研究会で私も音楽の研究授業をさせていただき「二世紀に残したい音」という学習を六年生の児童とともに取り組みました。するとどうでしょう。あるグループが二世紀には「人間の笑い声」を残したいんだと考え、たまたま音楽室に置いてあったインドのアンクルと、このたびの竹を使って演奏しました。私の予想をはるかに越えており、竹の素材の持つよさとその組み合わせをうまく発揮しておりました。……(以下略)」

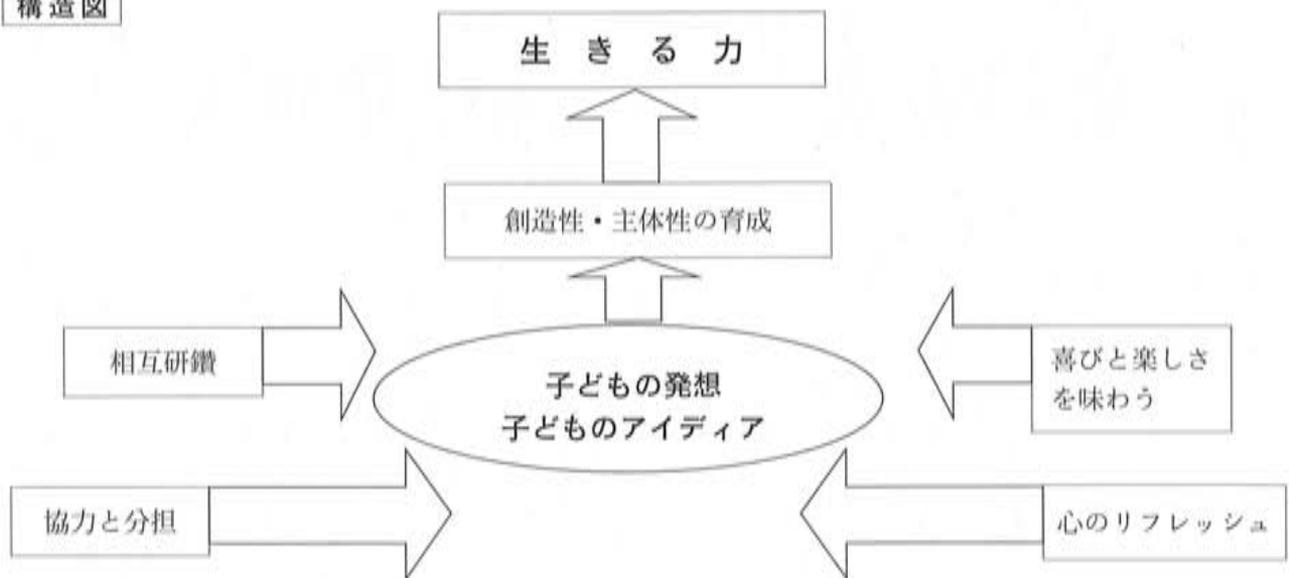
自分の好きな村！

◎このプログラムでねらうこと

自然の中で子どもたちの発想を生かす。子どもたちの自主的・主体的な活動を大切にする。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	エリア内を散策する	<ul style="list-style-type: none"> • どんな施設や場所なのか調べながら、ゆっくり散策する。 • 班で行動する。 • 雑木林に自由に遊びに行く。
2 日 目	エリア内で自分たちの村ができそうなポイントを見つける	<ul style="list-style-type: none"> • 川、芝生、坂道、林の中を散策する。 • 雑木林で自由自在に遊んでみる。 • 話し合っ、村づくりのできる場所を見つける。
3 日 目	村づくりに必要な資材や材料をあつめる	<ul style="list-style-type: none"> • どんな資材が利用できるのか調べる。 • 間伐材を集めよう。 • 木の葉や枝、つる等を利用しよう。
4 日 目	村の中で屋台づくりをしよう	<ul style="list-style-type: none"> • どんな屋台をつくるか相談する。 • 食材の買い出しに行く。 • 屋台で料理をし、みんなに食べてもらう。
5 日 目	どんな村を作ったか発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> • 班ごとに村づくりの感想を発表する。
6 日 目	まとめをする	<ul style="list-style-type: none"> • 自分たちが考えて取り組んだことを中心にまとめる。

構造図



○エリア内散策 ○村づくりのポイント発見 ○資材や材料を集める ○屋台づくりをしよう ○発表会

- * 子どもの発想を大切に
- * 柔軟な思想、大胆な発想
- * 時間的なゆとり
- * 失敗やハプニングにも価値がある

指導者の指導のポイント

- ・ありのまま何でも見てみよう。
- ・フィールド全体を使って冒険しよう。
- ・自然とのふれあいを深めよう。
- ・子どもたちの発想やアイデアを生かそう。

Q & A

Q：ポイントが決定できずに迷っている班がいたら？

A：どんな村づくりをしたいのかじっくりと話し合いをさせる。

Q：どんな材料を集めたらいいのかわからない場合は？

A：必要な材料の一覧表を作らせてみる。

Q：時間がない時は？

A：あらかじめ時間配分を決めてから行動させる。

Q：うまく発表ができない時はどうしたらいいか？

A：自分たちが作った村の中でできあがったものを見ながら説明する。

Q：今後利用できるものは？

A：発表したことは学校に持ち帰り、学級活動等で生かそう。

海辺満喫！ & 海に挑戦！

◎このプログラムでねらうこと

海辺の自然に浸り、美しさにふれたり楽しんだりする。自分のアイデアを生かして作りたいいかだで海の厳しさに挑戦する。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	海辺を散策しよう！	<ul style="list-style-type: none"> ・海辺を自由に散策して、美しいものや不思議なものを見つける。 ・明日の活動内容を考える。
2 日 目	海辺を楽しもう！ 自由選択 釣り 水泳 砂の造形 標本作り 等	<ul style="list-style-type: none"> ・海辺での安全な活動について話し合う。 ・自分の活動に必要な物は何かを考え準備する。 ・より楽しく、より美しくするための工夫をする。
3 日 目	海に挑戦しよう！ ・いかだ作りをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでいかだの素材や浮力について話し合い、いかだを作る。
4 日 目	・いかだ作りの工夫をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・試し乗りをして、より安定したいかだになるよう素材、型、浮力、こぎやすさについて話し合い工夫をする。
5 日 目	・いかだでこぎ出そう	<ul style="list-style-type: none"> ・海でいかだを長距離こぐときの安全な方法についての話し合いをする。
6 日 目	発見や感動を発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いが相手に伝わるような発表の方法を考える。

指導者の指導のポイント

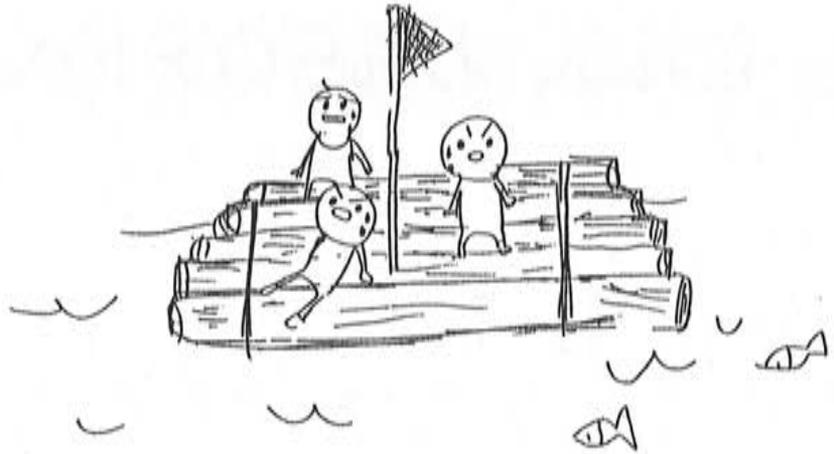
このプログラムは、5日目のいかだで海にこぎ出し、海の厳しさに挑戦することがメインとなっている。

まず1日目、2日目は海という自然環境の中で自分がやりたいと思うことに取り組み、自然の美しさや豊かさをたっぷり楽しむ。

そして、3日目からは海がその美しさとともに合わせ持つ、危う

さ、厳しさに挑戦するのである。そこで、このいかだ作りはいかだを作ることや乗ることを楽しむというより、ある程度の長距離をこぐのに耐え、自分の安全が守れるという視点からのいかだ作りをすることをねらっている。

海的美しさとその厳しさを十分に体験させることがねらいである。



活動の流れ (○) と指導上の中心項目 (※)

○海辺を散策しよう→ ○海辺を楽しもう→ ○海に挑戦しよう→ ○発見や感動発表

※深みと楽しさ

※子どもの発想を

※試行錯誤と

※子どもの良さを

※様々な自然との

生かす

洞察力

引き出す

ふれあい

※時間的なゆとり

※危険との対面

※本物の体験は感動を生む

Q & A

Q：危険を伴う活動の配慮すべき点はなんですか？

A：海辺での活動は危険が伴うので活動形態はグループにします。また、安全指導は具体例を出し、指導の徹底をはかります。それと、監視員の確保も大切です。

また、海上での活動では危険との対面が指導上の項目になるのですが、ライフジャケットは必ず着用しましょう。こぐときは海岸線に沿ってこぐことの徹底と、監視用ボートを準備しましょう。

Q：いかだ作りの素材集めでの子どもたちの参画の方法は？

A：プログラム作成時などに子どもたちを参画させたり、事前指導のときペットボトルなどを準備すると良いことを知らせます。

Q：一人一人の発表をみんなで認めていく良い方法は？

A：明るい笑顔と拍手が一番だと思います。

これが、われらのアドベンチャー！

◎このプログラムでねらうこと

自然学校の前半においては、自分が取り組んでみたい活動をたっぷりと楽しみ、後半は学級で計画した冒険の旅と別施設での活動にチャレンジすることにより、日頃の生活では味わえない、達成感や成就感を体感し、自分や友だちのすばらしさに気づく。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	施設探検 ・おもしろそうな場所チェック 情報交換会	・事前に用意して来た「施設マップ」を班で詳しくして、施設の実態をあばこう！ ・他の班は、どんなことに気づいたのかな？
目	フェイバリット・ステージ準備	
2 日 目	《フェイバリット・ステージ》 〈個人選択活動〉 A：自然観察（植物・鳥・星） B：クラフト（木・竹・蔓・石） C：農業・林業・漁業体験 D：いかだ遊び	・さあ、自分がやってみたいことを思いっきり楽しもう！ ・野山を歩いて、観よう！聞こう！感じよう！ ・自由な発想で、楽しく、自分の想いを形に表そう！ ・地域の方々の営みにふれよう！ ・工夫し、協力して作り上げ、湖を渡ろう！ ・ちょっと不便だけど、「生きてる」って感じだぞ！
3 日 目	E：野外炊事&テント泊 片付け&活動のふりかえり	
目	アドベンチャー 出発準備	・明日は、夜明けとともに出発だよ。どうしたらいい？
4 日 目	『アドベンチャー・ウォーク』 ＝往復：30～40km＝ 1泊2日の冒険の旅	・足のケアは、できていますか？ ・自分たちの安全を確保するためには、どんなことに気をつけたらよかったのかな？ 実行委員を中心にもう一度確認しておこう。 ・さあ、冒険の旅に出発だ！
5 日 目	〈学級別活動〉 1組……○○○ 2組……□□□ 3組……◇◇◇	・どんな人たち、どんな自然との出会いが待っているのだろうね。
目	思い出のつどい	・自然学校の思い出を深く心に刻もう。
6 日 目	後片付けと清掃	・さあ、『来たときよりも美しく』をモットーに、実行委員の指示に従って、みんなで協力して後片付けと清掃をしよう。

指導者の指導のポイント

このプログラムは、子どもたちができる限り自分たちの力で、事前の施設調査やプログラム計画を行い、自然学校にのぞむという基本姿勢に立脚している。それは、このプログラムが子どもたちの自主性や主体性及び創意工夫しようとする姿勢を大切に、またそれを育むことに主眼を置いているためである。実施施設に着くと同時に、子どもたちが、予定してきた活動を次々と自発的に繰り広げていくような自然学校をめざしたい。施設での暮らしを主体的に楽しみ、学級全員での冒険の旅にでる。個人で、そして学級で、積極的にチャレンジし、やり遂げていく喜びを味わえるようにしたい。

その際に、指導者は子どもたちのよき相談相手となりながら、子どもたちに寄り添ったり、離れたりしながら、じっと見守ったり、励ましたり、示唆を与えたりしてサポートしていく必要がある。子どもたちの思いや希望を大切にしながら、一層のやる気をもたせなければならないのである。

- ※小さな我慢がすすがしさに
- ※自然の厳しさに耐える
- ※危険との対面
- ※柔軟な思考、大胆な発想
- ※自分でやること
- ※自立の楽しさ
- ※自分で学ぶ
- ※自分の手足で稼ぐ
- ※時間的なゆとり
- ※友だちと協力する

Q & A

〈施設探検について〉

Q：「広い施設なので、班をいくつかのグループに分けて活動してもいいですか？」という申し出が子どもたちからあったら、どうしたらいいでしょうか。

A：安全面で気になることを十分に押さえた上で、班で時間等の約束を明確にするよう指示をして、認めればいいでしょう。

〈フェイバリット・ステージについて〉

Q：自分がやってみたいことを選ぶのではなく、ただ仲のいい友だちと一緒にいたいという理由だけで活動を選択し、活動の中身にはあまり気が向かない子がいたとしたら、どうすればいいのでしょうか。

A：他の子どもたちの迷惑になったり、困った状況につながる恐れがあるときには、きちんと注意をし、改めさせるが、基本的にはその活動の魅力を前面に押し出すようにして、その子に関心を向けさせ、誘い込むように仕向けるべきでしょう。

Q：2日間にまたがる活動なので、子どもから「複数の活動に取り組みたい。」という申し出があったら、どうしたらいいのでしょうか。

A：そのコースが、人数の増減があっても大丈夫であって、気まぐれや興味本位によるわがままでなく、はっきりとした目的の下に、他の人に迷惑をかけないのであれば、むしろ積極的な取り組みとして、称賛していいのではないのでしょうか。

〈アドベンチャー・ウォークについて〉

Q：体力や身体能力が違ふ、様々な子どもたちがいる中で、一律に片道15～20kmの距離を歩かせることについて不安はないのでしょうか。長距離ウォークを行うにあたっての留意事項はどんなことがあるのでしょうか。

A：50分間で約4kmを歩いたら10分間の休憩を目安にすること、一人ひとりの体調に気を配りながら進めること、状況に応じて随時救急車両を活用すること、車の通行の少ない道を選ぶこと、等に気を付ければ心配はないでしょう。

Q：朝起きてすぐに排便する習慣がついていない子も、少なからずいると思います。もし、途中でトイレに行きたくなったら、どうしたらいいのでしょうか。

A：目的地が決まった段階で、事前に、トイレ休憩がとれる場所の選定を済ませているし、救急車両を随行させているので、急を要するときは、車で連れていけるから心配ないでしょう。

ザ・サバイバル体験記

◎このプログラムでねらうこと

テント張り、かまど作り、食材探しなどのサバイバル生活を中心にした海でのプログラムを組むことにより、生活の厳しさを知るとともに、小さな我慢が大きな達成感に変わることに気付く。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	施設内を探検して、活動内容を決めよう	<ul style="list-style-type: none"> 施設を散策し、使えるものや行ける場所を確認させる。 マップを参考に1日かけて散策とともに自由に遊ぶ。 散策をもとに、班ごとに明日からのテントをはる場所を決める。
2 日 目	自由サバイバル生活 1 <ul style="list-style-type: none"> テント作り 食器作り かまど作り 	<ul style="list-style-type: none"> 食事、テント張りを自分たちの班だけで行う。 かまどを作り、食器も自分たちで作る。 食材は1日目はあらかじめ準備しておく。
3 日 目	自由サバイバル生活 2 <ul style="list-style-type: none"> サバイバル炊事 自由活動 	<ul style="list-style-type: none"> 米だけ持ってきた食材を使い、あとは釣りや木の実拾いをして自分たちで食事を作る。 あらかじめ食べられるもの食べられないものをチェックしておく。
4 日 目	自由サバイバル生活 3 <ul style="list-style-type: none"> ハイキングへ行こう 	<ul style="list-style-type: none"> お弁当を作り自分たちで場所を決めハイキングに行く。 班行動で助け合いながらハイキングできるようにする。 お弁当は朝早起きし、おにぎり程度を作って持っていくことで食事作りの大変さも味わせる。
5 日 目	テント身のまわりの片づけ <ul style="list-style-type: none"> カヌー体験 	<ul style="list-style-type: none"> 片づけは指導者が厳しくチェックし、合格したときの達成感を味わせる。 カヌーは班ごとにし、次の宿泊場所へ行かせる。
6 日 目	新聞作り	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの活動（テント、食事）を1枚の個人新聞にまとめよう。

指導者の指導のポイント

- 1 自由サバイバル生活はテント張り、食事作り、食器作りと既製の物をできるだけ使わずに自分たちの手で行わせ、達成感を味わわせる。
- 2 自由サバイバル生活での活動も、例えば釣りなら木の枝を使わずように自然物を使った活動を行わせる。
- 3 サバイバル炊事は1食のみにし、それで何もとれなかったらご飯しか食べられないようにし、自然の厳しさを味わせるようにする。
- 4 カヌー体験は、カヌーで遊ぶだけではなく、次の宿泊場所へ行く交通手段とし、着いたときには、テント生活とは違う食事などで達成感を味わわせる。
- 5 新聞作りでは、「大変だったこと」「やったと思ったこと」を必ず書かせるようにし、我慢の大切さやその後の達成感を振り返らせるようにする。

活動をささえる指導者の支援

- 1 指導者も食事作りは自分たちで行い、子どものものは手伝わない。自分のことは自分でやる大切さを知らせ、どうしてもできない場合は真似させる。
- 2 サバイバル炊事はあらかじめ指導者が食べられるもの食べられないものを、安全に十分気をつけるようにする。

Q & A

Q：河原や崖などの近くにテントを張る子どもがいたらどうしますか？

A：生命にかかわることなので、当然禁止します。ただ、サバイバルという意味で自然の厳しさやこわさを具体的に教える必要があるでしょう。

Q：本当にサバイバル炊事は、食料がとれなかったらご飯だけなんですか？

A：基本的にはご飯とふりかけくらいです。大切なことは、子どもを追いこみ子どもが本来持っている野性の力を出させることです。

ティピー村でくらそうよ

◎このプログラムでねらうこと

自然学校での生活そのものを自分の力で暮らすことで、家庭での生活を振り返りながら自立への苦しさ、楽しさ、嬉しさを感じ取る。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日目	生活設計をしよう ・生活グループ作り	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドを散策し、自分の気に入ったエリアを選定する。 ・1人用～8人用テントから各自が選択し、生活設計をする。 ・活動はテントごとに実施する。
2 日目	「暮らし」を体験しよう ・フィールド分析をして暮らしやすくしよう ・各自で食事作りをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・生活プログラムを自分で計画実行する。 ・食事作りや暮らしに必要な道具を調達する。 ・自然物を利用して生活に役立たせる。 ・1～2日目の情報交換と振り返りを行い変更・改善する。
3 日目	民族大移動を実行しよう ・振り返りから生活ベースのテントを再選択、移動設営 ・グループで食事作りをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・各自改善を求めてグループの編成替えをする。 ・協力しての活動へ発展する。 ・団体生活、集団行動のための生活設計に。 ・協力施工でティピー建築計画。
4 日目	役割分担をして食事を作ろう ・自然物を利用して資材集め・基礎づくり～ティピー建築へ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人選択からグループ選択へ生活スタイルの変更と村の形成。 ・小規模共同活動から協同作業へ。
5 日目		
6 日目	ティピー村撤収・閉村	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活への帰還。 ・新たな生活設計。

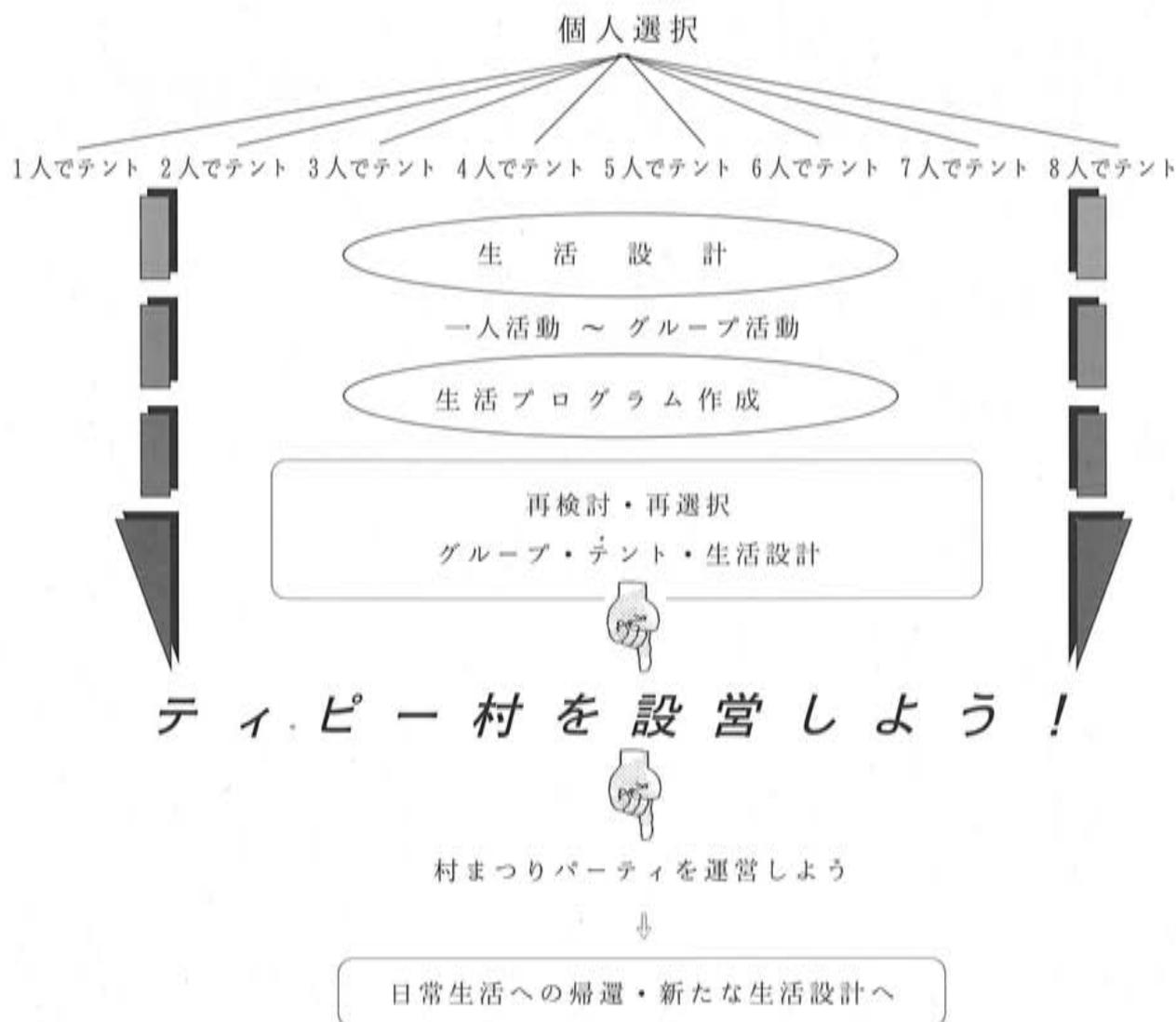
ティピーってどんな物？

※ティピー：北米の平原インディアンの住居。細長い木のポールと、バッファローの皮を縫い合わせたカバーからなる円錐形のテント。中でたき火ができる。持ち運び可能な携帯性が特徴。ポールを竹や間伐材に、カバーをブルーシート等で代用して作ることができる。

参考 小学館発行BE-PAL 2月号 2000



(リトルワールドにて)



指導者の指導のポイント

このプログラムは個人から集団への発展形式に焦点をあてている。

1日目には各自が生活設計を行い、テントでの生活も1人用から8人用までを準備しておき選択させる。設営場所も水辺や木立の中で自由に選び設営する。1から2日目にかけて、一人の生活を体験する児童も、いきなり集団での生活を選ぶ児童も、どちらも必ずなんらかの壁を感じるだろう。2日目には生活プログラム計画を立て、再選択会議を行う。振り返りながらより快適にくらしていくためにグループができたり、テントの位置を変えたり心も体も移動していく。自由な選択ができるようフレキシブルに対応していく。

3日目は再選択に基づきグループ編成、活動を共にする。ひとりのできること・小人数のできること・多人数で協力することで成し遂げられること等意識付けをすることで、生活の成り立ちに人との関わりが大切であることを実感させる。この暮らしの中では、自分自身を見つめ直し、自分を律することが必要となる。さらに、ここから4～5日目の最大の目的に向かっていく。多人数が生活できるティピー設営に入る。ティピー設営は、少人数の共同作業だけでなく、集団で役割分担をし、組織的な協同作業を必要とする。

6日間の「暮らし」の体験では、心の葛藤が予想され、人と接する中で自分を見つめることができるであろう。より楽しく、快適に生活するためには、人間関係の中で自分を磨くことの大切さを体験させたい。

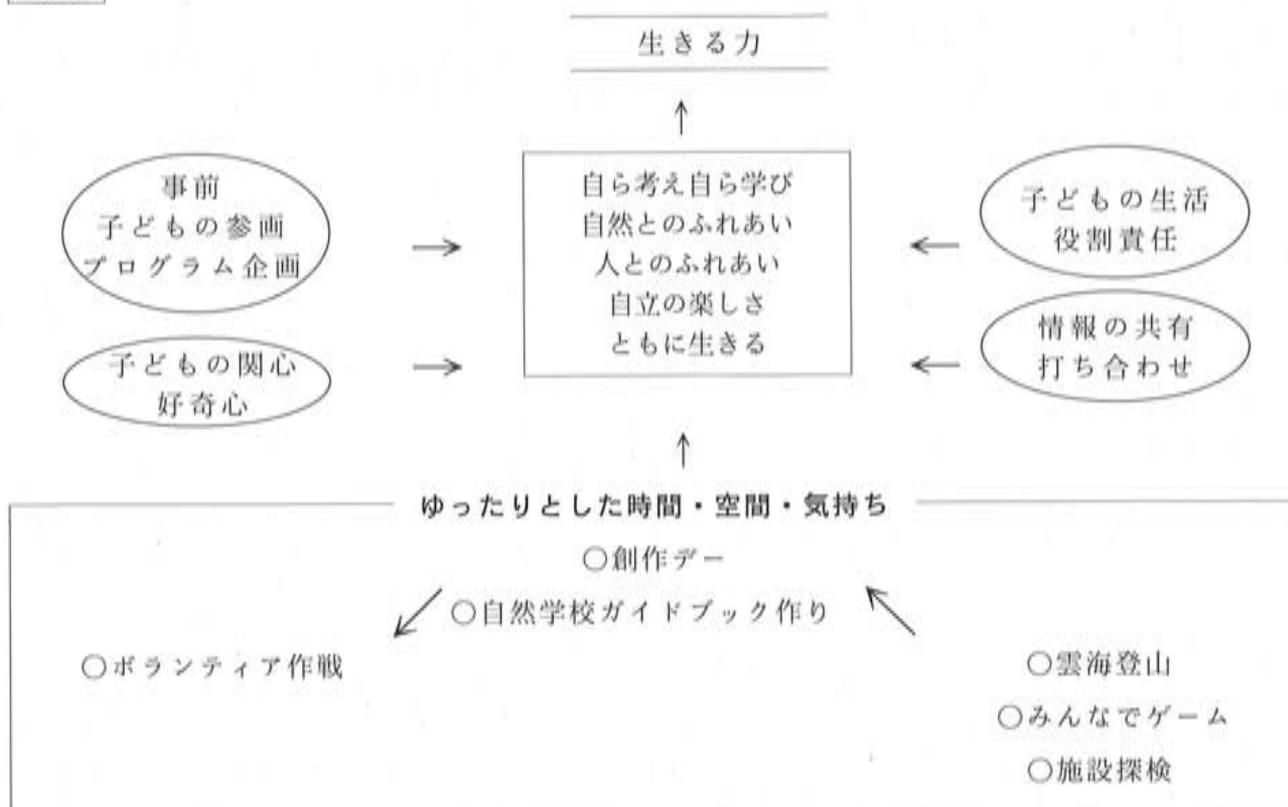
広げよう、わたしたちの世界

◎このプログラムでねらうこと

自然とのふれあい、人とのふれあい体験を通して自立の楽しさを実感する。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	施設探検 ・オリエンテーリング	<ul style="list-style-type: none"> 各班で協力しながら施設めぐりをする。 気に入った場所ではゆっくり楽しむ。
2 日 目	みんなでゲーム ・課題解決ゲーム ・自然観察ゲーム 自由遊び	<ul style="list-style-type: none"> 自然を相手にいろいろなゲームを楽しむ。 班で相談し、助け合って解決していく。 午後は、自由時間として個人の選択活動を楽しむ。
3 日 目	雲海登山	<ul style="list-style-type: none"> 早朝登山をすることによって、自然の多様さ偉大さに触れる。 友だちと励まし合って苦しさを乗り越える。
4 日 目	創作デー ・自然物クラフト ・草木染め ・押し花アート	<ul style="list-style-type: none"> たっぷりの時間の中で自分たちの作りたいものに挑戦する。 友だちと助け合い、教え合いながら作品を完成させる。
5 日 目	自然学校ガイドブック作り 体験発表会	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の5年生のためのガイドブックを作る。 自然学校の先輩として後輩に自分たちの思いを送ろう。 友だちの気づきを知ろう。
6 日 目	ボランティア作戦	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちが世話になった施設を心を込めて美しくしよう。 どんな活動ができるか自分たちで相談する。

構造図



※自立の楽しさ
 ※小さな我慢の大切さ
 ※自分でやること
 ※時間的なゆとり

※リーダーシップと
 フォロワーシップ
 ※子どもの発想を生かす
 ※深みの楽しさ

※様々な自然とのふれあい
 ※自然と裸でつきあう
 ※試行錯誤と洞察力
 ※友だちと協力する

指導者の指導のポイント

このプログラムは、5日目の自然学校ガイドブック作成に焦点をあてた。小学校5年生という時期は、自我に目覚めてくるころであり、他人のために喜んで働くことができる。そこで、初日からの3日間は、施設の豊かな自然を活用して様々な自然とふれあう体験をさせる。自然の中に入り込んでより深く自然とふれあい、自然の中で伸び伸びと生活する中で学んだことや、自分を抑え友だちと協力して活動をやり終えた時の苦しさや嬉しさを自然学校の先輩として後輩へ伝える。

また、最終日には、お世話になったすべての方々に感謝してボランティア活動を取り入れてより自立を促す。

Q & A

Q：子どもたちにゆったりとした気持ちを持たせるために指導者としてどんなことに気をつけたらよいか。

A：心理的なゆとりとは、子どもたちに自分から何かを始める自由があるということです。

言われてする、与えられ強制されてする活動が多いと楽しさも活動に対する意欲も生まれてきません。指導者は、子どもが自分で選択できる活動の幅を広くして、生活面でも自分たちの事は自分たちで考えてやらせることが、子どもたちにとっての心のゆとりになります。

エンジョイ！ 脱 現代文明

◎このプログラムでねらうこと

自然学校でのくらしを自ら計画し、あえて現代の生活の便利さを捨て、工夫し、力を合わせて暮らしを創っていくことを楽しみ、それを受けて自分の後半の活動を決定し、自ら楽しむ中で、自主性と協調性及び積極性を育む。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	施設探検 ・おもしろそうな場所チェック 情報交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に用意してきた「施設マップ」を班で詳しくして、施設の実態をあばこう！ ・他の班は、どんなことに気づいたのかな？
	『脱 現代文明』の生活開始	<ul style="list-style-type: none"> ・さあ、自分たちで計画してきたくらしを始めよう。
2 日 目	『脱 現代文明』の生活 〈班別活動〉 ・テント泊 ・食器づくり ・野外炊事	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づいて、くらししてみよう。 ・やっけて行く中で、変更したいことがあったら、班で話し合った上で、変更していいよ。
3 日 目	・基地（隠れ家）づくり ・基地づくり&基地泊 ・ドラム缶風呂 等	<ul style="list-style-type: none"> ・道具類や材料など、追加したいものが出てきたら、相談に来なさいね。 ・他の班とも交流しよう。
	活動のふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・今までのくらしはどうでしたか。そして、これからは？
4 日 目	《フェイバリット・ステージ》 〈個人選択活動〉 A：自然観察（植物・鳥・星） B：クラフト（木・竹・蔓・石） C：登山（ハイキング） D：農業・林業・漁業体験	<ul style="list-style-type: none"> ・さあ、自分がやってみたいことを思いっきり楽しもう！ ・野山を歩いて、観よう！聞こう！感じよう！ ・自由な発想で、楽しく、自分の想いを形に表そう！ ・がんばってやり遂げたよろこびを味わおう！ ・地域の方々の営みにふれよう！
5 日 目	E：いかだ遊び F：『脱 現代文明』	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫し、協力して作り上げ、湖を渡ろう！ ・3日目までのくらしにこだわって、続けていこう！
	思い出のつどい	<ul style="list-style-type: none"> ・自然学校の思い出を深く心に刻もう。
6 日 目	後片付けと清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・さあ、「来たときよりも美しく」をモットーに、実行委員の指示に従って、みんなで協力して後片付けと清掃をしよう。

指導者の指導のポイント

このプログラムは、子どもたちができる限り自分たちの力で、事前の施設調査やプログラム計画を行い、自然学校にのぞむという基本姿勢に立脚している。それは、子どもたちの自主性や主体性及び創意工夫しようとする姿勢を大切に、またそれを育むことに主眼を置いているためである。実施施設に着くと同時に、子どもたちが、予定してきた活動を次々と自発的に繰り広げていくような自然学校をめざしたい。友だちと力を合わせ、自分たちで試行錯誤しながら、不便さを克服しながら暮らしていき、後半の自分の活動に自ら取り組んでいく中で、目標に迫らせたいと思う。

- ※自立の楽しさ
- ※子どもの発想を生かす
- ※自分でやること
- ※友だちと協力する
- ※時間的なゆとり
- ※自分で学ぶ
- ※試行錯誤と洞察力
- ※失敗に価値がある
- ※追いつめることと待つこと
- ※子どものよさをひきだす

Q & A

〈施設探検について〉

Q：「広い施設なので、班をいくつかのグループに分けて活動してもいいですか？」という、子どもたちからの申し出があったら、どうしたらいいでしょうか。

A：安全面で気になることを十分に押さえた上で、班で時間等の約束を明確にするよう指示をして、認めればいいでしょう。

〈『脱 現代文明』の生活について〉

Q：子どもたちから、「他の班と合同でやってもいいですか？」という提案があったら、どうしたらいいでしょうか。

A：事前の計画段階で、班別にそれぞれ独自性をもって『脱 現代文明』の生活内容を考えてきているわけだから、独自性・個性を大切にするためにも、安易な合同はさせるべきではないでしょう。合同の理由を聞いてみて、それが異質の活動内容の合同になっていて、互いに相乗効果が期待できるときや、活動内容は似通っていても、新たな発展が期待できるときには、協同で活動することを認めるようにすればいいのではないのでしょうか。

Q：前もって班で相談して決めていたことだけど、変更可能にしていることから、その時になって、班の中で意見の対立があった場合は、どうしたらいいでしょうか。

A：とりあえず、納得しあって決着をみるまでは、話し合いを続けさせ、中途半端なままでは行動に移させないようにすべきでしょう。

けれども、子どもたちだけでは、どうしてもおさまりが付かないようであれば、助け船を出してやる必要があると思われます。

〈フェイバリット・ステージについて〉

Q：自分がやってみたいことを選ぶのではなく、ただ仲のいい友だちと一緒にになりたいという理由だけで活動を選択し、活動の中身にはあまり気が向かない子がいたとしたら、どうすればいいのでしょうか。

A：他の子どもたちの迷惑になったり、困った状況につながる恐れがあるときには、きちんと注意をし、改めさせるが、基本的にはその活動の魅力を中心に押し出すようにして、その子に関心を向けさせ、誘い込むように仕向けるべきでしょう。

Q：2日間にまたがる活動なので、子どもから「複数の活動に取り組みたい。」という申し出があったら、どうしたらいいのでしょうか。

A：そのコースが、人数の増減があっても大丈夫であって、気まぐれや興味本位によるわがままでなく、はっきりとした目的の下に、他の人に迷惑をかけないのであれば、むしろ積極的な取り組みとして、称賛していいのではないのでしょうか。

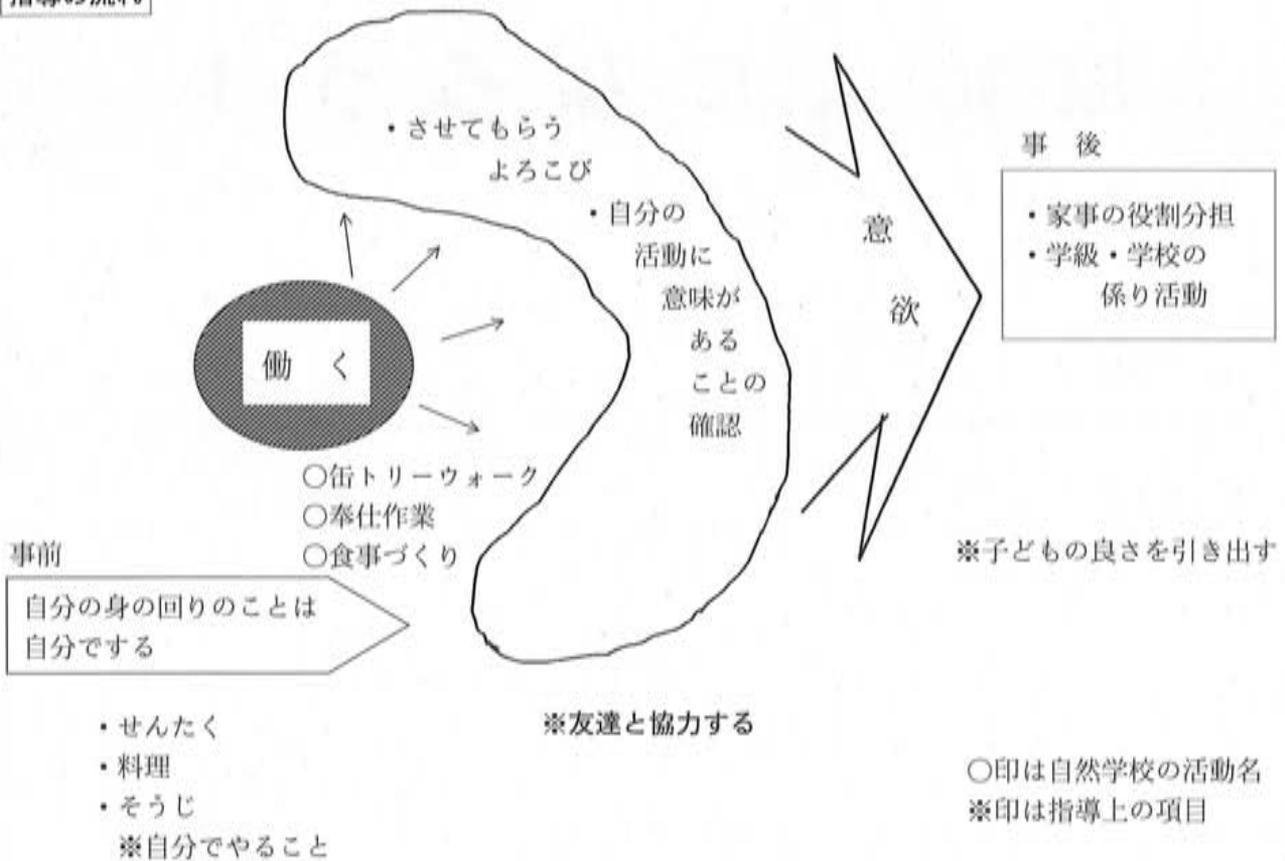
おかげで助かったよ！

◎このプログラムでねらうこと

子どもは本来他人のために役立ちたがっている。そこで、働くということを通して、子どもの素朴な奉仕の気持ちを引き出す。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	自分のことができるようにしよう ・食事の取り方 ・整理整頓 ・風呂の準備 ・せんたく	・食事、風呂、身の回りの整頓等を自分でやるようにする。
2 日 目	人のためになることをしよう 3日目からの打ち合わせをしよう	・自分のこと以外に人のためになることを探してみる。 ・食事づくり ・そうじ 等 ・やりたいが大人に手伝ってもらわないとだめな部分と自分だけでもできる部分をわける。
3 日 目	人のためになろう (選択活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・思い切って人のためになることをやるための条件を明確にする。 ・自分がやりたいことをやることで、人が喜ぶことに何かがあるかを考える。 ・人のためという気持ちが強くなりすぎず、自分にとっても気持ちがいいことは何かを考える。
4 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・缶トリーウォーク ・老人施設等への奉仕作業 ・草刈り ・食事づくり ・風呂たき ・家づくり 	
5 日 目		
6 日 目	発表会をもとう	

指導の流れ



指導者の指導のポイント

子どもたちは本来何か他人のために役立ちたがっている存在である。

このプログラムは、そういう子どもの持つ気持ちを自然学校の中で大切に、汲み上げることにねらいがある。指導者は、子どもたちのかかわりを丁寧に、それを育み見守ることが大切になる。そのためには、指導者にあたたかさや感性、そして鋭いみつめる目がある。指導者に誉められることが心からうれしいと思える信頼関係が何より必要である。

Q & A

Q：3日目からの「人のためになろう」がメインのテーマであるが、その具体的な仕事内容がはっきりしない場合はどうすればいいのでしょうか。

A：どんな小さなことでもいいという視点で考えてみるのが大切です。例えば、施設内の草刈りとか、倒れている木々のそうじとか、子どもの目から見てわかるものに取り組ませることで。また、やり終わってある程度結果の見えることがらがいいのではないのでしょうか。大切なことは子どもたちのやったことに評価を与えて、次への意欲につなげることです。

原始人になろう！

◎このプログラムでねらうこと

自然の中に自分たちの考えたすみかを作る活動を通して、自然や友だちとのふれあいの楽しさを味わうとともに友だちと協力することの大切さを知る。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 目 目	開村式 すみかづくりの場所探し！	<ul style="list-style-type: none"> 原始村のマップづくりをとおして、楽しくすみかに適した場所探しをさせる。 昔の人がどんな所でどんな家に住んでいたのか事前に調べる活動を取り入れる。 開村式で指導者が原始人の服装で登場するのもアイデアの一つである。
2 目 目	すみかづくりに挑戦！ 衣服づくりに挑戦！	<ul style="list-style-type: none"> グループですみかの形や材料について相談し設計図を作る時間を十分保証する。 家づくりに必要な道具の安全で正しい使い方を徹底しておく。 どんな服装をしていたのか、周りの自然物を上手に利用することをヒントとして与える。
3 目 目	すみかの守り神を山頂までとりに行こう！	<ul style="list-style-type: none"> だんだんと出来上がるすみかを大切に守ろうとする気持ちを高めるため、山頂にすみかの守り神がいることを伝え、守り札をとりにいく計画に発展させる。
4 目 目	すみかづくりに挑戦！ 原始人の食器づくりに挑戦！ すみかで過ごそう！	<ul style="list-style-type: none"> すみかづくりの最終日であることを伝え、始めの計画をもう一度確認させる。 どんな食器で食べていたのか想像させ、想像図をもとに楽しく食器づくりをさせる。 出来上がったすみかに集まって、どんな過ごし方をしたいのか思い思いの過ごし方を話し合わせる。
5 目 目	火の祭りをしよう！	<ul style="list-style-type: none"> 原始人になりきった今日までの活動を振り返らせ、おもしろかったことや友だちと協力して頑張ったこと等を言葉や体で表現する場であることを知らせる。
6 目 目	閉村式 すみかの片づけをしよう！	<ul style="list-style-type: none"> 1週間の活動を通して作り上げたすみかをもとあった自然の姿に戻すことの大切さを教える。

プログラムづくり

視 点

1 自然学校のねらいを達成するために

6日間、豊かな自然の中にどっぷりつかり、仲間とともに「挑戦」をテーマにしてダイナミックなドラマづくりに挑戦させたい。きっと、友だちと協力することの大切さはもちろんのこと、協力することの難しさや助け合って活動することの楽しさを感じるであろう。

2 一人一人が生かされるように

初日から最終日まで、それぞれの活動は一つのストーリーでつながっている。子どもの豊かな発想がエネルギーとなって、活発な活動が展開されていく。多くの失敗も予想されるが、この時こそ子どもたちが成長するチャンスである。そして、一人一人が生かされるときでもある。このプログラムは、自然学校実施中はもちろんのこと、実施前の子どもたちの主体的な活動が大きなポイントとなる。大いに6日間のドラマづくりについて夢を語らせる時間をとりたい。

3 生きる力を育むプログラムにするために

子どもたちが主体的に活動に取り組むことを通して、果敢にチャレンジする意欲や、判断力、表現力、創造力等の育成を図りたい。このねらい（願い）の達成には絶好のプログラムである。そして、この貴重な体験をその場限りの体験に終わらせることなく、日常の学校生活の中で連続的・発展的に展開するように組織化しておくことが重要である。



指導者の指導のポイント

- ・ 5泊6日の体験を通してねらう仲間づくりの明確化
- ・ 十分な現地調査による具体的な活動場所等の情報提供
- ・ 指導者も子どもと一緒にドラマをつくる
- ・ 子どもたちの主体的な活動を促す
- ・ 活動時間の適切な設定、計画性のみられる活動
- ・ 値打ちある失敗は見逃さない指導者の眼

- ※ 友だちと協力する
- ※ 子どもの発想を生かす
- ※ 柔軟な思考・大胆な発想
- ※ 自然と裸でつきあう
- ※ 時間的なゆとり
- ※ 失敗に価値がある

Q & A

Q：すみかづくりの計画はどのようにたてさせればいいのでしょうか？

A：出来上がりまで3日あることを事前に知らせてあげましょう。実施までにイメージ図を作成させておくことも必要ですが、1日目に十分時間をとって気に入った場所を探させることが大切です。

Q：4日目になってもすみかが出来ない時はどうさせたらいいのでしょうか。

A：活動を中断させて、みんなで話し合いをさせるのも一つの方法です。計画した内容が出来なかったのはどこに原因があったのか、子どもたち自ら考えさせる指導も大切です。この時がポイントです。価値ある失敗を見つけられる指導者になって下さい。

ぼくら わたしらのトライ

◎このプログラムでねらうこと

友だちと協力しながら主体的に計画し行動する。

自然の美しさを感じ取らせ、自然の素材を使って工作する。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	地域めぐり	<ul style="list-style-type: none"> ・地図、電車やバスの時刻表、観光案内などをもとに施設までの行程を班ごとに計画し、名所を訪ねて行く。
2 日 目	このゆびとまれ（散策） ・自然観察 里山の遊び 等	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者を募って自然の中で活動する。 ・思いつきや冒険心を生かす活動にする。 ・工作の素材を探す。
3 日 目	登山	<ul style="list-style-type: none"> ・体力に応じてコースを選択する。 ・工作の素材を探す。 ※達成感のある距離が望ましい。
4 日 目	工作	<ul style="list-style-type: none"> ・1日目、2日目、3日目の各場所でクラフトの素材を集めておき、竹や石等と組み合わせて工作する。
5 日 目	ボランティア活動（午前中） 荷物整理（夜）	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内で仕事を探し、勤労体験をする。 草取り、金網洗い、清掃 等 ・明日に備えすぐに出発できるようにしておく。
6 日 目	帰校	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに帰る。

プログラムづくり

地域めぐり

この指とまれ

登山

工作

ボランティア活動

仲間と協力し主体的に活動・地域の風土を体感

ゆとり・活動の創造・冒険

忍耐・達成感・感動・友だちへの思いやり

自然の美しさ発見・計画・個性の発揮

仲間と協力し主体的に活動・勤労体験

※友だちと協力する

※自立の楽しさ

※自分で学ぶ

※子どもとともに

※子どもの発想を生かす

※自分の手足で稼ぐ

指導者の指導のポイント

- ・子どもたちにこれからしようとする活動を計画させ、自分たちでやっという意欲を持たせることが肝心である。そのため、事前に学校で地図・時刻表を調べたり活動事例を調べたり、家庭では、どんなことができるのかを家族に相談したりする機会をつくり自然学校への夢を膨らませていく必要がある。
- ・登山では、個々の子どもの体力に応じてコースを選択できるようにする。
- ・2日目、4日目、5日目の午後は、活動の計画を入れずに時間的なゆとりを持たせる。

Q & A

Q：子どもたちだけで交通機関を使って行かせるのは不安ですが。

A：もちろん指導者が付き添っていきますが、行き方の指示はしません。

緊急体制は、万全にしておき、事前の安全指導を徹底してください。施設によっては、交通の不便な所や歩くのに歩道がなくて危険な場所もあります。そんな場合は、行程の中で集合しやすい場所までとし、そこから貸し切りバスを利用する方法も考えられます。

夕食までに施設に到着すればよいのですから、結構いろんな所を見てまわることができます。それぞれの村や町の風土を肌で感じることでしょう。

自分で食べるぞ！ 自然学校

◎このプログラムでねらうこと

自然学校での食生活そのものを自分の力で計画実行しようとすることで、家庭での食生活を振り返り、自立への苦しさ、楽しさ、嬉しさを感じ取る。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	炎を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活に欠かせない調理方法に目を向ける。 ・炎を作り出すことを考える。 ・現地で資材調達。
2 日 目	「ほのお」を体感しよう <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド分析をして燃やせる ・場所・物を選択する ・各自で食事作りをしよう 平成7年度プログラム研究委員会 冊子P.23参照 「火でためしてみよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・生活プログラムを自分で計画実行する。 ・自然物を燃やしてみても生活に利用できる物を見つける。 ・食事作り・暮らしに必要な道具・材料を調達する。 ・1～2日目の情報交換と振り返りを行い変更・改善する。
3 日 目	自分の調理方法を工夫して実行しよう <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りから着火方法を再選択、課題を持ってチャレンジしよう ・グループで食事作りをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自改善を求めてグループの編成替えをする。 ・協力しての活動へ発展する。
4 日 目 ・ 5 日 目	役割分担をして食事を作ろう <ul style="list-style-type: none"> ・自然物を利用して資材集めをし、かまどを作ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人選択からグループ選択へ生活スタイルの変更。 ・工夫したかまどづくり・オープンづくり。 ・小規模共同活動から協同作業へ。
6 日 目		<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活への帰還。

個人選択の入り口としての例

まいぎり式	火おこし	火打ち石	太陽熱	乾電池	マッチ	薪組
ペットボトルで作ってみようぜ	火おこし材料を工夫しよう必ずつけるぞ	麻ひもで火口を作ろう一発着火だ	ビニールと水で大きなレンズを作ろう	電池とスチールウールで着火しよう	マッチ1本。一発でつけるぞ！	細木を組んでインディアンのお家だよ

火おこし器

火打ち石

太陽熱利用

乾電池利用

マ ッ チ

素材・食材

調味料

炎

水

道具

器

食材を調達しよう

調理方法を工夫しよう

食事作りをしよう

指導者の指導のポイント

子どもが自ら考える視点として、食事作りの中からも様々なポイントが考えられる。各自が選択肢を持ち、課題を持って取り組む中で楽しく・厳しく進んでいけるのである。

食事作りは多くの学校で実施されている活動である。その活動には様々な課題を盛り込むことができ、子どもたちが楽しみながら自ら課題を設定し学べる活動である。例として「調理の窓」の炎の入り口をみると上の図のように考えられる。まだまだ様々なラインができあがるであろうし、子どもたちが自分で見つけ・選びながら進めていける。また、水の窓に注目することもできるだろう。湧き水、清水、川の水、雨水…浄化の方法等支援してやることで、可能性はひろがっていく。現在までも繰り返されている活動もさらに視点を変え、子どもたちを楽しい食事作りの中で追い込んでみるのもいい。そうすれば個人から集団へ、リーダーが生まれ、共同から協同へ変容し成長することができると思う。

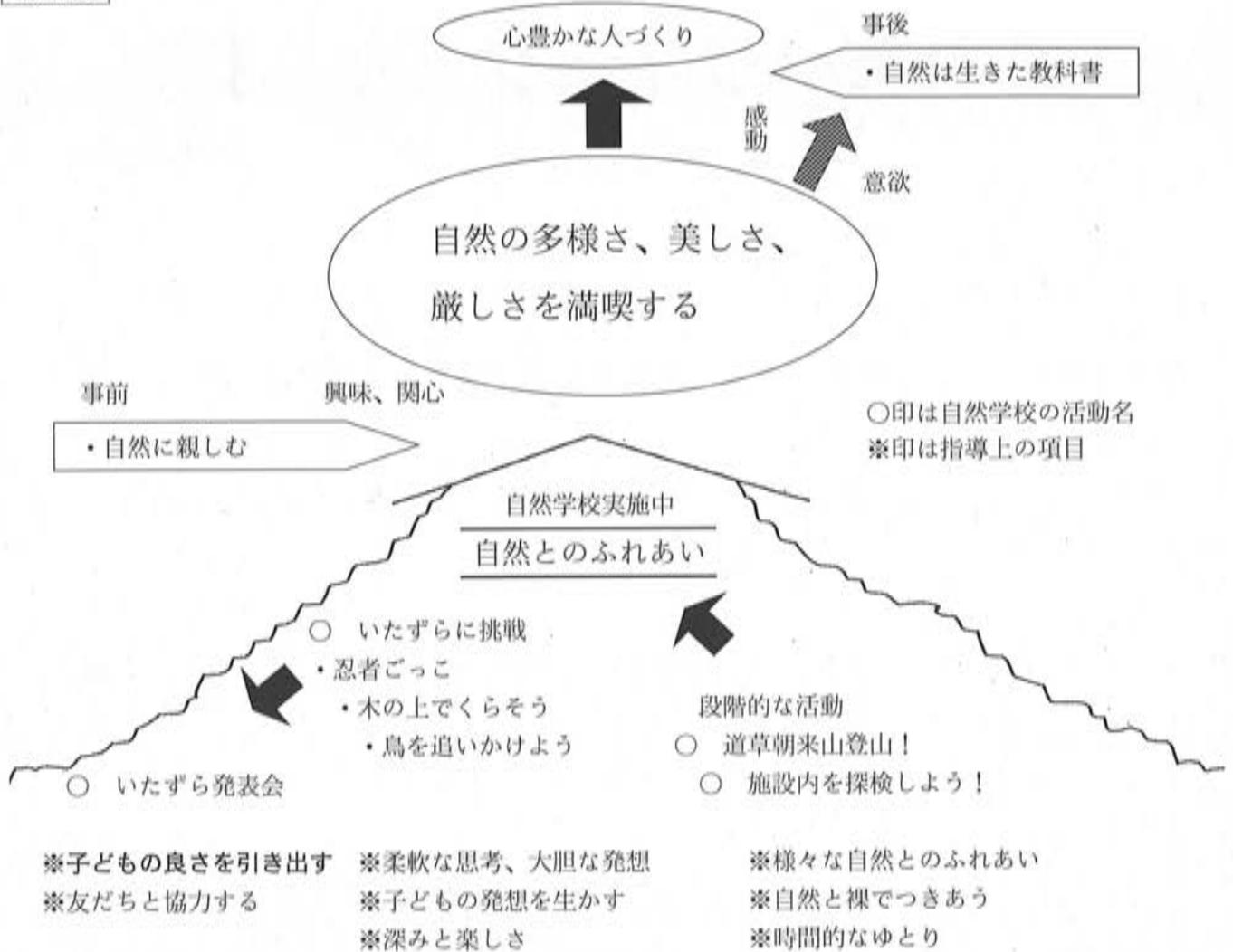
いたずら大好き！

◎このプログラムでねらうこと

子どもたちが本来持っている好奇心を呼び起こし、自然の中でのダイナミックな活動を通して、自然の多様さ、美しさ、厳しさを満喫する。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	施設内を探検しよう！	<ul style="list-style-type: none"> 施設を散策し、自分の気に入った場所を見つける。 時間をかけて自分のペースでゆっくり歩く。 不思議だな、なぜかなと思うことを大切にす。
2 日 目	道草朝来山登山！	<ul style="list-style-type: none"> 各自が登山ルート、準備物、お昼の弁当の場所、危険な動植物の見分け方等を考えて行動する。 友だち数人で活動し、思いつきや遊び心を生かす活動にする。 1人で活動することも危険面への配慮をした上で認める。
3 日 目	いたずらに挑戦 (選択活動)	<ul style="list-style-type: none"> 初日は2日目まで探検したことをもとに、自分が興味・関心をもったことを取り組む。 思いつきやいたずら心を大切に、どんどん発展させる。 活動する際の準備物等も指導者と相談して自分たちで取り組む。 いたずらの中間発表を持つことで、「情報交換」とさらなる意欲の喚起をうながす。 活動の形態はグループでもいいし、個人でもよい。
4 日 目	<ul style="list-style-type: none"> 忍者ごっこ 木の上でくらす 鳥を追いかけて 隠れん坊をしよう 自然のものをたべよう 夜の自然を感じよう 木の葉でふとんをつくろう 	
5 日 目		
6 日 目	いたずら発表会	
		<ul style="list-style-type: none"> 自分が取り組んだこと、つくりあげたもの、発見したこと等発表する。

構造図



指導者の指導のポイント

このプログラムは3日目、4日目、5日目に焦点をあてている。

子どもたちが自然の中で本来持っている好奇心やダイナミックな行動力を駆使し、自然の多様さ、美しさ、厳しさを満喫させることにある。

そのためにまず1日目と2日目で徐々に活動に取り組み、自然とのふれあい方を学び、それを基礎としていたずらに挑戦という活動に取り組むこととする。

指導者はここでは、子どもの良さを引き出すための豊かな感性や鋭い観察力の力量が要求される。つまり、教えこむのではなく子どもの意欲や興味、関心を引き出すことに重点をおいている。

Q & A

Q：3日目からの活動で思いがけないようなことや危険なことをいってきたらどうするのでしょうか？

A：できることとできないことがあるのは当然です。ただ話も聞かずにやみくもにやめさせたり、放任したりするのでなく、とにかくよくその意見を聞き、可能な方法を見つけてやるのが指導者のとるべき姿勢でしょう。

ふれあいウィーク



◎このプログラムでねらうこと

- 1 自然とのふれあいの中で、自然の美しさや厳しさを感じる。
- 2 人とのふれあいを通して、生きる喜びや苦しみを知り、思いやり、協調性、社会性などを身につける。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	『リーダーとともに』 (学級活動) ・開校式 ・自然ふれあいゲーム (夜) リーダーと散歩	・施設内の自然環境を利用してリーダーとともにゲームを楽しむことができるように、事前に自然ふれあいゲームを班で考えておく。
2 日 目	『友だちとともに』 (班活動) ・野外炊事	・指導者の野外炊事の事前指導後、役割や準備の分担等を話し合う。 ・指導者を招待する。
3 日 目	『名人とともに』 (選択活動) 〈例〉 ・陶芸 ・竹細工	・材料等の準備があるので、事前に自分の活動を決めておく。 ・学校に帰って自分たちが他の人に教えることができるように目的をもって取り組む。
4 日 目	・わら細工 ・自然観察 ・地域の伝統芸能 ・うどんづくり ・魚釣り	
5 日 目	『喜びも苦しみも』 (班活動) ・山に挑戦 ・8キロウォークに挑戦 (夜) リーダーとの集い	・どのコースを登るか、並ぶ順番はどうするか、しんどくなった子がでたらどうするか班で話し合う。 ・5日間をしっかりと振り返る。
6 日 目	『ともに生きる』 (一斉活動) ・帰宅準備 ・清掃活動 ・閉校式	・自主的に活動できるように清掃場所の分担・清掃方法・道具等について事前に話し合う。

指導者の指導のポイント

1 事前準備

(1) 人材の確保

- ・ 3、4日目の活動のための名人を地域でボランティアを募るか、実施施設あるいは、実施地の教育委員会社会教育課に紹介してもらい、連絡をとり確保する。

(2) 児童の活動希望の把握

- ・ 希望調査を行い、人数等を調整する。

2 児童の参画

- ・ 第1日目の活動内容を考える。準備物がある場合は作っておく。
- ・ 第2日目の野外炊事のメニューを選択する。(施設で献立が決まっているならばその中で選択させる。)
- ・ 第3、4日目の活動を選択する。複数選んでも良い。
- ・ 第5日目の活動を話し合いにより選択する。

3 児童把握、安全確保

- ・ 活動内容、参加者氏名は、前日に把握できるように掲示物を利用する。
- ・ 指導者の配置も表示しておく。

4 自然学校後の取り組み

- ・ 自ら体験してきたことを生かす機会をつくる。(異年齢交流、PTA活動など)
- ・ ふれあいウィークでふれあった人々(指導補助員、地域名人)とは、自然学校後も交流を持つようにする。

児童作文

「ボロボロ泣いた最後の夜」

とうとう自然学校も最後に近づいた時、「うそー。これで最後かー。早いなあ。」なーんて思った。そして、最後のリーダーとの集いを夜にした。いろんなゲームをした。次にみんなで輪になり、リーダーが感想を言い始めた。最初は〇〇だった。そこではぜんぜん泣かなかった。次に△△だった。いきなりリーダーが泣き出し、わたしまでブワッと涙が出た。となりの人も泣き出し、みんなもいっせいに泣き出した。次々にリーダーが言うとうんどん涙が出てくる。……(略)

ふれあいウィーク活動計画書

組 氏名

1日目	平成	年	月	日	曜日
活動名					
ねらい					
指導者					
友だち					
準備物					
活動時間	活動場所	活 動 内 容			
時 分					
～					
時 分					
気 を つ け る こ と					
・					
・					
感 想					
・					
・					
・					

Q & A

Q：児童が活動中、指導者はどのような支援をすべきでしょうか。

A：事前打ち合わせの時に、配慮を要する児童を共通理解しておき、その子の支援にあたり、活動内容が経験したことのないことならば、自分も一緒に体験したりしましょう。

チャレンジ！！



◎このプログラムでねらうこと

- 1 様々な自然とふれあうことにより、自然の美しさや神秘性を感じる。
- 2 自ら考え、工夫して自分の生活を創造していく意欲と態度を養う。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	『施設内探検』 ・開校式 ・環境マップづくり (夜) ナイトハイク	<ul style="list-style-type: none"> ・炊事場、手洗い場、道具置き場、救護室等今後の活動に必要な場所を確認する。 ・自分たちの基地をどこにつくるかを考えながら探検する。
2 日 目	『自然・不思議発見』 ・火おこし→野外炊事 ・山や川などで植物、小動物観察 ・環境マップづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・まいぎり式火おこし器でどのようにしたら火がおこせるかを考え、工夫しながら活動する。 ・今後の野外炊事のために基礎・基本を知る。 ・自然物の活用方法のヒントや材料確保のために、指導者とともに施設内の自然観察をする。
3 日 目	『自然の中で生活する I』 ・基地づくり ・宝物づくり ・生活用品づくり } (選択活動) (夜) 野外炊事	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住に関係する物を自然物で作ることにより、自然をより身近に感じる。 ・ロープのくくり方、刃物の使い方など適切な指導を受け、自らの安全に気をつける。
4 日 目	『自然の中で生活する II』 (選択活動) ・遊び道具づくり→遊ぶ ・生活用品づくり→使う ・買い物→野外炊事	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのめあてをもって活動する。 ・野外炊事は、自分たちで献立を考え、計画を立て、予算内で買い物をする。
5 日 目	『自然の中で生活する III』 ・基地遊び→基地撤去 (夜) 『キャンプファイヤー』	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの体験を生かして活動する。
6 日 目	『自然学校よ、さようなら』 ・清掃活動 ・閉校式	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に活動できるように清掃場所の分担・清掃方法・道具等について事前に話し合う。

指導者の指導のポイント

1 ねらいについて

ねらい1 様々な自然とふれあうことにより、自然の美しさや神秘性を感じる。

【行動目標】 様々な自然とふれ合わせる

ねらいを達成させるための方策

- ・ 多くの動植物との出会い → 場所を変える
- ・ 1個体の時間経過による変化 → 時間を変える

必要条件

自然とじっくりと
向かい合う時間の確保

【獲得要素】 自然の美しさ
神秘性 } を感じる柔らかな感性

ねらい2 自ら考え、工夫して自分の生活を創造していく意欲と態度を養う。

【行動目標】 自ら考え、工夫して自分の生活を創造する

ねらいを達成させるための方策

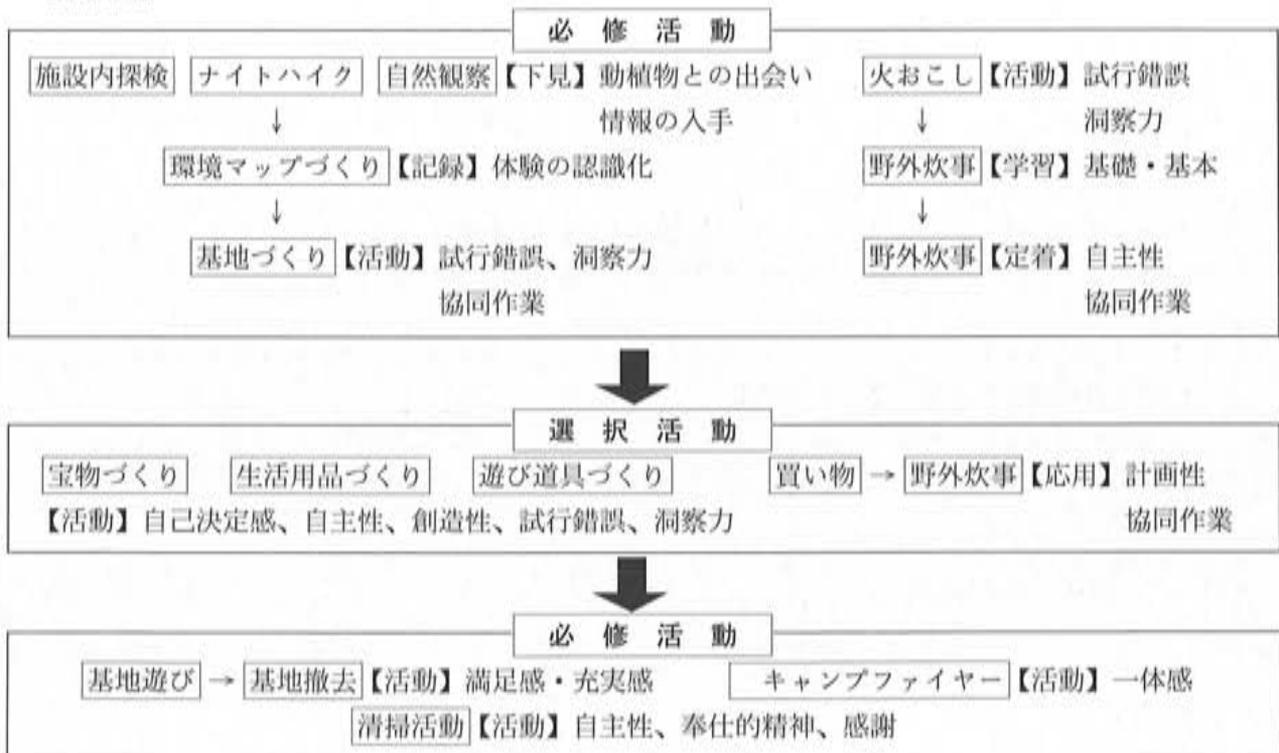
- ・ 情報の入手 → 五感を使う
- ・ 活動の決定 → 決定を変更できる自由
- ・ 道具の有効利用 → 事前指導による経験

必要条件

指導者の適切なガイダンス
活動手順（ルール）の明確化
支援体制の整備

2 プログラムについて

【関連図】



Q & A

Q：選択活動での児童の把握はどうすればよいのでしょうか。

A：施設の拡大地図を利用し、自分の活動場所に名前のピンをとめられるとよいでしょう。

何回も挑戦するよ！

◎このプログラムでねらうこと

“失敗は成功のもと”という諺どおり、子どもたちは何回も何回も失敗しながら、1つのことを会得していく。このプログラムでは、ご飯づくりを通して、1つのことを完全にわかることの意味を体験させたい。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	日頃の生活の中でだれがどのように食事づくりをしているか考える。 ・かんたんな夕食づくり 夕食	・親の後ろ姿に学ぶ (日常生活の見直し) ・自分で考えて取り組みます。
2 日 目	料理の基礎編 朝食 ・火のつけ方 ・ご飯のたき方 ・片づけのしかた 昼食 夕食	・絶対に身につけなければならない技術や知識を学ぶ。 ・何回もできるまでやりぬく。
3 日 目	料理の応用編 ・各自のメニューで活動する。 ・日本の伝統料理 ・世界各地の料理 ・自分の考えた料理	・4回の食事づくりの知識をもとに、自分なりの思いきったメニューに取り組む。 ・自分の料理と友達の料理とを食べてくらすパーティーを開催する等楽しい催しを企画する。
4 日 目	—〈選択メニュー〉— 空いた時間があれば各自で取り組むものを考える 〈例〉	・選択メニューはあくまで各自の子どもが判断し取り組む。
5 日 目	・自然の中を歩く ・めずらしいもの、おやつと思うものを発見する	
6 日 目	発表会で堂々と発表しよう。	・この1週間で挑戦し、やりとげたことを発表する。

指導の流れ

生活を豊かにする

※自立の楽しさ

失敗は成功のもと

突破

おかずをつくる

○ご飯を炊く

○火をつける

・まいぎり式火おこし

※失敗に価値がある

※試行錯誤と洞察力

※友だちと協力する

※時間的なゆとり

※柔軟な思考、大胆な発想

生きていくうえで
やらなければならない
ことは何か考える

※自分でやること

指導者の指導のポイント

このプログラムのねらいは、失敗をのりこえていくことに価値がある。子どもが自分で取り組むなかで、子どもの生きて働く知恵ともいべき核となる体験をさせることにある。

ここで大切なことは、活動に費やす時間軸を長くすることで、活動をじっくり何回もやり直し失敗を重ねながら、1つのことを自分のものにすることである。

Q & A

Q：このプログラムでは、食べることばかりを取り上げていて、他の活動が少ないが自然学校としてバランスがとれるのでしょうか。

A：3日目からの料理活動にメインをおきますが、時間のあいたフリータイムには、選択メニューを準備し、子どもたちの多様な興味・関心、意欲に対応する。

しかし、このプログラムでは、1点突破の精神で1つのことを徹底して取り組ませることにねらいを設けている。

ぼくたちのふれあいヒストリー

◎このプログラムでねらうこと

自然・人・地域とのふれあいを子どもたち自身が選択し、それぞれのふれあいの中から本物に出会う感動を体験させる。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	自然・人・地域とのふれあいを計画しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・人・地域とのふれあいの中からふれあいテーマを決めよう。 ・どんな活動でふれあいを深めるか考えよう。 ・個人で2～5日目を計画しよう。
2 日 目	個人で計画にそって実施しよう 〈例〉 (A) 自然とのふれあい (B) 人・地域とのふれあい	
3 日 目	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の身近な自然にふれよう ↓ ・山登りで新しい発見をしよう ↓ ・自然物を食べよう (炊飯) ↓ ・自然物に夢をたくそう (クラフト) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出かけよう ↓ ・地域の人とふれあおう ↓ ・地域の人を招待しよう ↓ ・地域の人とつくろう </div>
4 日 目		
5 日 目		
6 日 目	自然・人・地域とのふれあいに感謝しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・人・地域とのふれあいを記録に残そう。 ・デジタルカメラ等を活用させる。

プログラムの視点

子どもが自らテーマをきめ、どんな活動を実施するのか、自分で学ぶことのおもしろさ、楽しさを味わわせたい。

自分で選択し、計画したふれあい体験は、きめられたことをやりとげた時よりも満足感や達成感は計り知れない大きなものとなる。

子どもが自分の意志で自然や地域に出かけていき、そこで、本物の体験に出会う。

驚きと感動は、子どもたちにとって自信と勇気を与えるであろう。

- ← ※ 本物の体験は感動を生む
- ← ※ 自然と裸でつきあう
- ← ※ 自分で学ぶ
- ← ※ 自分の手足で稼ぐ
- ← ※ 時間的なゆとり
- ← ※ 子どもの発想を生かす



指導者の指導のポイント

このプログラムは、2日目～5日目の活動内容を子ども自らに決定させ、その計画に沿って実施するものである。個々の希望をできるだけかなえてやりたいものである。そのためには、地域のこと、施設の周りの自然のことなど、事前の踏査が必ず必要である。また、子どもたちが自然・人・地域とのふれあいをどのように計画するかを期待しながら見守り、時間的なゆとりがあることや、個人で取り組むべきか、グループで取り組ませるべきか、実施可能なか等、見極めることが大切である。

子どもが、「自分の手でつくり上げた自然学校」と感じることができ、それぞれのふれあいを大きな発見の場としたいものである。

Q & A

Q：ふれあいのテーマがなかなかきまらない場合や、4日間の計画の立て方について。

A：自然・人・地域とのふれあい活動の大まかな活動を提示してやることも一つの方法だと思います。施設の周りの様子を教えてやることや、施設探検でどんなことをしようかと考えさせるのもいいと思います。4日間を個人で実施することや、同じテーマや活動であれば、グループで実施することなど、多様な形態を考慮しておく必要があります。また、なるべくそれぞれのふれあいを深めさせるため、4日間を同一テーマで計画を立てさせた方がよいと思います。

スーパーマンになろう！

◎このプログラムでねらうこと

自然の中で友だちと一緒に思いっきり五感を働かせる活動を体験し、自然や友だちとふれあう楽しさを味わう。

	子どもの動き	子どもが自ら考えるための視点
1 日 目	感じてみよう 施設内を探検して、いろいろな自然とふれあおう！	<ul style="list-style-type: none"> • 時間をかけてゆったりと施設内を探検させる。 • 不思議に思ったこと、驚いたこと、楽しかったことなどを、グループや全体で発表する場を設け、自然に対する関心を高める。
2 日 目	聞いてみよう サウンドマップづくりに挑戦！	<ul style="list-style-type: none"> • サウンドマップの例を子どもたちに示し、マップづくりの方法を知らせ意欲づけをする。 • 1回の活動ではなくて、時間を決めて（例 早朝、日中、夕方、夜）活動させる。
3 日 目	食べてみよう 山菜を食べてみよう！	<ul style="list-style-type: none"> • 実際に山菜を食べ、自然の中に食べられる植物があることを知らせ、山菜について興味・関心をもたせる。 • 食べることの出来るいろいろな植物を紹介し、実際にグループで何種類探すことが出来るか課題を提示する。
4 日 目	匂ってみよう 匂いの正体を探そう！	<ul style="list-style-type: none"> • 一つの葉っぱを探す活動を通して、いろいろな匂いのする葉っぱがあることを楽しませる方法として、「この匂いの正体は？」等のゲームを取り入れる。 • 安全に楽しく活動させるように、かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）を知らせる。
5 日 目	触れてみよう 仲良くなった木を探そう！	<ul style="list-style-type: none"> • グループ対抗のゲームを取り入れ、仲間意識を高めながら、手の感触だけで出会った木を再び探そう。 • 感じたままの感触を言葉で表して、木のイメージを広げさせる。
6 日 目	スーパーマンになれたかな？ スーパーマンの誕生会	<ul style="list-style-type: none"> • 1週間の活動を通して、一番スーパーマンになれた日を発表させ、自然とふれあう楽しさを実感させる。

プログラムの視点

視 点

1 自然学校のねらいを達成するために

豊かな自然とのふれあいを体験させるために、指導者はインタープリターになろう。

2 一人一人が活かされるように

それぞれの活動はグループ活動が中心となるが、一人一人の思いや考えが十分反映される場を十分保証し楽しく活動できるようにすることが大切になる。友だちと協力しなければいけない活動が多くあるが、「協力しなければ出来ないよ。」的な指示的な指導の姿勢ではなく、活動している中で協力の大切さや一緒にやることの楽しさを味わわせてやりたい。それぞれの活動は、ゲーム的な要素を取り入れることにより楽しい活動の展開が予想される。

3 子どもたちにとってゆとりのあるプログラムにするために

ゆとりは、ただ時間的にゆったりしていることではなく、活動に流れがみられ、6日間を通してリズムがあることである。一つ一つの活動はよくても活動をつなげるとぎくしゃくしてしまう場合がある。プログラムづくりのポイントは、子どもたちの興味・関心を大切にしながら、どう自然と新鮮な出会いをさせるかである。そのためには、それぞれの活動が子どもたちの探求心をかりたてる主体的な活動になるように、6日間のそれぞれの活動のねらいに共通性をもたせることも大切なことである。



指導者の指導のポイント

- ・十分な現地調査による具体的な活動内容の決定
- ・楽しいゲームづくり
- ・5泊6日の体験を通してねらう仲間づくりの明確化
- ・活動時間の適切な設定
- ・指導者の役割（インタープリター）

※本物の体験は感動を生む

※さまざまな自然とのふれあい

※友だちと協力する

※時間的なゆとり

※自然と裸でつきあう ※自分の手足で稼ぐ

Q & A

Q：サウンドマップづくりで、子どもたちから「鳴き声の正体が分からない。」と質問があったらどうすればよいのでしょうか。

A：名前が分からなければ、聞こえたままマップに書き込ませます。名前を覚えることにより、いろいろな鳴き声に聞き入ることの方が大切です。

Q：子どもたちが感じたことを表現させる効果的な方法はないですか。

A：例えば、グループの話し合いを活発に行う活動、思ったことをどんどん記録する活動、デジカメ、ビデオ等の機器を利用させることもいいですね。

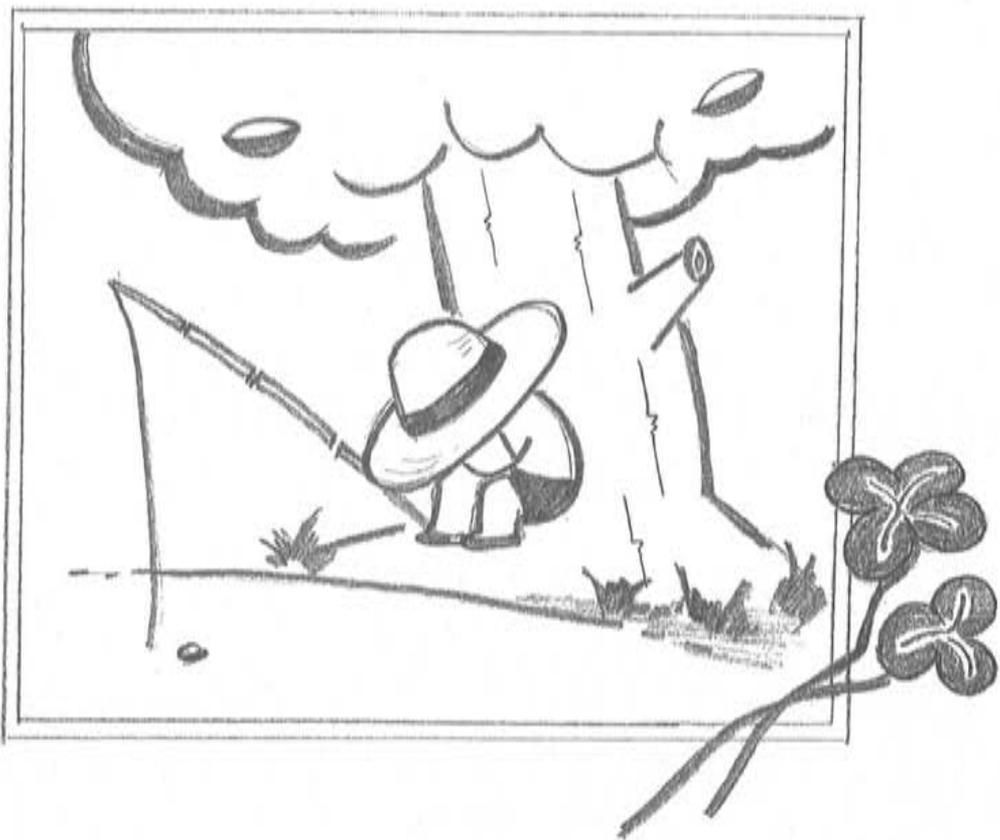
活 動 集

○「自然・人・地域」とのふれあい活動内容



I 自然とのふれあい活動

A 自然に学ぶ

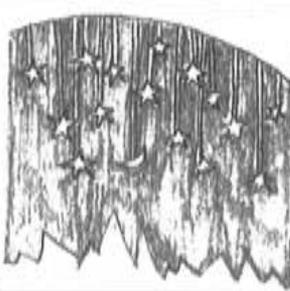


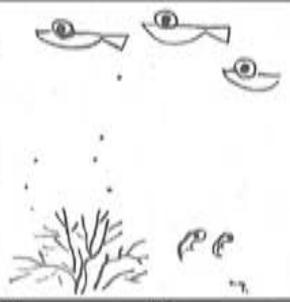
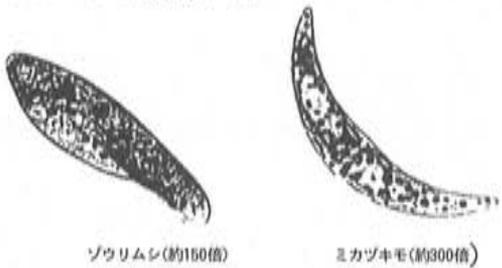
I 自然とのふれあい

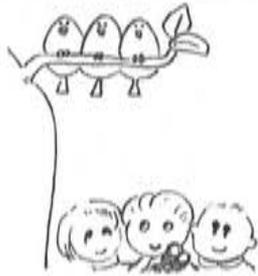
A 自然に学ぶ

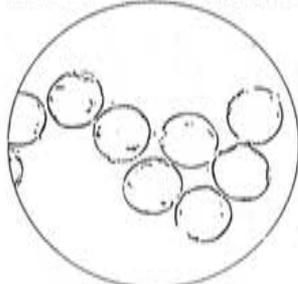
1	はさまの草木（植物観察）		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 植物を自然のまま置いて、観察する方法を身につける。 野草や樹木は環境によって種類や成長が異なることに気付く。 植物の特徴を知り、自然を愛する心情を育てる。 		
時 間	半日～1日	準備物 植物図鑑 樹木図鑑 ルーベ 照度計 バインダー 温度計 トランシーバー 地図 長靴 はさまの植物資料 救急バッグ 筆記用具 時計	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 観察についての諸注意や観察方法について説明を聞く。 2 グループで観察コースや課題を話し合う。 3 グループで観察をする。 4 観察記録をまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> 安全指導を徹底する。 植物は原則として、「折らない」「採らない」指導をする。 環境の異なる場所をコースに入れさせる。 野草と樹木に分け、グループで選択させることも良い。 つくり、匂い、色等特徴をつかませ、スケッチをさせる。 学術名のほか、自分たちで名前をつけさせると興味をもって取り組む。 どうしても採集したい場合は、根を残して採集させる。 * かぶれる植物 ヤマウルシ ツタウルシ ハゼ * とげのある植物 ノイバラ サルトリイバラ タラノキ * 毒のある植物 キツネノボタン タケニグサ マムシグサ 時間があれば発表させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 かぶれる草木（ウルシ、ハゼなど）について指導をする。 ハチやマムシなどについて指導をする。 		

2	生き物しらべ（昆虫観察）		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中のいろいろな生き物を観察し、活動の様子や環境との関わりに気づく。 自然の中の生き物を観察することによって、自然を愛する心情や態度を育てる。 		
時 間	半日～1日	準備物 ルーベ 昆虫採集網 虫かご バインダー 昆虫図鑑 長靴 トランシーバー 救急バッグ 筆記用具 時計	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 観察についての諸注意や観察方法について説明を聞く。 2 グループで観察コースや課題を話し合い、決定する。 3 グループで虫を採集し、観察する。 * 採集方法のいろいろ <ul style="list-style-type: none"> スイーピング法 ビート法 糖蜜トラップ法 トラップ法 ナイター法 その他 4 観察記録をまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> 安全指導を徹底する。 生き物の命を大切にする指導をする。 環境の異なる場所をコースに入れさせる。 落ち葉の下や土の中にも目を向けさせる。 じっくり観察させる。 見つけた場所、昆虫の様子等を記録させる。 蛾の観察の場合は、毒蛾に注意させる。 * 甲虫の例 カブトムシ、クワガタムシ、コガネムシ、タマムシ、オサムシなど 観察したあとは、元の場所に返すよう指導する。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 かぶれる草木（ウルシ、ハゼなど）について指導をする。 ハチやマムシなどについて指導をする。 		

3	スターウォッチング		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜空の美しさを知る。 ・ 星の明るさ、色、位置を観察し、星の特徴や動きを知る。 ・ 星や月と人々との生活の結びつきに気づく。 		
時間	1～2時間	準備物 天体望遠鏡 強力ライト 双眼鏡 星座盤 懐中電燈 筆記用具 ビニールシート 単一乾電池 (雨天時) ビデオ テレビ ビデオ教材 簡易プラネタリウム OH P 星に関する本	
活動内容			留意事項
1 天体望遠鏡を準備する。 2 星や星空の話聞く。 3 星座や流れ星を見つける。  4 天体望遠鏡で観察する。 5 感想を話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい取り扱い方を指導する。 ・ 神話等も入れて、興味を引く話を聞かせる。 * よく見られる主な流星群 4月30日～5月10日 明け方しか観測できない。 7月中旬～8月中旬 地味だが確実に出現する。 7月下旬～8月20日 速く、明るく、よく痕を残す。 10月15日～25日 速く、明るく、よく痕を残しやすい。 10月7日～11月30日 ゆっくりで明るいが出現数は少ない。 12月10日～16日 確実に出現し、一晩中見られる。 ・ 指導者はなるべく多くする。 ・ 正しい望遠鏡の扱い方をさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気温や虫さされを考慮して、長袖、長ズボンを着用させる。 ・ 天候によって、服装や観察時間を考慮する。 		

4	水辺の生き物 (水中微生物)		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水中の生き物を知り、その生態と環境について関心を高める。 ・ 生き物の生態を知り、自然環境を守ろうとする心や態度を育てる。 		
時間	半日	準備物 解剖顕微鏡 顕微鏡 ピンセット ルーベ スポイト 採集用バケツ ベトリ皿 図鑑 水槽 長靴 プランクトンネット スライドガラス 救急バッグ 筆記用具 スケッチブック (画用紙)	
活動内容			留意事項
1 採集方法の説明を聞く。 2 グループで水中の生物を採集する。 3 顕微鏡を準備する。 4 グループで観察する。  5 周辺の環境を観察し、調査した結果を話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 採集時の安全指導を徹底する。 ・ 観察に必要な量だけ採集させる。 ・ 藻なども採集させる。 ・ 顕微鏡の使い方を指導する。 ・ プランクトンなどは顕微鏡を使って観察させる。 ・ 時間を十分取り、じっくり観察させる。 ・ スケッチなどもさせる。 ・ 生活排水やごみが川に入っていることに気づかせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川の中には、長靴などをはいて入らせる。 ・ 川底は滑りやすいので走らせない。 ・ 体調の悪い児童は、長時間水の中に入らせない。 		

5	バードウォッチング		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 鳥の鳴き声や飛び方、大きさ、色等を観察し、野鳥とのふれあいを深める。 環境と鳥の生態との関連を調べ、動物愛護の精神を育てる。 		
時間	2～3時間	準備物 双眼鏡 スポットティングスコープ 鳥類図鑑 録音カセット カメラ 三脚 救急バッグ 筆記用具 カセットテープ フィルム	
活動内容			留意事項
1 野鳥観察の方法についての説明を聞く。 2 グループで決めた観察場所で、鳥の鳴き声を聞き、録音する。 3 双眼鏡やスポットティングスコープを使って観察する。 * 鳴き声の例 <ul style="list-style-type: none"> ツーピーツーピー→シジュウカラ ケンケン →キジ ピー →コゲラ キコキー キー→イカル ホーホケキョ →ウグイス 4 グループごとに図鑑等をもとに種類や生態について調べ、確かめやまとめをする。			<ul style="list-style-type: none"> 野山の色に近い色の服を着たり、静かに行動するなど、小鳥をびっくりさせないように気をつけさせる。 前もって、観察場所や観察ルートを決めさせる。 大きさ、色、飛び方など特徴を記録させる。 * 春～夏(夏鳥、留鳥、漂鳥) キジ キジバト カッコウ ツバメ ツツドリ ホトトギス アオゲラ コゲラ セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤブサメ エナガ ウグイス オオルリ シジュウカラ サンコウチョウ メジロ ホオジロ ヤマガラ イカル ハシボソガラス スズメ カケス カワラヒワ トビ * 秋～冬(冬鳥、留鳥、漂鳥) ハイタカ コジュケイ ヒヨドリ キジ キジバト セグロセキレイ ホオジロ モズ ジョウビタキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ ミヤマホオジロ カケス トビ ハシボソガラス 施設周辺の野鳥のスライド、写真などを参考にさせる。 (巣箱づくりや餌台づくり、観察小屋づくりに発展してもよい。)
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長袖、長ズボンを着用させる。 季節や観察時間によっては、暖かい服装をさせる。 		

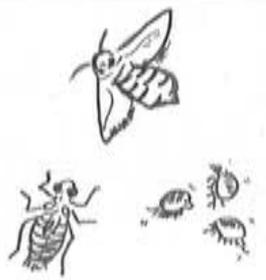
6	ミクロの世界		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 植物を詳しく観察することにより、植物が生命を維持育つためのしくみを理解する。 自然界の神秘に気づく。 		
時間	半日	準備物 顕微鏡 ピンセット ルーペ 採集箱 カッターナイフ かみそり スライドガラス 三角フラスコ プレパラートセット スポイト 植物図鑑 救急バッグ 筆記用具 スケッチブック(画用紙)	
活動内容			留意事項
1 採集について説明を聞く。 2 観察する花、葉、茎などを採集する。 3 採集した植物を顕微鏡で観察する。  <p>◀カボチャの花粉(約100倍)</p> 4 プレパラートを通して、いろいろな植物の花粉や気孔等を観察する。 5 観察したことをまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> 採集は、最小限とさせる。 ムラサキツユクサなど気孔のよく見える植物を指導者が用意しておき、状況に応じて観察させる。 顕微鏡の正しい使い方をさせる。 観察の仕方を前もって学習させる。 観察する植物名を調べさせる。 花のつくりや胞子なども観察させる。 スケッチさせる。 * スケッチのポイント スケッチをするときには、見えるもの全部をかくのではなく、目的とするものだけを正確に描く。 先の細い鉛筆を使って、線をはっきりと描く。 顕微鏡をきちんとかたづけさせる。 スケッチの展覧会に発展させてもよい。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> かぶれる草木(ウルシ、ハゼなど)について指導をする。 カッターナイフやかみそりの安全な使い方を指導する。 		

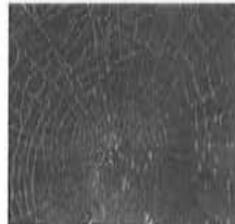
7	広さ・高さ・体積しらべ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 広さや高さ、円周や体積を調べることにより、広さ・高さ・体積の感覚を育てるとともに測定技術を習得する。 巨木等を調べることによって、木が育った過程を想像し、自然を大切にできる精神を育てる。 		
時間	半日	準備物 巻尺 (100、50m) 大型分度器 ロープ (100m) バインダー 体重計 月・太陽位置測定器 筆記用具	
活動内容			留意事項
1	グループで測定する場所や物・内容を決定する。 (例) ・石の体積 ・木の高さ ・広場の面積 等		<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の測定物案内図を提供し、参考にさせる。
2	測定方法を相談する。		<ul style="list-style-type: none"> 各グループの測定方法をチェックし安全な方法で測定させる。
3	グループで測定する。		<ul style="list-style-type: none"> 工夫して測定させ、できない場合はヒントを与える。
4	記録をまとめて話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> いろいろな測定方法について、感想を話し合わせる。 解答を用意しておく。 生活の中で簡単に測れる方法を知らせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 高いところに登ったりするときに、怪我をしないように指導する。 		

8	薬になる草		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 植物の中には、薬になるものがあることを知り、人間と植物との関係を理解する。 		
時間	2時間～半日	準備物 薬物図鑑 採集用具 ルーベ 長靴 救急バッグ 筆記用具 軍手 スケッチブック	
活動内容			留意事項
1	薬草についての話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> サンプルは示して理解させる。 採集はサンプルだけにし、根は残させる。 グループで図鑑や資料を参考にして薬草を探させる。 必ず植物の種類を確かめる。
2	薬草発見大会をする。		
薬になる木や葉の例 ・虫さされ ウワバミソウ カタバミ ・切り傷 オトギリソウ ミゾソバ ・おでき アケビ オオバコ ワラビ ヤブコウジ サルトリイバラ ・うるしかぶれ クリ カワラヨモギ ・神経痛 シシウド ・止血 ヨモギ ・やけど クリ		<ul style="list-style-type: none"> 健康増進 コシアブラ クズ ヤマノイモ アキグミ トキワイカリソウ 胃腸病 ホオノキ サンショ ヨモギ ゲンノショウコ オオヨモギ ホウレン 高血圧 クロバナノヒキオコシ ヤマグワ トチノキ ドクダミ ゲンノショウコ マタタビ かぜ オオヨモギ ヨモギ 頭痛 アキノキリンソウ フキ オオバコ ウド アキノキリンソウ 	
3	薬草の匂い、味など確かめてまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> 事前にドクダミ茶などを用意しておき、飲ませる。(ドクダミ、スギナなどたくさんあるものについては、乾燥させて持ち帰り、学校で飲むのもよい。)
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長袖、長ズボンを着用させる。 湿地や川に入る場合は、長靴を使用させる。 毒のあるものを事前に指導し、食べる時は必ず点検する。 		

9	健康ドリンク (薬草茶)		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 植物の中には、薬になるものがあることを知り、人間と植物との関係を理解する。 		
時間	2時間～ 半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1 薬草採集についての注意を聞く。 2 知っている薬草を紹介しあう。 3 薬草を採集する。  <ol style="list-style-type: none"> 4 採ってきた薬草を洗って干す。 5 以前から干してあるのを煎じて飲む。 			<ul style="list-style-type: none"> サンプルを用意し、参考にさせる。 安全なものを採集させる。 必要な量だけ採るようにさせる。 根ごと抜かないで葉を摘まむようにさせる。 畑や田の畦を荒らさないようにさせる。あらかじめ許可を得ておく。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 長袖、長ズボンを着用させる。湿地や川に入るときは、長靴をはかせる。 毒のあるものを事前に指導し、食べる時は必ず点検する。 	

10	写生 (植物)		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 植物の特徴を自分の表現方法で表し、植物をくわしく観察する力を育てるとともに、自然を大切にすることを育てる。 		
時間	2時間～ 半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1 描きたい植物を決める。 2 描く植物をよく観察する。 3 その植物の特徴に留意して、細かく描く。  <ol style="list-style-type: none"> 4 台紙に貼る。 5 作品鑑賞会をする。 			<ul style="list-style-type: none"> 活動範囲を指定する。 雨の場合は、描きたい植物を採集させ、室内等で描かせる。 細かいところまでじっくり観察させる。 上手に描かせるのではなく、丁寧に細かく描かせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 虫刺されなどを防ぐ服装にさせる。 かぶれる草木 (ウルシ、ハゼなど) に注意させる。 	

11	光に集まる虫		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 虫の種類や習性について調べる。 たくさんの虫が生きていける環境の大切さに気づき、自然環境についての関心を高める。 		
時 間	1時間～ 半日	準備物 昆虫図鑑 ルーペ 捕虫網 夜間昆虫採集用具 救急バッグ 懐中電 燈 筆記用具 軍手 単一乾電池	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 夜の昆虫について話を聞く。 2 誘蛾灯をつけ、虫の集まる様子を観察する。 3 集まった虫を採集し、図鑑で調べる。 * 主な蛾 マツカレハ スカシカギバ オビカギバ セスジナミシャク コカクモンハマキ キンモンガ マドガ ウスグロスジツトガ ヤマトエダシャク ウスオエダシャク フタヤマエダシャク エグリヅマエダシャク タケカレハ ツマジロシャチホコ オオエグリシャチホコ ナシケンモン ホシボシャガ ハナオイアツバ スジベニコケガ オオミズアオ モモスズメ 4 感想を話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> 毒蛾に注意させる。 毒針毛が刺さったら、決してこすらせない。すぐに流水で洗いおとすか、セロハンテープを軽く当てて取る。 昼間森林や施設周辺を散策すると、たくさんの蛾を見ることが出来る。きれいに蛾や保護色をした蛾を昼間に観察させるとよい。 蛾と蝶の違いを考えさせる。 毒のある虫の種類 イラガ カ アブ ブヨ ハチ モンシロドクガ チャドクガ キドクガ カレハガ ツツガムシ ダニ ムカデ ヤマビル 採集した虫は自然に返させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 毒蛾に注意させる。 蚊など虫刺されの予防をさせる。 気温や虫刺されを考慮して、長袖、長ズボンを着用させる。 		

12	雨の中の生き物		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 降雨時、降雨後に活発に活動する生き物を観察する。 生き物を観察することによって、自然への興味や関心を高める。 		
時 間	2時間～ 半日	準備物 ルーペ 生物図鑑 バインダー 採集箱 長靴 傘 救急バッグ 筆 記用具 雨具	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 グループで観察コースや観察場所を話し合って決定する。 2 決定した場所やコースに従って生き物を探し、観察する。   雨を避けているチョウ 雨にぬれたくもの巣 3 観察したことをまとめ、発表する。			<ul style="list-style-type: none"> 生き物はむやみに捕らない、殺さない指導を徹底する。 持ち帰って観察した後、弱らないうちに自然に返させる。 雨を避けてじっとしている生き物も見つけさせる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 道がすべりやすくなっているので、注意させる。 ぬれるので、体調の悪い児童はむりをさせない。 ぬれて冷えた場合は入浴をさせる。 		

13	木はだしらべ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 木の種類や成長段階によって、木はだに違いがあることに気づく。 自然環境について関心を高める。 		
時間	半日～1日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 木はだしらべの方法を聞く。 グループごとに木はだの型どりやこすり出しをする。 型どりやこすり出しをした木の名前を調べる。 木はだの型やこすり出しを他のグループと交換し、もとの木を見つけるゲームをする。 木の特徴について気づいたことを発表する。 			<ul style="list-style-type: none"> 型のとりかたやこすり出しの方法を指導する。 同じ種類の木でも、成長の違うものを調べさせる。 五感を使って観察させる。 <p>* 型のとり方</p> 
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> かぶれる草木（ウルシ、ハセなど）について指導をする。 		

14	自然すごろくづくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の植物、鳥、虫、地形等を観察し、すごろくづくりの活動を通じて、身近な環境に対する認識を深める。 ゲームを楽しみ、友だちとのふれあいを深める。 		
時間	1日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> すごろくの作り方の説明を聞く。 グループでコースを観察し記録する。 グループで協力して、すごろくを作る。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ここにはムカデがいるから1回休みにしよう。 この坂はきついから、2つ進めにしよう。 グループですごろくをして楽しむ。 すごろくを交換して、ゲームを楽しむ。 学校に持ち帰り、低学年にもゲームを楽しんでもらう。 			<ul style="list-style-type: none"> 自然観察をしたものを十分生かしたすごろくにさせる。 いろいろなものを細かく観察させる。 近道や休み等をうまく組み合わせ、楽しいすごろくにさせる。 グループの人数によって、紙の大きさを考えさせる。 他のグループの観察のよさや工夫のよさを見つけさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> かぶれや虫刺され防止の指導をする。 		

B 自然から創る

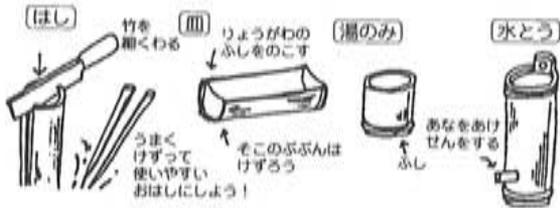


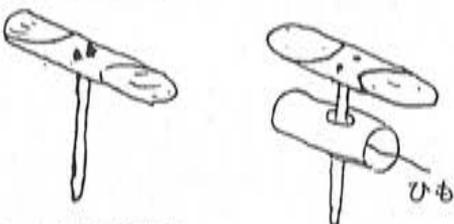
I 自然とのふれあい

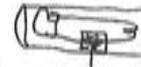
B 自然から創る

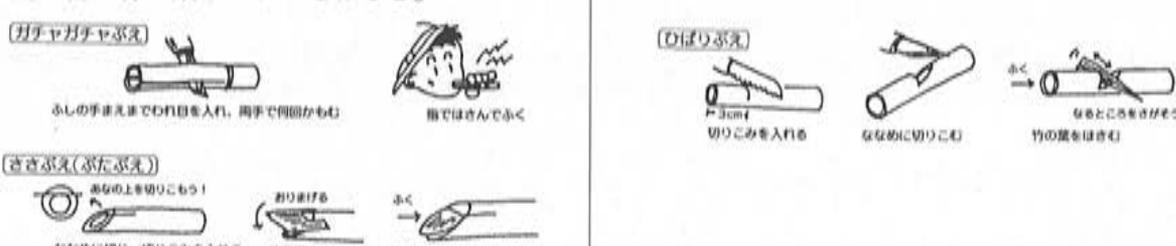
1	丸太小屋づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 間伐材などを利用して小屋を作って宿泊し、暗闇の自然を体験する。 ものをつくる喜びを通して協力する楽しさを味わわせる。 		
時間	1日	準備物 間伐材 シート ロープ ランタン 脚立 寝袋 段ボール箱 のこぎり はさみ カッターナイフ 救急バッグ 懐中電燈 荒縄 ガムテープ ビニールひも 竹 軍手 ビニールシート 単一乾電池	
活動内容			留意事項
1	小屋の作り方を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方など安全指導を徹底する。 縄の結び方を指導する。 自然のものを利用させる。(伐採は施設職員と相談する。) 小屋の囲いは、すすき、雑木の枝、シート、段ボール箱などを利用させる。 自然の中で十分遊ばせたり、探検させたりする。 季節によっては寒いので、防寒の指導をする。 急に荒天になる場合もあるので、すぐ対応できる体制をとっておく。
2	材料を選び小屋を作る。		
3	他のグループの小屋を見学する。		
4	小屋を基地として遊ぶ。		
5	小屋に宿泊をする。		
6	後かたづけをする。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 道具の安全な使い方を指導する。 長袖、長ズボンで活動させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 児童の体調を把握して宿泊させる。

2	焼き板		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 手作りの楽しさや木目の美しさを知り、創作の喜びを味わう。 		
時間	2時間～半日	準備物 火箸 バケツ 電動糸のこ 彫刻刀 ワイヤブラシ きり のこぎり ガスバーナー ペンテックス かざりひも たわし ねじくぎ 杉板 ガスボンベ まき 軍手 雑巾(タオル)	
活動内容			留意事項
1	焼き板の作り方を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 電動糸のこ、彫刻刀、ガスバーナー等の使い方を指導する。 杉板の他、丸太等を焼いて磨くことも考えられる。 時間が十分とれない場合は、事前に形をきっておくか、そのままの形で焼かせる。 焼き具合を指導する。 木を燃やしてその火で焼く場合とガスバーナーで焼く場合があるが、どちらにするかを決めておく。 完全に火が消えてからこすらせる。 ワイヤブラシ、たわし、雑巾等でしっかり磨かせる。木目に沿って磨かせる。 杉の美しい木目を生かすように、ぬりすぎないように注意させる。
2	杉板を好みの形に切る。		
3	杉板を焼く。		
4	杉板を磨く。 (ペンテックスなどで字や絵をかく。)		
5	壁掛けの場合は、飾りひもをつける。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方を指導する。 電動糸のこを使用する場合は、指導者が必ずつく。 		<ul style="list-style-type: none"> 火傷をしないように火箸を必ず使用させる。 ガスバーナーの正しい使い方を指導する。

3	竹の食器づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 竹の特徴を知り、生活に生かすとともに、手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	竹引きのこぎり 竹割りなたきり 金づち 小刀 やすり ものさし 紙やすり 竹 軍手
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1 何を作るか決める。 はし おわん さら コップ スプーン フォーク等 2 作り方を聞く。 3 竹を作るものの大きさに切る。 4 形を整えるために割ったり、削ったりする。 5 磨きをかける。 6 作った食器を使って食事をする。 			<ul style="list-style-type: none"> 見本を用意する。 作り方を書いたプリントを用意し、参考にさせる。 のこぎりの正しい使い方を指導する。 刃物の安全な使い方を指導する。 刃物をいためないように台の上で作業させる。 切り口や割ったところをやすりでなめらかにさせる。 一度使ったら捨てるのではなく、自然学校期間中使用するとか、家に持ち帰って使用するとか考えさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 刃物の安全な使い方を指導する。 竹を切るときは、2人組か3人組で作業させる。 軍手をつけるとすべりやすいので気をつけさせる。 		

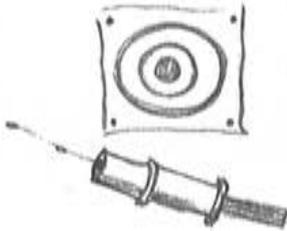
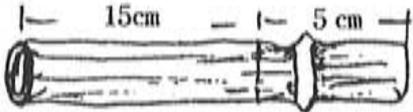
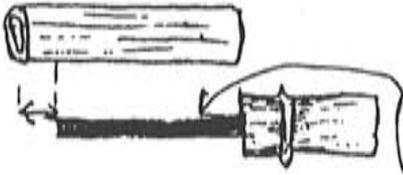
4	竹とんぼづくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 とんぼの羽の削り方を工夫することにより飛び方に違いがでることに気づく。 		
時間	2時間～半日	準備物	竹引きのこぎり 竹割りなたきり 小刀 ものさし 竹 木工用接着剤 軍手
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1 竹を設計図の大きさに切ったり割ったりする。 2 竹を削って、はねや心棒を作る。 * 竹とんぼの種類  <ol style="list-style-type: none"> 3 竹とんぼを飛ばす。 4 飛ばす競争をする。 			<ul style="list-style-type: none"> 刃物の正しい使い方の指導をする。 はねの削る方向を間違えないように指導する。 飛ばし方をよく指導する。 うまく飛ばない原因を考えさせ、修正させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 刃物の正しい使い方の指導をする。 広い場所で飛ばさせ、人に当たらないように注意させる。 		

5	名札づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 木の形や美しさを考えて製作することにより、手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 個性豊かな名札を作り、その出来栄を認め合う。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	小枝を取ってくる。		<ul style="list-style-type: none"> 直径2～3 ぐらいの小枝を切りとらせる。 のこぎりの使い方を指導する。 必要な分だけ枝を取るよう指導する。 かぶれる木に注意させる。
2	取ってきた枝を4～5 位の長さに切る。		
3	半分に縦割りする。		
4	表皮のついている部分を両端を残して削り取る。		
5	名前を書く。または、彫る。		
			
6	安全ピン止めを作り、安全ピンを取りつける。		<ul style="list-style-type: none"> 小刀の使い方を指導する。 彫刻刀を使う場合は、使い方を指導する。
			
7	ニスを塗る。		
			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 削るものが小さいので、小刀や彫刻刀の使い方の指導を徹底する。 木を取りに行くときは、軍手、長靴を使用させる。 		

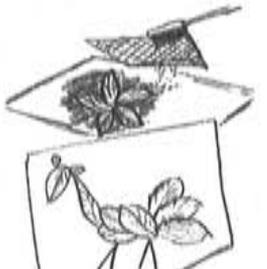
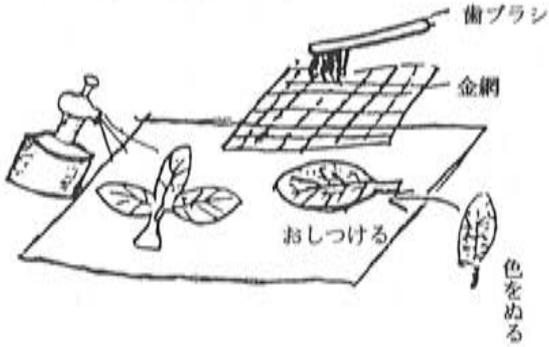
6	竹笛・草笛づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然のものを使って作ることに、手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	竹を適当な大きさに切る。		<ul style="list-style-type: none"> のこぎりやなたの使い方を指導する。 切る角度、割れ目など各自工夫させる。 小刀の使い方を指導する。 紙やすりで磨かせる。 大きさを考えさせる。
2	吹き口を斜めに切り、割れ目をいれる。		
3	割れ目に竹の葉やハランをはさむ。		
			
4	音を出してみる。		<ul style="list-style-type: none"> どの子も確実に音が出るように指導をする。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 吹き口を斜めに切るので小刀をよく磨いておく。 とげがささらないように注意させる。 		

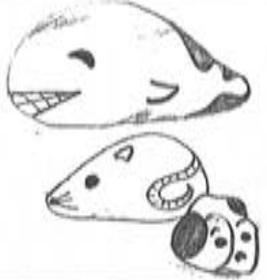
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

7	杉・紙玉鉄砲づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の材料を活用した手作り工作の楽しさや創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容		留意事項	
1 杉の実を集める。 2 筒と心棒を作る。		<ul style="list-style-type: none"> 杉の実がない場合は、紙でも良い。 のこぎりや小刀の使い方を指導する。 筒と心棒の長さの調整が大切なことに気づかせる。 	
			
3 杉の実をつめて飛ばす。 4 楽しく遊ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> 飛ばない原因を見つけて修理させる。 紙玉の場合は、水にぬらしてしばってから使わせる。 飛ばしあいや的当てをさせる。 人に向けて撃たないように気をつけさせる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 飛ばすときには、絶対人の方に向けて撃たないように気をつけさせる。 刃物の安全な使い方を指導する。 		

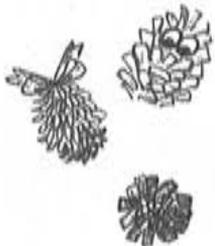
8	葉脈しおり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 葉のつくりを知るとともに創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容		留意事項	
1 葉脈のしっかり出る葉を採集する。 2 水酸化ナトリウム水溶液（5％）に葉を入れ、アルコールランプで煮、色が変わってからピンセットで引き上げ、水洗いする。 3 歯ブラシで念入りにたたく。		<ul style="list-style-type: none"> ヒイラギ、ツバキなどを採集させる。 アルコールランプの使い方をきちんと指導する。 水酸化ナトリウム水溶液がつかないように気をつけさせる。 葉が乾かないように何回もアルコールをつけ、新聞紙の上で場所を変えながらたたかせる。 	
4 葉脈だけになったら、ティッシュなどではさみ、重石を乗せて乾かす。 5 バウチラミネーターでしおりにする。		<ul style="list-style-type: none"> ラッカーなどで好みの色分けをするのも良い。 安全ピンをつけるとブローチにもできる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 水酸化ナトリウム水溶液がかかった場合は、すぐに水洗いをさせる。 アルコールランプの使い方に気をつけさせる。 かぶれる木に注意させる。 		

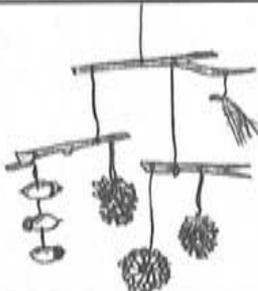
9	葉っぱの押し絵		・ 形や色などを考えて葉を集め、葉の形を写したり、形を取ったり、張りつけたりして作品を作ることにより、創作の喜びを味わったり、自然への興味や関心を高める。						
時間	半日	準備物	長靴 金網 霧吹き 画用紙 絵の具 歯ブラシ 古新聞紙 ビニー ル袋						
活動内容			留意事項						
1	自分のテーマをしっかりと考える。 テーマに沿った葉を採集してくる。		・ 作品例を見せて考えさせても良い。 ・ かぶれる木に気をつけさせる。 ・ 必要な分だけ採らせる。						
2	3 作品を作る。 * 方法 ・ 葉に色を塗り、画用紙に押しつける。 ・ 葉を置き、その上から細かい網を使って絵の具をつけた歯ブラシでこすり形をうつす。 ・ 紅葉の季節には、いろいろな色の葉を張りつける。 4 乾かしてから、作品鑑賞会をする。		 ・ 友だちの作品の良いところを見つけさせる。						
安全指導のポイント	・ 採集場所の安全確認をしっかりとしておく。 ・ かぶれる草木（ウルシ、ハゼなど）に気をつけさせる。								

10	石の文鎮		・ 身近な自然物（石）に関心を持つ。 ・ 形、色などの特徴を生かした作品を作ることにより、創作への喜びを味わい、思い出の作品を作る。						
時間	半日	準備物	ニスのはけ ニス入れの皿 はけ洗い用の缶 画版 長靴 ニス 絵の具						
活動内容			留意事項						
1	1 川原で石拾いをする。 2 石をきれいに洗って乾かす。 3 色を塗ったり、絵や字をかいたりする。 4 乾いたらニス塗る。 5 作品鑑賞会をする。		・ 水の量や深みなど川における安全に気をつけさせる。 ・ 作りたい文鎮のイメージを描きながら石を探させる。 ・ イメージにあわせて色つけをさせる。 ・ 自然学校の思い出になるように楽しい作品を作らせる。 ・ 友だちの作品の良いところを見つけさせる。						
安全指導のポイント	・ 川原で危険なことは何かを知らせる。								

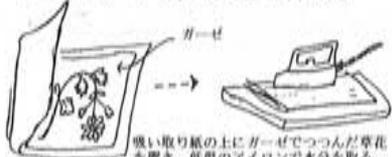
I 自然とのふれあい

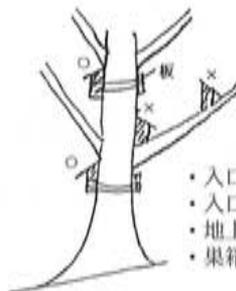
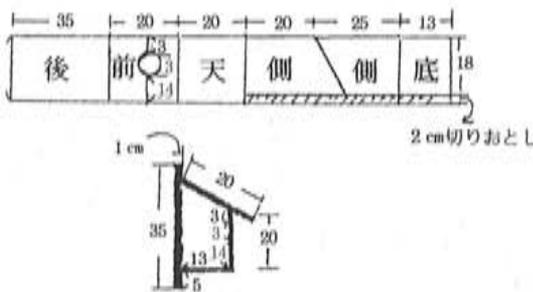
B 自然から創る

11	松かさブローチ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然物に関心を持つ。 形、色などの特徴を生かした作品を作ることにより、創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> どのようなブローチを作るかを考える。 松かさを集める。 松かさを切ったり、削ったりする。 松かさに模様を描き、色塗りをする。 ニスを塗る。 安全ピンをつける。 ブローチをつけファッションショーをする。 			<ul style="list-style-type: none"> 松かさの特徴を生かした作品を作らせる。 カッターナイフの使い方を指導しておく。 服に合わせて色を考えさせる。 友だちの作品の良いところを見つけさせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 採集場所の安全確認をする。 刃物の安全な使い方を指導する。 	

12	モビール		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然物に関心を持つ。 形、色などの特徴を生かした作品を作ることにより、創作の喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> どんなモビールにするか考える。 つるす材料を採集する。 採集してきた材料を好きな大きさや形にする。 糸につるす。 全部をつなぐ。 作品発表会をする。 			<ul style="list-style-type: none"> 作品例を見せて考えさせる。 グループごとに採集に行かせる。 採集してきたものの特徴をいかすようにさせる。 バランスを考えながら取りつけさせる。 バランスを考えながらつなげる。 友だちの作品の良いところを見つけさせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 採集場所の安全確認をする。 小刀の使い方を指導する。 かぶれる草木（ウルシ、ハゼなど）に気をつけさせる。 	

13	はにわづくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 粘土細工を通して、創作の喜びを味わい、古代の人々の暮らしへの興味や関心を高める。 		
時間	半日	準備物 焼き窯 簡易ろくろ へらセット 粘土板 はにわ模型 粘土 灯油 新聞紙 タオル	
活動内容			留意事項
1 何を作るか決める。 2 粘土をしっかり練って形を作る。 3 陰干しをする。 4 素焼きをする。 5 作品展をする。			<ul style="list-style-type: none"> はにわ模型を参考にさせる。 粘土をしっかり練り、中の空気を出させる。 飾りをつける場合は、接着面を工夫させる。 名前をはっきり書かせる。 完全に乾燥させてから焼く。 友だちの作品の良いところを見つけさせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 火傷に注意させる。 	

14	押し花づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 植物のつくりや特徴を学習する。 植物の美しさに気づかせ、植物に対する興味や関心を高める。 		
時間	1日	準備物 剪定ばさみ 植物採集箱 植物図鑑 バインダー アイロン パウチラミネーター 長靴 救急バッグ パウチフィルム 台紙 吸い取り紙 ガーゼ ビニール袋	
活動内容			留意事項
1 植物採集の計画をたてる。 2 採集用具を準備して、施設周辺に観察にでる。 3 自分の気に入った草花を最小限採集する。 4 スケッチや記録をとる。 5 インスタント押し花を作る。  <p>吸い取り紙の上にガーゼでつんだ草花を置き、低温のアイロンで水分を取る。</p> 6 自分の好きな作品に仕上げる。 7 発表会をする。			<ul style="list-style-type: none"> 施設内の植物の配置図の説明を聞きながら、グループで採集したいものを考えさせる。 かぶれる木に気をつけさせる。 根は残して必要な分だけを採集させる。 採ってはいけないものを確認させる。 図鑑で名前を調べさせる。 アイロンの使い方を指導する。 吸い取り紙の上にガーゼを置き、花びらや葉が折れないように丁寧に並べて包み、アイロンで押さえさせる。 押し花を台紙にはり作品を作らせる。 サララップで包んだり、パウチラミネーターで仕上げさせる。 友だちの作品の良いところを見つけさせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> アイロンの使い方の指導をする。 採集時は、長靴や軍手を使用させる。 	

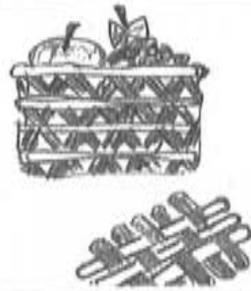
15		小鳥の家づくり		
ね	ら	い	<ul style="list-style-type: none"> 生活工具の操作技術を習得する。 創作の喜びを味わう。 動物愛護の心を育てる。 	
時	間	準備物	のこぎり 糸のこ かなづち きり 電動のこぎり 曲尺 脚立 か 1日 んな ペンチ 設計図 くぎ 板 しゅろ縄 針金 筆記用具	
活動内容		留意事項		
1 作りたい果箱を選ぶ。 2 板に印をつけ、切る。 3 釘を打ち、組み立てる。 4 果箱かけをする。		<ul style="list-style-type: none"> 何種類かの果箱を提示し、その中から選ばせる。 のこぎり、糸のこなど用具の正しい使い方を指導する。 友だちと協力しながら作らせる。 果箱をかける場所の打ち合わせを施設職員としておく。 		
 <ul style="list-style-type: none"> 入口をやや下向きにする。 入口を山の斜面の下方に向ける。 地上から2～5mの高さにつける。 果箱と果箱は、50cm以上はなすこと。 		 <ul style="list-style-type: none"> 木の成長のために、しゅろ縄で固定させる。 		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 板を切るときは、友だちに押さえてもらいながら切らせる。 のこぎり、糸のこなど用具の正しい使い方を指導する。 果箱をかけるとき、脚立をしっかりと支えさせる。 			

16		はがきづくり (牛乳パック)		
ね	ら	い	<ul style="list-style-type: none"> 資源の再利用に関心を持つ。 手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 	
時	間	準備物	紙すき器 アイロン アイロン台 ミキサー のり 牛乳パック 古 半日 いたオル 日本手ぬぐい	
活動内容		留意事項		
1 牛乳パックのナイロンをはがす。 2 ミキサーに水とちぎった牛乳パックを入れ、どろどろになるまでかきまぜる。 3 広い入れ物に水を入れ、紙すき棒を浮かべ、その中へミキサー内の液を入れる。 4 紙すき棒をまっすぐに持ち上げ水を切る。 5 日本手ぬぐいではさんでアイロンをあて、表面のでこぼこを平らにする。		<ul style="list-style-type: none"> 2～3日前から牛乳パックを石鹼水につけておく。 紙のかたまりがなくなり、のり状になるまで溶かさせる。 一夜おいておく方が良い。 浮かべたままゆすり、表面を平らにする。模様を入れる場合は、1回目は薄くすき、草花を入れて、もう一度薄くすく。 直接アイロンをかけさせない。 		
安全指導のポイント				

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

17	草や木の葉で紙を作ろう		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 紙づくりを通して、植物の特徴を理解する。 いろいろな材料で作ることを通して、生活の中の植物利用を知る。 		
時間	1日	準備物 はさみ なべ 水酸化ナトリウム すり鉢 紙すき器 アイロン ス トップウォッチ 定規顕微鏡 ばねばかり 記録用紙 絵の具 ガー ーゼ袋 ガーゼ さらし布 材料 筆記用具	
活動内容		留意事項	
1 作り方の説明を聞く。 2 材料を準備する。 (例) ・木の葉—ツバキ イチョウ マツ クワ 等 ・草—スギナ ヨモギ フキ 等 ・野菜—ネギ、シソ、ダイコン 等 3 紙を作る。 ①材料を鍋に入れやすい大きさに切る。 ②水酸化ナトリウム(10%)で煮る。 ③ガーゼの袋に入れてよく水洗いする。 ④すり鉢に入れてする。 ⑤すりつぶした材料を水に溶かし、紙すき棒ですく。 ⑥パネルの上に広げ、自然乾燥させる。 ⑦上下を布ではさみ、アイロンで押さえる。 ⑧アイロン仕上げをする。 4 作った紙の特徴を調べ、一覧表にまとめる。 (例) ・色、手ざわり ・紙の強さ(引き、曲げ) ・筆記具による書き具合 ・吸水性 ・繊維の様子 5. 結果を発表する。		<ul style="list-style-type: none"> 材料を水洗いし、枯れている部分は捨てさせる。 材料が液につかるよう、落としぶたをさせる。 材料がどろどろになるまで十分にすらせる。 ガーゼなどで押さえて水分を取らせる。 水溶液やアイロンの扱いについて気をつけさせる。 ノートの紙を基準に比べさせる。 短冊を作り、ばねばかりで引っ張りの強さを調べさせる。 鉛筆、フェルトペン、絵の具などで書き具合を調べさせる。 10秒間でどれだけ水を吸い上げるか、定規で測らせる。 繊維の様子を顕微鏡で観察させる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> かぶれる草木(ウルシ、ハゼなど)に注意させる。 火傷に気をつけさせる。 水酸化ナトリウム水溶液がかかった場合は、すぐ水洗いさせる。 		

18	紙細工		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな紙を使い、生活に役立つものを作る。 紙と生活とのつながりを考える。 		
時間	半日	準備物 はさみ カッターナイフ ニス用はけ はけ洗い用缶 のり ニス 絵の具 紙	
活動内容		留意事項	
1. 作るものを決める。 (例) ・飛行機 ・なべしき ・風車 ・こま ・かご 等 2 工夫しながら作る。 3 出来上がった作品の展覧会をする。 4 生活の中での紙について話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> いろいろな作品を見ながら、作りたいものを決めさせる。 友だちの作品の良いところを見つけさせる。 資源保護について考えさせる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 刃物の正しい使い方について指導する。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

19	看板・標識づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手作りの工夫をさせることにより、創作の楽しさや出来上がった喜びを味わう。 		
時間	1日	準備物 のこぎり ペンチ 曲尺 かなづち のみ かけや 釘抜き スコップ プ 糸のこ 電動ドリル ペンキ用はけ ニス用はけ ニス用皿 火 箸 ペンキ用はけ洗い缶 バケツ ワイヤブラシ ガスパナー くぎ 水性ペンキ ニス 板 くい ガスボンベ 軍手	
活動内容		留意事項	
1 どのような看板（標識）を作るのか話し合う。 2 板や角材を切る。 3 焼き板にしたり、ペンキで字や絵をかいいたり、色を塗ったりする。 4 作品を発表し合う。 5 看板を設置する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活のためのもの、安全のためのものなど考えさせる。 ・ グループごとに割当てをする。 ・ のこぎり、のみ、糸のこなどの用具を正しく使わせる。 ・ 目的に合わせて、デザインさせる。 ・ 友だちの作品の良いところを見つけさせる。 	
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具の使い方をしっかり指導する。 ・ 軍手を使用させる。 ・ ガスパナーの正しい使い方を指導する。 	

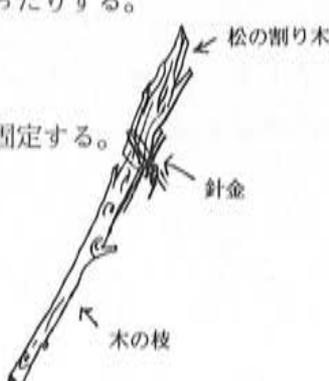


20	わら細工		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ わらについての話を聞き、昔はわらが生活にどれほど重要な役割を果たしていたかを学ぶ。 ・ 手作りの作品を作ることにより、創作の楽しさと喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物 木づち(わら打ち用) わら打ち台 ひもとおし(竹で作ったもの) 剪定ばさみ シート わら	
活動内容		留意事項	
1 わらについて話を聞く。 2 わら細工の作り方を聞く。 3 わら細工をする。 (例) ・ ぞうり ・ なわない ・ しめかざり ・ わらうま ・ ほうき 等 4 感想を発表したり、作品を鑑賞したりする。		<ul style="list-style-type: none"> ・ わらが、昔の生活にどれくらい重要な役割を果たしていたかを学ばせる。 ・ 水を少しかけながらわらを打たせる。 ・ うちすぎないようにさせる。 ・ 個人指導をする。 ・ 指導者はなるべく多くする。 ・ わらについて思ったこと、わら細工をして楽しかったところ、苦労したところなどを発表させる。 ・ 友だちの作品の良いところを見つけさせる。 	
安全指導のポイント			

21	凧づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 凧づくりを通して、製作の喜びを味わうとともに、創造性を養う。 		
時間	1日	準備物	
活動内容		留意事項	
1 作りたい凧を選択させる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ いくつかの見本の中から選ばせる。 ・ 材料、作る順序を確認させる。 	
2 竹を削って竹ひごを組み立てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹の削り方を指導する。 ・ 削った後、紙やすりでよく磨かせる。 	
3 絵を描く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 凧の大きさいっばいに絵を描かせる。 	
4 紙を貼る。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 霧を吹き、紙をのばさせる。 	
5 糸や足をつける。		<ul style="list-style-type: none"> ・ バランスをうまく調整させる。 	
6 凧上げ大会をする。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹のとげが刺さらないように紙やすりでよく磨かせる。 ・ カッターナイフ等の正しい使い方を指導する。 		

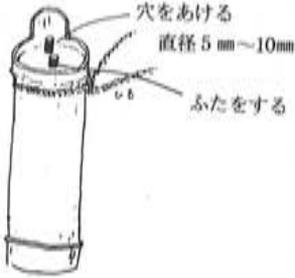
22	班旗づくり																																				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで協力して班旗を作ることを通して、人間関係を深め、自然学校に対する意欲を高める。 ・ 草木で染めた色の美しさを味わう。 																																				
時間	半日	準備物		ざる はさみ ボール さい箸 はけ なべ(ホーロー) 筆 ガス台 アイロン アイロン台 バケツ 糸 カリミョウバン 硫酸第一鉄 ビニール袋 ゴム手袋 軍手 白布																																	
活動内容		留意事項																																			
1 班旗のデザインを考える。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の班にない独特のものを考えさせる。 																																			
2 野草の採集をしてくる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 下の表を参考にして採集させる。 																																			
3 野草をなべでよく煮る。		<ul style="list-style-type: none"> ・ かぶれる木に気をつけさせる。 ・ 1時間程度煮る。 																																			
4 煮じるをざるでこしてボールにとる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 媒染液を作る。(カリミョウバンは10~15%、硫酸第一鉄は5~10%) 																																			
5 班旗を煮じるにむらがないように10分程漬ける。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 班旗はよく水洗いをしてのりを取り去っておく。 ・ 輪ゴムか糸で縛っておいてもよい。 																																			
6 班旗をしぼってから、媒染液に5分程漬ける。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣服に煮じるや媒染液がかからないように気をつけさせる。 																																			
7 水でよく洗ってから乾燥する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 煮じるや媒染液を入れるボールは金属性のものを使わせない。 																																			
8 仕上げはアイロンでよくしわをのばし、マジック等で書き込む。																																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">植 物</th> <th colspan="2">媒 染 液</th> <th rowspan="2">植 物</th> <th colspan="2">媒 染 液</th> </tr> <tr> <th>カリミョウバン</th> <th>硫酸第一鉄</th> <th>カリミョウバン</th> <th>硫酸第一鉄</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マツヨイグサ</td> <td>山吹色</td> <td>紫灰色</td> <td>アメリカセンダングサ</td> <td>—</td> <td>オリーブ色</td> </tr> <tr> <td>カナムグラ</td> <td>黄緑色</td> <td>—</td> <td>ドクダミ</td> <td>—</td> <td>濃いオリーブ色</td> </tr> <tr> <td>ヨモギ</td> <td>—</td> <td>緑灰色</td> <td>ノギク</td> <td>—</td> <td>濃い緑色</td> </tr> <tr> <td>クズ</td> <td>淡黄色</td> <td>—</td> <td>ススキ</td> <td>黄色</td> <td>緑灰色</td> </tr> </tbody> </table>		植 物	媒 染 液		植 物	媒 染 液		カリミョウバン	硫酸第一鉄	カリミョウバン	硫酸第一鉄	マツヨイグサ	山吹色	紫灰色	アメリカセンダングサ	—	オリーブ色	カナムグラ	黄緑色	—	ドクダミ	—	濃いオリーブ色	ヨモギ	—	緑灰色	ノギク	—	濃い緑色	クズ	淡黄色	—	ススキ	黄色	緑灰色
植 物	媒 染 液		植 物		媒 染 液																																
	カリミョウバン	硫酸第一鉄		カリミョウバン	硫酸第一鉄																																
マツヨイグサ	山吹色	紫灰色	アメリカセンダングサ	—	オリーブ色																																
カナムグラ	黄緑色	—	ドクダミ	—	濃いオリーブ色																																
ヨモギ	—	緑灰色	ノギク	—	濃い緑色																																
クズ	淡黄色	—	ススキ	黄色	緑灰色																																
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野草の採集の時は、長靴、軍手を使用させる。 ・ 煮じるや媒染液がかからないように気をつけさせる。 																																				

23	木の枝細工		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自然の木をそのまま使用して創作する中で、自然にふれあい、いろいろな植物の特徴に気づく。 作品を作る楽しさを味わう。 		
時 間	半日	準備物 のこぎり ペンチ やすり 電気ドリル 電動糸のこ 万力 救急バグ きり 小刀 瞬間接着剤 油性ペン 剪定ばさみ	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 どのような物を作るのか話し合う。 2 材料を集める。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 細い枝……………昆虫の足 木の葉や皮……………昆虫の羽 細い丸太……………胴体 3 材料を切って接着して、作品をつくる。 4 作品展をする。			<ul style="list-style-type: none"> 動物や虫、動きのある人等を工夫して作らせる。 一つの場面を想定して、箱庭のようにさせても良い。 野山に入り必要となる材料を集めさせる。 木を切る場所は事前に相談しておく。 木の机を見ながら出来上がりを予想させ、材料を選ばせる。 太い枝はのこぎりで、細い枝は剪定ばさみで切らせる。 ドリルで穴を空け、差し込ませても良い。 接着剤をつけすぎないように指導する。 必要な所はやすりで削っても良い。 形ができたら目などを書き込んでも良い。 作品の良いところを見つけさせる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 丸太をしっかり固定させて切らせる。 道具の正しい使い方を指導する。 		

24	ミニトーチ棒づくり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校ファイヤーをより感動的で思い出に残るものとするための準備をする。 		
時 間	1時間	準備物 ペンチ 針金 松の木の根	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 材料を準備する。 2 材料を切ったり割ったりする。 3 松の木の根を棒に固定する。			<ul style="list-style-type: none"> 松の根が腐り、油分の多いところが残ったものを用意する。 木の枝は30 ぐらいに切り、松の根は15 ぐらいに切ってから、細かく割らせる。 細い松の木の根が抜けないように、針金でしっかり巻かせる。
			
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 刃物の安全な使い方を指導する。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

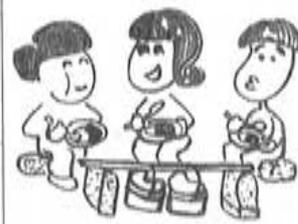
25	竹の水筒づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 竹の性質を知るとともに、作ることの楽しさや作った物を活用する喜びを味わう。 		
時間	半日	準備物	竹引きのこぎり 小刀 電動ドリル 手動ドリル きり 竹 ひも 紙やすり 軍手
活動内容		留意事項	
<ol style="list-style-type: none"> 竹を切る。 水を入れる穴をあける。 栓を作る。 ひもをつける。 ハイキングや登山で使用する。 		<ul style="list-style-type: none"> のこぎりの使い方を指導する。 友だちと協力しながら切らせる。 ドリルの正しい使い方を指導する。 手動ドリルの時は、友だちと協力して穴をあけさせる。 中を洗わせる。 小刀の使い方を指導する。 肩にかけてみて、長さを調整させる。 腰にぶらさげるようにしても良い。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> のこぎりやドリルで竹を切るときやドリルで穴をあけるときは、怪我をしないよう指導を徹底する。 		

26	木のプランター		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 共同でものを作ることを通して、協力する心を育てたり、創作への喜びを味わう。 花を植えて環境整備をはかり、自然愛護の精神や奉仕の精神を育てる。 		
時間	半日	準備物	のこぎり 彫刻刀 かなづち かな 曲尺 電動ドリル ペンキ用 はけ はけ洗い用缶 ベンチ 板 丸太 釘 針金 軍手
活動内容		留意事項	
<ol style="list-style-type: none"> 設計図を作る。 設計図にそって、板に印をつける。 板を切る。 釘を打ち、組み立てる。 底に穴をあける。 絵を描いたり削ったりする。 土を入れ、花を植えたり種を蒔いたり球根を植えたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> グループごとにいろいろな材料や楽しい形を考えさせる。 かなづちの使い方を指導しておく。 学校に帰ってからの仕事にしても良い。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> かなや彫刻刀の正しい使い方の指導をする。 		

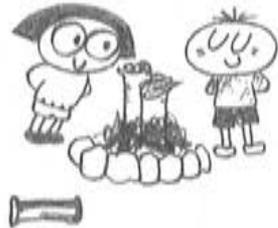
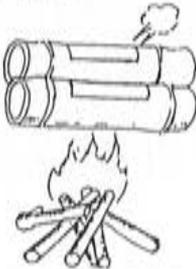
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

27	火おこし		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 昔の人々の火おこしの苦勞を体験し、火がどれほど重要なものであるかを理解する。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 火おこし器の使い方を学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・まいぎり式 ・きりもみ式 ・弓ぎり式 ・紐ぎり式 火おこし器を使って火おこしに挑戦する。 違った種類の火おこしに挑戦する。 <ol style="list-style-type: none"> 採火した火を使って、野外炊飯をする。 (採火した火で自然学校ファイヤーをする。) 			<ul style="list-style-type: none"> グループで協力しながら挑戦させる。 いろいろな種類の火おこし器で火をおこさせる。 * 火種を大きくする材料 ゼンマイわた モグサ キノコ 麻・木綿などの消し炭 * 火種を炎にする材料 チガヤ ススキ 麻の繊維 杉葉 ゼンマイわた
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 火傷をしないように火の取り扱いに気をつけさせる。 		

28	野外炊飯		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 野外炊事に必要な技能を身につける。 友だちと一緒に調理をし、食事をする事で食事の楽しさを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 野外炊飯の手順を聞く。 材料、用具をそろえる。 調理をする。 食事の準備、配膳をする。 食事をする。 後かたづけをする。 			<ul style="list-style-type: none"> グループごとにコンテナかかごなどに整頓させる。 包丁の使い方や火の取り扱い方の指導をする。 まきは、効率よく燃やさせる。 飯盒をさかさまにしたり、たたいたりさせない。 並べ方や盛りつけを工夫させる。 歓談しながら楽しく食事をさせる。 使った道具はよく洗い、後の人が気持ちよく使用できるようにさせる。また、数を確認して返させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 包丁の使い方、火の取り扱いに気をつけさせる。 材料をよく加熱させる。(食中毒予防) 鍋や飯ごうを火からおろしたりするときは、軍手を使わせる。 		

29	山菜料理 (山菜採り)		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然食品への関心を深め、食事内容を工夫する。 植物と食生活とのつながりを理解する。 		
時間	半日	準備物 野外炊飯道具 てんぷら鍋 ガスコンロ さい箸 長靴 油 ガスボンベ てんぷら粉 油吸い取り紙 調味料 軍手 新聞紙 ビニール袋	
活動内容			留意事項
1 山菜や食べられる野草を知る。 2 採集する。 3 点検を受ける。 4 調理の仕方を学ぶ。 5 グループで協力して調理する。 6 楽しく食事をする。 7 後かたづけをする。			<ul style="list-style-type: none"> 資料や実物を見せる。 いろいろな種類の山菜や野草を食べる量だけ採集させる。 あぜ道や田畑等での採集のマナーを知らせる。 調理の前に専門家の点検を受けさせる。 ガスがきちんとはまっているか点検しておく。 てんぷら油がかからないように注意させる。 てんぷら以外の調理の場合は、あく抜きをさせる。 * サラダ (ゆでること) つくしサラダ タンポポサラダ 使用後の油は石鹸づくりなどに利用できる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 食べる前に、食べられる材料かどうか点検する。 採集時は、長靴、軍手を使用させる。 ガスの取り扱いに注意させる。 てんぷら油で火傷しないように注意させる。 		

30	おもしろごはん炊き		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 様々な用具を使って調理することを体験する。 		
時間	半日	準備物 竹引きのこぎり なた のみ つち ざる ボウル 米 まき 竹 軍手	
活動内容			留意事項
1 竹を切り、竹鍋を作る。 			<ul style="list-style-type: none"> のこぎりの使い方を指導する。 1本の青竹で平均2合炊く。 水かげんを指導する。 米：水＝1：2 竹鍋がこもらないようにする。 * はがまで炊いてもよい。 
2 米をとぎ、竹鍋に米と水を入れる。			
3 竹でふたをして炊く。 4 火からおろし、むらす。 			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 竹を切るときは、友だちと協力しながら切らせる。 火傷をしないように軍手をつけさせる。 		

I 自然とのふれあい

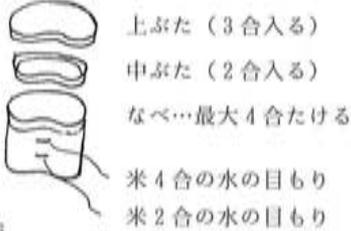
B 自然から創る

31	棒焼きパンづくり			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 棒焼きパンの焼き方を体験する。 食べ物の大切さを理解する。 			
時間	半日	準備物	のこぎり トレイ はけ 冷凍のパン生地 塩 木炭 まき 棒 軍手	
活動内容				留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 棒を50cmぐらいの長さに切る。 パン生地を発酵させる。(約20分間) パン生地を細長くする。 棒にアルミホイルを巻きつける。 パン生地を棒に巻きつける。 そのまま置いて、さらに発酵させる。 卵をといて、はけでぬる。 炭火でこんがりと焼く。 				<ul style="list-style-type: none"> のこぎりを使うときは、友と協力しながら切らせる。 生地の中には空気を入れないようによくこねながらのばさせる。 棒の先端から、螺旋状に巻きつけさせる。 隙間を少し作りながら均一に巻きつけさせる。 最初に巻きつけた部分がはがれないようにさせる。 指に少し水をつけてつなぎ目が離れないように押さえさせる。 生地の最後は中にはさみこませる。 遠火で20～30分ゆっくり、まんべんなく焼かせる。 火傷をしないように気をつけさせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 刃物の使い方をよく指導する。 火傷をしないように注意させる。 		

32	もちつき			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> もちつき体験を通して、伝統行事への関心を深める。 友だちとの協力を育てる。 			
時間	半日	準備物	うす せいろ きね めん板 まつぶた 釜 ガスコンロ もち米 片栗粉 ガスボンベ	
活動内容				留意事項
<ol style="list-style-type: none"> もちをつく準備をする。 もち米を蒸す。 もちをつく。 もちをまるめる。 感想を話しながら食べる。 				<ul style="list-style-type: none"> 前日にもち米をとぎ、水につけさせる。 もちつきの順序を理解させる。 役割分担をしっかりと行い、全員がどれも体験できるように交代しながら行わせる。 こづきをしっかりと行わせる。 片栗粉を適時まきながら、まるめさせる。 もちと伝統行事との関係について話を聞かせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 蒸した米をうすに入れたり、もちをうすから板の上に乗せたりする際、熱いから注意させる。 		

I 自然とのふれあい

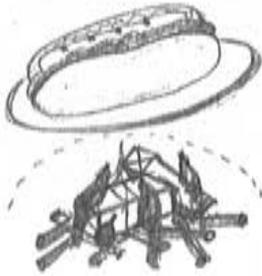
B 自然から創る

33	一人飯ごう。										
ね	<ul style="list-style-type: none"> 食生活に関心をもち、食事を作る喜びを味わう。 自分のことは自分でする自立心を育てる。 家族への感謝の気持ちを育てる。 										
ら	時 間	準備物		飯ごう 米 まき 軍手							
い	1～2時間										
時	活 動 内 容		留 意 事 項								
間	<p>1 ご飯の炊き方を知る。</p> <p>2 米を洗う。</p> <p>3 飯ごうに米と水を入れて炊く。</p>  <p>水加減</p> <table border="1" data-bbox="131 875 707 994"> <thead> <tr> <th>米の量</th> <th>水の量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4合</td> <td>飯ごうの上の目盛まで</td> </tr> <tr> <td>3合</td> <td>上と下の目盛りの中間まで</td> </tr> <tr> <td>2合</td> <td>飯ごうのし下の目盛まで</td> </tr> </tbody> </table>		米の量	水の量	4合	飯ごうの上の目盛まで	3合	上と下の目盛りの中間まで	2合	飯ごうのし下の目盛まで	<ul style="list-style-type: none"> 飯ごうのご飯の炊き方を一人一人に定着させる。 1食分では少ないので、2食分(2合)ぐらい炊かせる。 火の取り扱いに気をつけさせる。 飯ごうから米汁がふきこぼれはじめたら、こげないように注意させる。 飯ごうをひっくり返したり、たたいたりさせない。
米の量	水の量										
4合	飯ごうの上の目盛まで										
3合	上と下の目盛りの中間まで										
2合	飯ごうのし下の目盛まで										
安全指導の	ポイント		<ul style="list-style-type: none"> 飯ごうを火からおろすときは、軍手を使わせる。 火の取り扱いに気をつけさせる。 								

34	アルミホイルの包み焼き		
ね	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な野外料理の技術を学ぶ。 食事を工夫して作る楽しさを味わう。 		
ら	時 間	準備物	
い	半日		
時	活 動 内 容		留 意 事 項
間	<p>1 作り方を話し合う。</p> <p>2 アルミホイルにサラダ油をぬりその上に材料をのせて包み、おき火に入れる。</p> <p>3 食事をする。</p> <p>4 後かたづけをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 魚、じゃがいも、さつまいも、玉ねぎなどいろいろな材料を使った料理を考えさせる。 一人一人が確実に役割が果たせるように小グループに分けて実施させる。 肉類を入れる時は、よく火を通すように注意する。 楽しく食事ができるように、座る場所や配膳などの工夫をさせる。 生ゴミのしまつをきちんとさせる。
安全指導の	ポイント		<ul style="list-style-type: none"> アルミホイルを火の中へ入れるときや取り出すときには、火箸を使わせる。 包丁の正しい使い方を指導する。

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

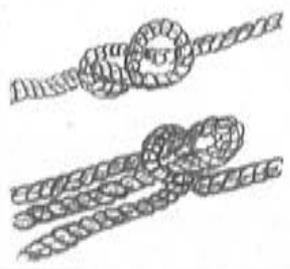
35	牛乳パックのホットドック		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事を工夫して作る楽しさを味わう。 ・ 簡単な野外料理の方法を学ぶ。 ・ 食事の楽しさと家族への感謝の気持ちを育てる。 		
時 間	1時間	準備物 包丁 まな板 ホットドック用パン はさむ材料（バター、溶けるチーズ、野菜など） 牛乳 はし 調味料（からし、ケチャップなど） まき アルミホイル 軍手 牛乳パック	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 作り方を聞く。 2 ホットドック用のパンに切れ込みを入れる。 3 バター、からしをぬり、好みの野菜やハム、チーズなどはさみアルミホイルでまく。 4 牛乳パックの中にパンをいれ、口を閉じて火をつける。 5 食事をする。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 下まで切ってしまうように注意させる。 ・ 牛乳パックが焼けすぎるとパンが焦げることがあるので、その場合は途中で火を消させる。 ・ 楽しく食事ができるように工夫させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルミホイルから取り出すとき、軍手を使わせる。 ・ 包丁の使い方に注意させる。 		

36	熊笹茶づくり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然食品への関心を深め、自然と人間との関わりについて考える。 		
時 間	2時間	準備物 なべ やかん フライパン さい箸 包丁 まな板 長靴 まき 軍手	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 なるべく新しい熊笹（上部の葉）を摘む。 2 4等分くらいに切り、フライパンを使い遠火でよく煎る。 3 なべややかんに入れて、煮だして飲む。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 山菜料理と合わせて実施するとよい。 * この他、クコ、ドクダミ、カラスノエンドウ、オオバコなどがある。
			
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊笹採集時は、長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 ・ フライパンで煎るとき、火の取り扱いに気をつけさせる。 		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

37	うどんづくり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ うどんづくりの楽しさを味わう。 ・ 伝統的な手作りの技術を学ぶ。 		
時 間	半日	準備物 包丁 めん棒 めん板 おわん まな板 ボウル 鍋 ざる さい箸 ガスコンロ 計量器 うどん粉 だし 箸 ねぎ ごま ガスボンベ ビニール袋	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 作り方の説明を聞く。 2 粉をこねる。 3 めん棒でのばす。 4 切ってゆでる。 5 みんなで食べる。			<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで作らせる。 ・ 水を加えすぎないように、水を少しずつ加えながらこねさせる。 ・ できるだけ薄くのばさせる。 ・ 細く切らせる。 ・ 切るとき、ゆでるとき注意をさせる。 ・ ゆであがったら、冷水に入れてもむようにして洗い、ざるにあげさせる。 ・ ねぎを切る人、だしを作る人、座席を作る人、配膳する人など手分けさせる。 ・ 座席などを考え楽しく食事ができるように工夫させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包丁の正しい使い方を指導する。 ・ ゆでたうどんの湯を切るとき、他の人に湯がかからないように注意させる。 		

38	ロープあそび		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々なロープの結び方を知り、生活に活用する。 		
時 間	2時間	準備物 ロープ 丸木 結び方見本	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 資料を見ながら基本的なロープ結びを練習する。 2 引きとけ結び、腰掛け結び、てぐす結びなどいろいろな結び方を練習する。 3 いろいろな結び方を使って遊び場をつくり、遊ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> ・ パネルを見て説明をする。 ・ 個別指導をする。 ・ 楽しい遊びを工夫させる。 ・ グループごとにローテーションして遊ばせる。 ・ きちんと結んでいるか点検をする
安全指導の ポイント			

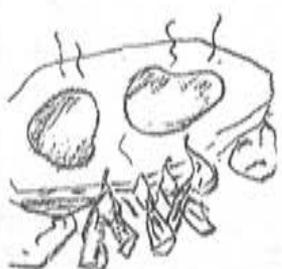
39	ハンモックで昼寝			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ロープの結び方を習得するとともに、ハンモックを作る喜びを味わう。 作ったハンモックを使い、自然の中でゆったりとすごす。 			
時 間	半1	準備物	結び方の見本 ロープ 木材 結び方の資料 作り方の資料 電気ドリル はさみ	
活 動 内 容		留 意 事 項		
1	ロープの結び方を学習する。			<ul style="list-style-type: none"> 代表的な結び方やハンモックづくりに用いる結び方を練習させる。
2	ハンモックを作る。			<ul style="list-style-type: none"> 丸太棒に穴を空けるドリルの使い方に注意させる。 ロープは少し長めに用意する。 練習した結び方を基本として、工夫しながら作らせる。 全体の形を整えるよう、つり下げて作らせる。 だんだんと細くなる傾向があるので外への広がりを持つよう注意させる。
3	ハンモックで寝る。			<ul style="list-style-type: none"> 快適な睡眠が得られる環境条件を考え、ハンモックを設置させる。 樹皮を痛めないようつり方を工夫させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方を指導する。 			

40	つけものづくり			
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 食材を工夫して作る楽しさを味わう。 簡単な漬物づくりの方法を学ぶ。 			
時 間	1～2時間	準備物	樽 重石 まな板 ふた 包丁 材料(白菜、キャベツ、きゅうり、なす、大根、かぶら等) 塩 こんぶ ビニール袋	
活 動 内 容		留 意 事 項		
1	野菜を準備する。			<ul style="list-style-type: none"> 大根、かぶら、きゅうりなどのように固いものは薄く切らせる。
2	樽に野菜を一重に入れる。			
3	その上に塩を振りかける。その上にまた野菜を並べ、塩を振りかけることを繰り返す。			<ul style="list-style-type: none"> 塩加減は、夏場は多めに、冬場は少なめにさせる。 こんぶは細かく切って、野菜の上のにせる。
4	樽にふたをして、重石をのせる。			
5	一日おいて食べる。			
*	簡単な作り方			
	<ul style="list-style-type: none"> 野菜と塩をビニール袋の中に入れる。 よくもむ。 野菜をしぼる。 			
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 包丁の正しい使い方を指導する。 重石を足の上に落とさないように注意させる。 			

41	焼きいも研究会		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 直接火にあてない焼きいもの作り方を学ぶ。 学校での収穫したものを使うことにより、収穫の喜びを味わう。 		
時 間	1時間	準備物 サツマイモ 火ばし バケツ 燃料 軍手 新聞紙 アルミホイル 竹 植木鉢	
活動内容			留意事項
1 山に行って柴集めをする。 2 焼き方を決定する。			<ul style="list-style-type: none"> グループで作らせる。
例Ⅰ アルミホイル焼き		例Ⅱ 竹焼き	例Ⅲ 植木鉢焼き
(1) ぬれた新聞紙でサツマイモを包む。 (2) さらにアルミホイルで、すきまのないように包む。 (3) たき火の火が少しおさまりかけて、けし炭がでかけたころ、火の中に入れる。		(1) 図のように切った竹筒に水を入れ洗ったいもをつめこむ。 (2) アルミホイル(四つ折り)でふたをして、針金でしばる。ふたには、穴を二、三カ所開ける。 (3) 火のまわりにつきさして立てておく。 (4) 竹が焼けて、形がくずれそうになったら、取り出す。 	(1) 植木鉢にいもを入れ、同じ大きさの植木鉢でふたをする。(重ねるだけ) (2) 石で土台を作って、その上に置く。火は四方からあたるようにしておく。 
3 みんなで食べる。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 小石は、火にいれても割れてとばないものを使う。 		

42	落ち葉の皿づくり		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然物に興味・関心を持つ。 落ち葉の形や色の特徴に気づき、物を創ることの喜びを味わう。 		
時 間	半日	準備物 紅葉した木の葉(クヌギ等幅広いもの) ボール紙 木工用接着剤 絵の具 ニス ひし形の紙型 カッターナイフ はさみ パレット 筆	
活動内容			留意事項
1 落ち葉を5枚用意する。(図1) 2 葉に型紙を合わせて切る。(図2) 3 葉の裏に木工用接着剤をつけてボール紙に貼る。 4 葉の輪郭に沿って切る。(図3) 5 切り取ったら適度に外側に折り曲げる。 6 皿の裏の紙や切り口に色をぬる。 7 ラッカースプレーを吹き付ける。(図4) 8 よく乾かす。			<ul style="list-style-type: none"> 同じ大きさの葉を集めさせる。 切らずに重ねて貼ってもよい。 重石を乗せて押さえさせる。  (図1)  (図2)  (図3)  (図4)
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 採集場所の安全確認をしておく。 用具の安全な使い方を理解させる。 		

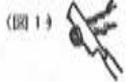
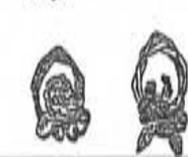
43	落ち葉のステンドグラス		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち葉の形や色の美しさに気づき、創作する喜びを味わう。 ・ 自然への興味・関心を高める。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1 いろいろな色の落ち葉を集める。 2 黒画用紙に自由にデザインし、切り抜く。 3 透明コートフィルムの粘着面を上に向けて置く。 4 その上に切り抜いた黒画用紙を乗せる。 5 画用紙の切り抜いたところに、落ち葉を貼り付ける。 6 もう1枚の透明コートフィルムを上から貼る。 7 まわりをはさみで切り、形を整える。 8 光にかざして観賞しあう。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色などを考えさせながら採集させる。 ・ 枠の部分が離れてしまわないようデザインさせる。   <ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち葉のきれいな方を下に向けて貼らせる。   <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの作品の良いところを見つけさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 採集場所の安全点検をしておく。 ・ かぶれる草木(ウルシ・ハゼ等)に気をつけさせる。 		

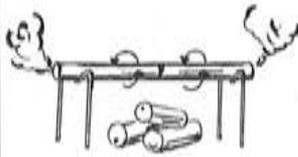
44	ナンづくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ インドの主食づくりの技術を学び、食事を工夫して作る楽しさを味わう。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1 作り方の説明を聞く。 2 生地づくりをする。 3 生地をビニール袋に入れ、発酵させる。 4 めん棒でのばす。 5 自然石を過熱しておき、生地を焼く。 6 みんなで食べる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで作らせる。 ・ だまにならないように、牛乳を少しずつ加えさせる。 ・ 30分程度ねかせて、2倍ぐらいになるまで発酵させる。 ・ できるだけ薄くのばさせる。 ・ 植木鉢を使うのもよい。 ・ 肉類、野菜、カレー等を包んで食べるなど、各グループに工夫させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然石は、熱を加えても割れないものを用意する。 ・ 加熱した石の取り扱いに注意させる。 		

I 自然とのふれあい

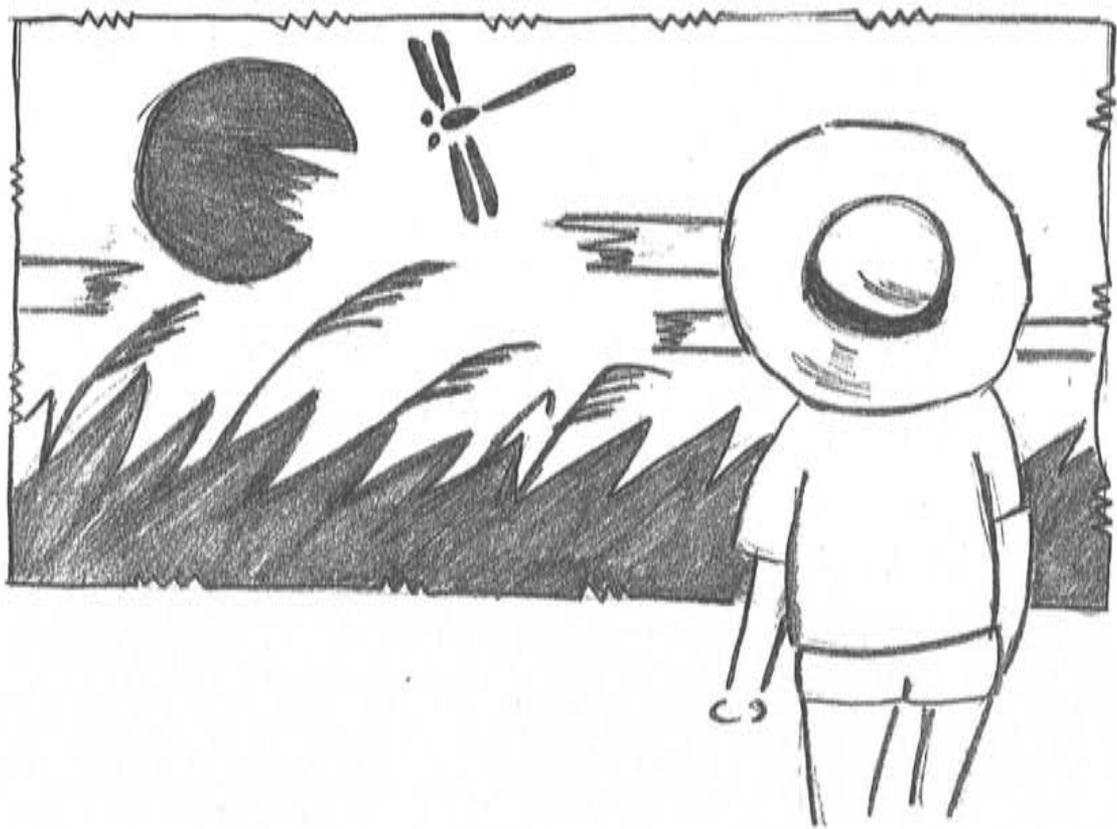
B 自然から創る

45	こんにゃくづくり		
ね	<ul style="list-style-type: none"> こんにゃくを作る楽しさを味わう。 食生活に生かされるこんにゃくの効果を学び、食べ物の大切さを理解する。 		
い	時間	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 作り方の説明を聞く。 こんにゃく芋を1～2 の輪切りにしてゆでる。 火が通ったら熱いうちに皮をむき、ゆで汁を加えて、ミキサーにかける。 30分～1時間程たらいで冷まし、その後10分～15分程度練り合わせる。 炭酸ナトリウム（無水）をお湯でとき、少しずつ加える。 型枠の中に流し込むか1個180 程度に丸める。 熱湯で30～40分間煮る。 流水で1時間アク抜きをする。 みんなで食べる。 			<ul style="list-style-type: none"> グループで作らせる。 芋の部分を丁寧にとらせる。 芋1kgにつきゆで汁1.8 を加えさせる。 炭酸ナトリウム（無水）を加えた後時間をおき過ぎると、芋が分離してしまうことがあるので、20分を限度とさせる。 楽しい食事ができるよう工夫させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> こんにゃく芋によってかぶれを引き起こす場合があるので、作業にあたってはゴム手袋を着用させる。 		

46	ミニリースづくり		
ね	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある自然に目を向け、それらを活用することで、自然への興味・関心を高める。 かずら、木の枝などの性質を知り、創る喜びを味わう。 		
い	時間	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 自分がつくりたいリースを考え、決定する。 材料収集をする。 リースをつくる。 			
<ul style="list-style-type: none"> 枝の輪切りを使って <ol style="list-style-type: none"> 図のように、作りたい大きさ（直径）の木の枝を選び、のこぎりを使って、厚さ5～10mmほどの輪切りにします。 切った面を紙やすりでみがいたり、パーナーでやいてから布切れでみがいたりして、きれいにします。 図2のように、木の大きさ（円周）にあわせて、かずらを巻き付けます。（接着剤でつけてもよい） 図3のように、切った面に絵の具などで絵を描いたり、木の実や葉をはってデザインします。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>			<ul style="list-style-type: none"> 木の実や葉を使って <ol style="list-style-type: none"> 図1のように、かずらを自分が作りたいリースの大きさ（直径）に巻いていきます。 図2のように、デザインを考え、ひろってきた木の実や葉をそれにあうように選びます。 図3のように、選んだ木の実や葉に、きりで穴を開けて、5 くらいに切った針金を通し、かずらにくくりつけます。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 採集場所の安全点検をしておく。 刃物の安全な使い方を指導する。 		

47	竹楽器づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 竹の性質を学習する。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 竹の油ぬきをする。 2 楽器をつくる。 3 演奏する。			<ul style="list-style-type: none"> 竹を長もちさせたり、良い音にするために油ぬきをすることをわからせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 作業しやすい長さに切る。 たき火をして竹をあぶる。 油が出て色が変わったら雑巾でふく。 </div> <ul style="list-style-type: none"> たたいたり、こすったり、吹いたりして音を楽しもう。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 油ぬきの際、火傷をしないよう竹をまわしながら活動させる。 		

C 自然に親しむ



1	川遊び		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 清流に手や足をつけたりして、自然とのふれあいを深める。 生きものをさがしたりして、自然とのふれあいを楽しむ。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 安全について話し合う。 2 生きものを探す。 3 川の流れを使って遊ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> 石の裏についている虫なども見つけさせる。 両手の幅を狭げながら追いつむ。  岩壁に魚を押しつけるようにして捕らえる。  手作りの水鉄砲や船などを持参して遊ぶのも良い。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察をする。 終わった後の健康管理をしっかりさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 石を投げないように指導する。

2	ターザンごっこ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 野外での遊びの楽しさとともに、体力づくりや感覚づくりをする。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 何種類かの遊び場を作る。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ターザンロープ 木登り つなわたり 基地づくり 等 2 グループごとにローテーションして遊ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> ロープの結び方が安全かどうか、枝が折れないかどうかの点検をしっかりとる。 各遊び場には必ず指導者がつく。
3 新しい遊びを工夫して遊ぶ。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ロープの結び方をよく点検する。 木からおりるとき特に注意させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ロープをかけた枝が大丈夫かどうか点検する。

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

3	ナイトハイク		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暗闇体験を通して、自然の神秘性を体験する。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1	夜の山の中を歩く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ なるべく少人数のグループごとに歩かせる。 ・ 月が出ている場合は、月明かりを利用して歩かせる。
2	静かに音を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 虫や動物の音を聞かせる。
3	星の観察をする。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 海中電燈を照らしすぎないようにさせる。
4	全ての明かりを消した後、暗闇の中で見えるものはないか確かめる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 暗闇の中でも、わずかな明かりで見えるものがあることに気づかせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで行動させる。 ・ 草の中にマムシ等がいるので気をつけさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。

4	けもの道体験		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の野山で自由に活動し、探求心、冒険心や判断力を養う。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	敷地内に行く通りかある探検コースのなかで、どのコースをとるかグループで相談する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図の読み方を押さえる。
2	コース地図に従って探検する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 途中、けものの足跡などを探させる。 ・ 草花を踏みつけたり、採ったり、木の枝を折ったりさせない。 ・ 場所を決めて山の中をストレートに通り抜ける体験をさせてもよい。
3	発見したことや不思議なことなどをまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然に興味を持たせる。
4	まとめたことを発表する。		<ul style="list-style-type: none"> * 動物の足跡
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで行動させる。 ・ 長袖、長ズボンを着用させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ かぶれる草木（ウルシ、ハゼなど）やマムシに注意させる。

5	魚のつかみどり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 魚をつかんだ感触を味わい、自然とのふれあいを深める。 川魚 		
時間	2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1	グループ分けをする。		<ul style="list-style-type: none"> 1グループ20名程度でさせる。 泳ぎ方を観察させる。 素手でつかませる。
2	魚を放流する。		
3	魚を自由につかみどりする。		
4	魚を食べる		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 魚を串に刺すとき、手を刺さないように気をつけさせる。 火の取り扱いに注意させる。 		

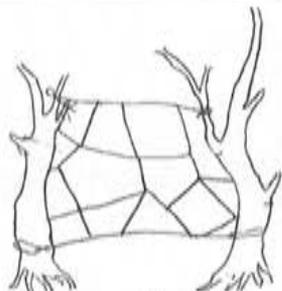
6	手作りフィッシング		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 道具を作って魚釣りをする活動を通して、工夫する楽しさを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	どんな材料で魚釣り道具を作るか話し合う。 (例) ・釣り竿 ・うき ・おもり など		<ul style="list-style-type: none"> 餌をとった場所は元通りにするなど、きまりを守るよう指導する。 釣り場の安全を考慮する。 漁業権が設定されている河川では、施設と相談のうえ、必要に応じて事前に許可を得る。 釣りの成果だけでなく、環境問題に踏み込んだまとめとなるよう支援する。
2	釣り餌を探す。		
3	魚釣りの場所を選定し、釣り大会をする。		
4	工夫したことや成果、気づいたことを話し合う。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 釣り場での危険箇所を注意させる。 		

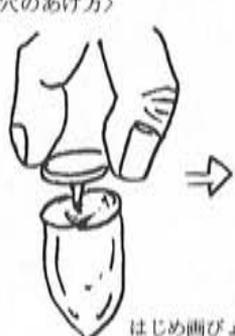
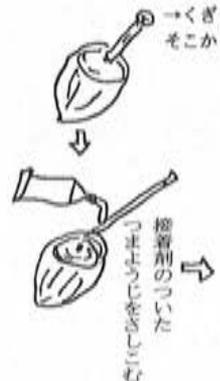
I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

7	自然と友だち		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中で遊びを工夫して遊ぶことにより、自然とのふれあいを深める。 		
時間	1～2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1	グループごとに、散策したい場所を決める。		<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の地図を見ながら相談させる。
2	自然の中での自由な遊びを考え自由に過ごす。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ターザンごっこ 木登り かくれんぼ たんけん 等 		<ul style="list-style-type: none"> 樹木や草花を痛めないように遊ばせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 木にぶらさがったり、登ったりするときは、枝が大丈夫かどうかよく点検してから登るよう指導する。 草むらに入るときはマムシなどの毒をもった生きものに注意させる。 		

8	自然ふれあいゲーム		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 楽しいゲームを通して自然を感じる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	ゲームについての説明を聞く。		
2	ゲームをする。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 目かくしタオル ……目かくしをして森の中を歩く。 大地の窓 ……体に落ち葉や枯れ草をかぶせ、合図のあるまで森の一部になる。 木の鼓動 ……木に聴診器を当て、木の内部の音を聞く。 木の葉のかるたとり ……いろいろな木の葉や花、種子などを集め2グループ対抗で指示されたものを取り合う。(植物の名前を熟知しておくこと) 宝さがし ……宝ものリストによって自然の中から探し出す。 グレートハンティング ……一定地域に獲物カードをばらまき、班ごとに1名のハンターと残りの狐犬役でカードをさがす。狐犬はカードを見つけたら、ハンターが来るまで足で踏みつけハンターを呼び、ハンターが取る。 林間しりとり ……一定区域に5種類のしりとりになる動植物絵を隠し、班ごとに一斉にさがし、しりとりの構成を作る。 縄張りあらそい ……ペアで片手つなぎになり、残りの手で立木をロープでくくりつける。 私の木 ……目かくしをして、パートナーに案内された木をさがしあてる。 		
3	感想を話し合う。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 危険物、危険な場所の点検及び立ち番をする。 		

9	課題解決ゲーム		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 課題をグループで解決する楽しさを味わう。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 ゲームについての説明を聞く。 2 課題に取り組む。			<ul style="list-style-type: none"> 安全に活動させる。 時間を十分与え、達成できるように配慮する。
(例) <ul style="list-style-type: none"> ビーム (2本の丸太を固定し、グループ全員で一方から反対側に丸太を乗り越える) エレクトリックフェンス (3m程度の間隔の木4本に高さ1.5mでロープをはり、丸太を一本おく。ロープに囲まれた広場の中からグループ全員が立ち木やロープにふれずに外へでる) バックフライング (1mほどの高さから、後ろ向き直立の姿勢で後ろに倒れる。他のものは全員で受けとめる。全員交代する) くもの巣 (2本の木を利用して地面から30cm~180cmぐらいの範囲でたこ糸を使い、くもの巣をつくる。グループ全員が一方から反対側にくもの巣につかえないように通り抜ける) ラインナップ (3mほどの間隔の立ち木を利用して、80cmぐらいの高さで丸太を固定する。全員が一列に並び指定された順に丸太の上で並び変わる。立ち木につかまったり、落ちたりしたらやり直す) 			
3 感想を話し合う。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 丸太をしっかり固定する。 各ゲームの場所に指導者がつき、必要な時は必ず補助をする。 		

10	どんぐりこま大会		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の物を利用して遊び道具を作り、遊ぶことによって自然への興味や関心を高める。 自分たちの力で大会を運営することにより、自主的、実践的な態度を育てる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 どんぐり拾いをする。 2 こまづくりをする。 <穴のあけ方>   <p>はじめ画びょうで小さな穴をあけ</p> <p>くぎやヒートンでぐるぐるまわしながら穴をあける</p>			<ul style="list-style-type: none"> きりの取り扱いに注意させる。 よく回るように手直しをする。 個人や班などでいろいろ工夫させる。   <p>→くぎ そこから穴をあける</p> <p>接着剤のついた つまようじをさしこむ</p> <p>つまようじの 先を少し出す</p>
3 大会をする。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> カッターやきりの取り扱いに注意させる。 		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

11	夜とあそぼう		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 音を使って暗闇の自然を感じる。 		
時間	1～2時間	準備物	懐中電燈 単一乾電池
活動内容		留意事項	
1 暗い野山の中に感じるものを探す。		<ul style="list-style-type: none"> 木や草の中から人間の姿や顔に見えるものを探させたり、夜に活動する動物の気持ちを考えさせる。 	
2 班ごとに時間を決めて、音をたよりに暗闇を歩く。		<ul style="list-style-type: none"> 音をたよりに歩く方向を探させる。 各ポイントには、約1分おきに音を出す人を配置する。 音の順番を知らせてから出発させる。 	
* 例 笛の音→竹をたたく音→石の音→草の音→木の音→鈴の音			
3 元の場所に帰って、暗闇で気がついたことを話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> 暗闇を素材にした話を作らせてもよい。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 事前にコースの安全、音を出す場所の確認をしておく。 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 		

12	雲海登山		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 早朝登山を通して自然の神秘性、美しさ、偉大さに気づく。 自分の足で登った達成感を味わうとともに、仲間との連帯感や協調性を育てる。 		
時間	半日	準備物	トランシーバー 救急バッグ 説明用地図 弁当 水筒 タオル 帽子 軍手
活動内容		留意事項	
1 登山についての説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> コース、意義、安全などについて指導する。 天候の変化への対応を指示する。 健康観察をし、必要な指導をする。 グループ別登山やコース別登山等、方法を工夫させる。 	
2 出発する。		<ul style="list-style-type: none"> * コース名 <ul style="list-style-type: none"> ・きつね ・うさぎ ・たぬく ・りす ・くま ・むささび ・いのしし 	
3 山頂で朝食を食べる。		<ul style="list-style-type: none"> ゴミはすべて持ちかえらせる。 	
4 下山する。		<ul style="list-style-type: none"> 走らないようにさせる。 植物観察やバードウォッチングをしながら下山させてもよい。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> コースは天候や体調などに応じて変更する。 帽子を着用させる。 		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

13	朝来山登山		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 登山を通して、健康な体をつくとともに、強くたくましい精神を育てる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	登山について話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> コース、意義、安全などについて指導する。 登山コースをグループで決めさせる。 健康観察をし、必要な指導をする。
2	登る。 (例) ・植物観察 ・バードウォッチング		<ul style="list-style-type: none"> グループ別登山やコース別登山など、方法を工夫させる。
3	山頂で景色をながめる。		
4	下山する。		<ul style="list-style-type: none"> 走らないようにさせる。 植物観察やバードウォッチングをしながら下山させてもよい。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 天候、体調に応じて、行程の変更を考える。 長袖、長ズボン、帽子を着用させ、軍手を持参させる。 		

14	竹田城ハイキング		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や産業を知り、昔の人々の工夫や努力を理解する。 強くたくましい心と身体を育てる。 		
時間	1日	準備物	
活動内容			留意事項
1	施設から竹田城まで歩く。		<ul style="list-style-type: none"> 事前調査し、調査ポイントを把握し指導する。 トイレの場所を知らせておく。
2	竹田城の歴史を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 事前に学習させる。
3	食事をする。		<ul style="list-style-type: none"> ゴミはすべて持ち帰らせる。
4	下山する。		<ul style="list-style-type: none"> 登山道が急なので十分気をつけさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 		

15	一人テント		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 一人テントで寝ることにより、夜の自然を感じる。 一人ぼっちの体験を通して、自己を見つめ自立心を養う。 		
時 間	1泊	準備物	
活動内容			留意事項
1 自分が泊まるテントを設営する。			<ul style="list-style-type: none"> 健康観察をし、適切な配慮をする。 天候の変化に対応する計画をしておく。
2 宿泊する。			<ul style="list-style-type: none"> 多人数の場合はローテーションを組んで泊まらせる。 夜間巡視をする。
3 テントを撤収する。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察をし、必要な指導をする。 		

16	サイクリング		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 地域の様子を見学し、人々の生活の関心を高める。 周辺の自然の様子を観察する。 強くたくましい心と身体を育てる。 		
時 間	1日	準備物	
活動内容			留意事項
1 地図を見ながら、サイクリングコースを決定する。			<ul style="list-style-type: none"> グループごとにコースを決定させるか、選択コースの中から選ばせる。 課題を設定させる。
2 自転車の練習をする。			<ul style="list-style-type: none"> ブレーキの使い方やチェンジの切り替え等を十分に練習させる。
3 サイクリングをする。			<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所及びポイントに必ず指導者がつく。
4 発表会をする。			<ul style="list-style-type: none"> 課題について調べたことを発表させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導を徹底する。 特に下り坂のスピードの出しすぎに注意させる。 		

17	アドベンチャーハイキング		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと協力し合い、いろいろな問題を解決しながら目的を達成する。 健康な身体をつくり、たくましい精神力を養う。 		
時間	1日	準備物	
活動内容			留意事項
1 アドベンチャーハイキングの目的と冒険先のコースについて説明を聞く。 2 グループごとにコースを決め、計画を立てる。 3 グループごとに出発する。 4 分かったことや感想をまとめ、発表する。			<ul style="list-style-type: none"> コースをいくつか提示し、選択させる。 事前に学習させる。 計画をチェックし助言を与える。 (経路、時間、交通機関、必要経費、係分担、記録等) 課題を持たせる。 緊急時の体制を確認しておく。 指導者は、子どもたちの自主性、主体性を伸ばす指導をする。 困ったこと、おもしろかったこと、学んだこと、みんななどで解決したことなどをグループごとにまとめさせる。 自分たちでやり遂げたことを評価し、生活や活動への意欲を高めるようにさせる。 楽しい発表会にさせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 安全指導を徹底する。 コースの下見をして、危険箇所の把握をよくしておく。 	

18	雨にも負けず		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 野生味やたくましさを育てる。 雨の中での活動を通して、自然とのふれあいを深める。 		
時間	1日	準備物	
活動内容			留意事項
1 雨の中でのずぶぬれ・泥んこ体験について説明を聞く。 2 工夫し雨を集める。 3 自然物だけを使い、みんなの体で風雨を防ぎながら火をたき、お湯を沸かす。 4 自分のやってみたい活動を選択し、ずぶぬれになりながら活動する。 (例) ・サッカー ・縄跳び ・鬼ごっこ ・すもう ・ハイキング など 5 着替えをする。 6 汚れた衣類を洗濯する。			<ul style="list-style-type: none"> 泥んこになってもかまわない服装をさせる。 ここではまだ濡れないように活動させ、たくさんの雨水を集めさせる。 できるだけ少ない数のマッチで火をつけられるよう工夫させる。 たきつけ用に、新聞紙を数枚だけ使ってよいことにする。 活動中や活動後に、顔や体を拭くためのお湯を作らせる。 体が温まる思いきった活動をさせる。 健康状態を常に把握し、無理にならないようにさせる。 すぐに入浴の用意をして、体を温める配慮をする。 施設と相談して、洗濯をさせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 活動後の健康管理をしっかりさせる。 	

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

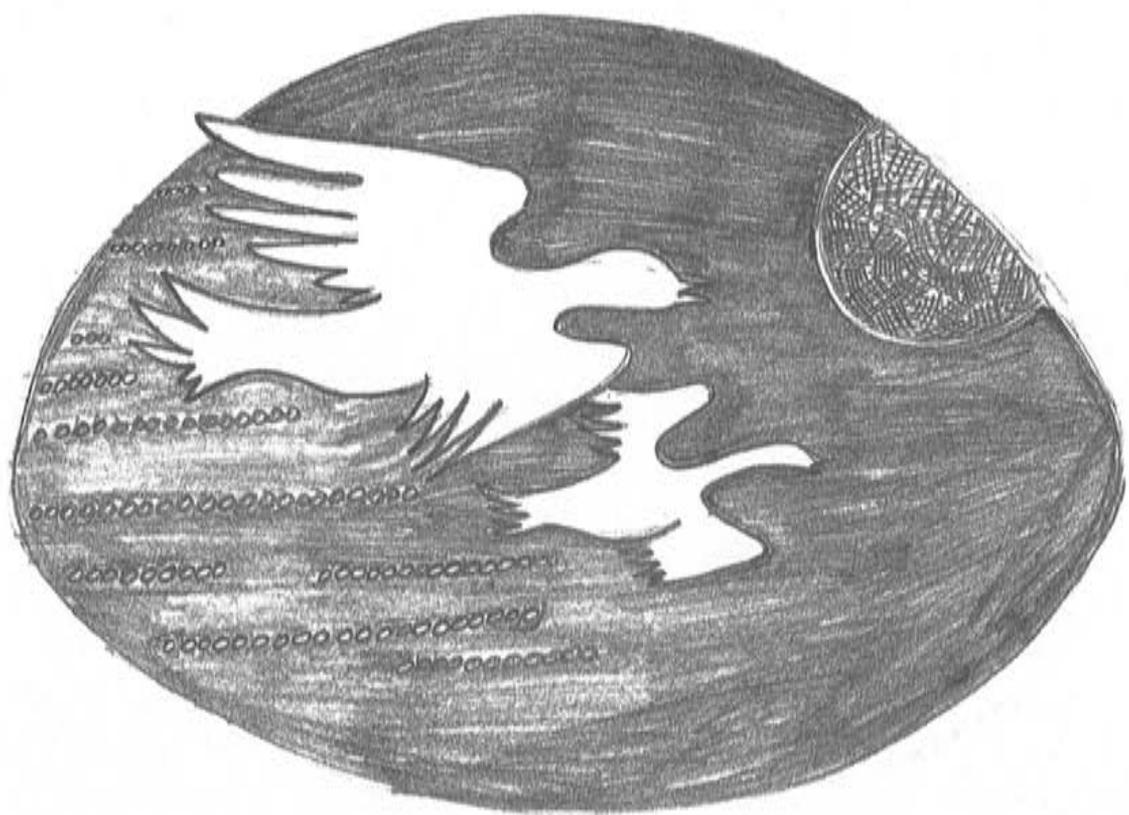
19	雪と友だち		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 雪の中でのびのび活動し、五感を通して雪と親しみ、冬の自然への興味や関心を育てる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 雪の中で遊ぶ約束等を話し合う。 雪の中で遊ぶ。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 雪上りレー • まとあて 雪合戦 • 雪浴び 雪玉作り • そり遊び 雪を使って作る。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 雪だるま • 雪像 かまくら • アイスクリーム 雪の山林を歩く。 感想を話し合い、かたづけ。 			<ul style="list-style-type: none"> 危険な行動をしないように約束させる。 雪の大玉作りから雪像作りへと続けさせる。 かまくらを作って、夜、ローソクで明かりをつけ、その中で過ごさせる。 雪が落ちる様子、冬芽、足跡等を観察させる。 雪の中に道具が残ることがあるので数を確認する。 健康管理に十分気をつける。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 道具で怪我をしないよう指導する。 顔に雪玉をあてないよう指導する。 	

20	自然観察ビンゴ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 五感を使って直接自然とふれあうことによって、自然を再発見する。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 進め方の説明を聞く。 各グループで進め方の相談をする。 一斉にグループ単位で出発する。 ゴール地点で到着を確認してもらう。 どんなことを発見しどんなことに感動したか、全員でわかちあう。 			<ul style="list-style-type: none"> グループで取り組ませる。 安全指導を徹底する。 到着時刻を指示する。 どんな発見、感動があったかを重視させる。 コース図をもとに考えさせる。 ビンゴが何通り完成しているかだけにとらわれ、評価する。 時間があれば、各グループごと発表させる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> かぶれる草木（ウルシ、ハゼなど）、危険な生物（マムシなど）に気をつけさせる。 	

21	自然観察ビンゴ (南但馬編)			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 五感を使って南但馬の自然とふれあうことによって、自然を再発見する。 			
時間	半日	準備物	自然観察ビンゴカード セロハン粘着テープ 時計 植物・野鳥の図鑑など コース図 筆記用具 ビニール袋	
活動内容		留意事項		
1 進め方の説明を聞く、出発する。		<ul style="list-style-type: none"> グループで取り組ませる。 		
<p>秋の自然観察ビンゴ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>南 但 馬 の 秋 を み つ け よ う</p> </div>				
<p>○やり方</p> <ul style="list-style-type: none"> 全部で9個のマスがあり、それぞれに課題が書いてあります。たて、横、ななめのどれでもよいから1列課題が解決できれば、ビンゴが一つ完成です。時間内にできるだけたくさんビンゴを完成させましょう。 集めたものは、ビニール袋に入れて持って帰りましょう。また、カードにはりつけるものは、セロハン粘着テープではりつけましょう。 課題は、どの課題から取り組んでもよろしい。自然観察ビンゴマップをよく見てがんばってね。 ※ 食べるものについては、持ち帰り先生に確認をとってからにしましょう。 				
		<p>① 秋の七草のどれかを見つけたら、ここにはりつけて名前を書きましょう。</p> <p>④ 黄色の花を見つけてはりましょう。</p> <p>⑦ センブリの葉をかじってみましょう。どんな味ですか。</p>	<p>② ドングリをひろい、もって帰りましょう。</p> <p>⑤ 野鳥を2種類見つけてなまえを書きましょう。</p> <p>⑧ 種類のちがう葉を5枚集めましょう。</p>	<p>③ クリのイガをさわってみましょう。どんな感じですか。イガを持って帰りましょう。</p> <p>⑥ キノコを2種類見つけて名前を調べましょう。</p> <p>⑨ ナツハゼの実を食べてみましょう。どんな味ですか。</p>
できたビンゴは () 通り				
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> かぶれる草木、危険な生物に気をつけさせる。 			

22	自然色さがし		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中にでかけ、指定された色に近い自然物を探すことで、自然物の色の多様さに気づく。 		
時間	半日	準備物	色上質紙 ビニール袋
活動内容		留意事項	
1 色カードを作る。		<ul style="list-style-type: none"> 何種類かの色を色上質紙での5cm正方形でつくり、準備させる。 	
2 グループでそれぞれの色にもっとも近いものを見つける。		<ul style="list-style-type: none"> 活動範囲を地図などで決める。 	
3 4グループで集まり、どのグループが色カードに最も近い自然物が調べる。		<ul style="list-style-type: none"> 自然物の採取については、自然保護の観点から最小限にとどめるようにさせる。 	
4 探すのに苦労したことなどを話し合う。			
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ウルシなどかぶれる木やマムシなど危険な生き物については、事前に知らせておく。 		

D 自然を守る



1	山の仕事		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 木を育てることの必要性や苦勞、楽しみなどについて話を聞き、自然を愛する心を育てる。 枝うち作業のやり方を学ぶ。 		
時間	1日	準備物 なた のこぎり トランシーバー 救急バッグ ヘルメット 長靴 脚立 軍手 タオル 水筒 デジタルカメラ	
活動内容			留意事項
1	山の仕事について話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 活動場所は事前に施設職員と相談する。 植林関係者の協力を得るとよい。
2	枝うちの仕方について話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ハチなどに気をつけさせる。
3	グループごとに作業をする。		<ul style="list-style-type: none"> 近くで、すぐに指導できるように、指導者を配置する。 なたや枝を振り回したりしないように気をつけさせる。 払った枝は、薪にするので小さく切り、指定の場所に運ばせる。
4	枝うちの感想を話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> 活動をデジタルカメラなどに記録し発表させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方を指導する。 長袖、長ズボンを着用し、長靴、軍手を使用させる。 		

2	下草刈り		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 下草刈りの必要性を学び、山林を育て愛護する心を育てる。 		
時間	半日	準備物 鎌 長靴 救急バッグ 軍手 タオル帽子 水筒	
活動内容			留意事項
1	下草の刈り方について話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 下草刈りの必要性について話を聞かせる。 鎌の使い方をよく指導する。 鎌の持ち方、刈り方、刈る姿勢
2	グループごとに場所を決める。		<ul style="list-style-type: none"> 場所は施設職員と相談する。
3	下草刈りをする。		<ul style="list-style-type: none"> かぶれるおそれのある木や草に注意させる。 軍手をさせる。
4	後かたづけをして、感想を話し合う。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 鎌で足を切らないように注意させる。 マムシやハチについて注意させる。 長袖、長ズボンを着用し、長靴、軍手を使用させる。 		

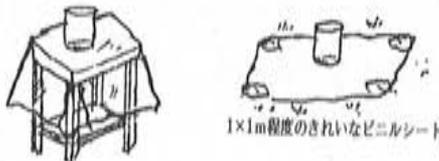
I 自然とのふれあい

D 自然を守る

3	植 樹		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校を体験できたことへの感謝の気持ちを養う。 植樹することにより、自然を守ろうとする心を育てる。 		
時 間	1時間	準 備 物	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 植樹することの意義を話し合う。 2 植樹場所を整地する。 3 植樹をする。			<ul style="list-style-type: none"> 施設職員と相談する。 植林関係団体の協力を得るとよい。 * 苗木はどんぐりを発芽させたものを使っても良い。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 長靴、軍手を使用させる。 つるはし、スコップの使い方注意させる。 		

4	アルミ缶ブローチ		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> アルミニウムの空缶を利用して、アクセサリーを作ることにより、資源の有効利用に関心を持つ。 		
時 間	半日	準 備 物	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 アルミ缶の内外を洗い、乾かす。 2 アルミ缶をふたつに切る。 3 炭をおこし、鉄の缶を乗せて、熱する。 4 器に砂を入れ、作りたい形の物を押し込んで形をつくる。 5 鉄の缶が真っ赤になったらアルミ缶を入れて溶かす。 6 溶けたアルミを型に流し込む。 7 水に入れて冷やす。 8 やすりで削る。 9 布で磨く。 10 接着剤でブローチピンをつける。			<ul style="list-style-type: none"> 一つのペンダントを作るのにアルミの空缶を1個用意させる。 下から十分に空気を送らせる。 レンガの上にアルミの溶けたものを落としても面白い形ができる。 アルミ缶は必ず切り口を上に入れて入れる。 アルミが溶けて表面に薄い膜ができるがそのままにしておく。 ベンチで鉄の缶をつかみ静かに流し込ませる。 金属みがきを布につける。 金属用接着剤を使用させる。 ペンダントにするなら、ドリルで穴を開ける。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> アルミ缶の切り口を上に向けて溶かす。 火傷をしないよう気をつけさせる。 		

5	水中生物と水質検査		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 水中にもいろいろな生物が住んでいることに気づく。 水中にすむ生物の種類によって、水質を調べることができるようにする。 美しい川の大切さについて関心を深め、環境を守っていかうとする態度を育てる。 		
時 間	半日～1日 準備物	水中生物図鑑 バケツ ルーベ ペトリ皿 バット ピンセット 木の 枠 解剖顕微鏡 顕微鏡 水中生物と水質の資料 長靴 水中生物 採集用具 水着や短パン ぞうり 帽子 タオル	
活 動 内 容			留 意 事 項
1	調査場所を決める。		<ul style="list-style-type: none"> グループごとに違った場所から採集させる。
2	木の枠をおき、その範囲内の生物を採集する。		<ul style="list-style-type: none"> 下流に網を用意して生物が流されたりつぶれたりしないように採集させる。 バケツに入れさせる。
3	生物を観察する。		<ul style="list-style-type: none"> バットに移し変えてから、ペトリ皿に同じ種類ごとに分け、名前、数などを調べさせる。 天気がよければ現地で、雨の場合は施設に持ち帰って調べる。
4	生物と水質の関係を調べる。		<ul style="list-style-type: none"> 水中生物図鑑などによって、水質を調べ、まとめさせる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 採集時は長靴等を使用させる。 採集場所の安全を確認する。 川床はすべりやすいので気をつけさせる。 		

6	雨水の酸性度しらべ		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染について関心を持たせるとともに、雨水について調べる技術を身につける。 環境問題について考えさせ、自然を愛する心を育てる。 		
時 間	2時間 準備物	酸性雨調査の道具 ビーカー ビデオソフト pHパックテスト	
活 動 内 容			留 意 事 項
1	調査の方法の仕方について話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 不純物が入らないように直接雨水をとる。
2	雨水を集め、調べる。 * 良い例 		
3	酸性雨について話し合う。 * 悪い例 		
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 酸性雨が人間にどんな影響を与えるのか話し合わせる。 ビデオ、写真などを見ながらより現実のものと感じさせる。 酸性雨の原因や地球規模の現象であることを知らせる。 		

I 自然とのふれあい

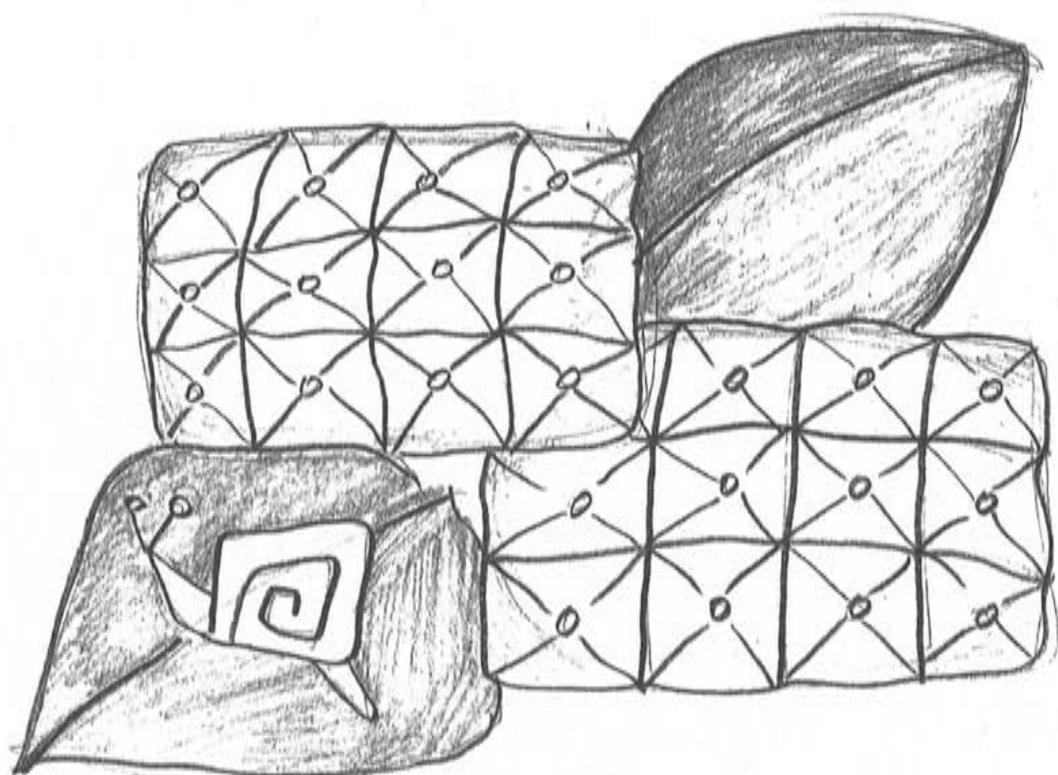
D 自然を守る

7	大気の汚れを調べよう		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 酸素や二酸化炭素などの気体を採集したり測定したりする技能を身につける。 身近な環境調べを通して、環境保全に対する関心を高め、実践する態度を育成する。 		
時間	1日	準備物 顕微鏡 スライドガラス 気体検知器 粘着テープ ビニール袋 マツ葉	
活動内容			留意事項
1 調べる方法や手順を話し合う。 2 いろいろな場所の大気を調べる。 (1) 降下ばい塵の測定 (2) マツ葉の気孔観察 (3) 二酸化炭素等の測定 3 植物の働きを調べる。 4 結果をまとめ、話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> 部屋の内外、森の内外、国道沿いなどに測定場所を設定させる。 一定の広さの白い粘着テープか湿らせた紙を板に取り付け、一定時間置いた後、付着したものを観察させる。 マツ葉の採集場所の様子を記録しておく。 それぞれの場所で採集したマツ葉の気孔の汚れの割合を出させる。 今年できた葉と去年できた葉の気孔の汚れ具合とを比較してもよい。 機器の正しい使用方法を指導しておく。 自動車の排気ガスをビニール袋に採集し、二酸化炭素や一酸化炭素などを測定させる。 呼吸を吹き込んだ厚手のビニール袋で日光が当たる場所の植物をつつみ、酸素が増加する様子を測定させ、植物の光合成の働きを理解させる。 大気の汚れを植物が浄化していることを理解させ、森のその他の働きやいろいろな環境問題について話し合わせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全の指導をする。 		

8	ゴミなし料理		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 買い物や料理をする中で、消費生活のあり方が環境と結びついていることを知り、自分たちの生活を工夫しようとする意欲や態度を育てる。 		
時間	1日	準備物 野外炊事用具 自転車 ヘルメット プロテクター まき 軍手 ふきん お金 ナップサック	
活動内容			留意事項
1 ゴミの出ない買い物の工夫について話し合う。 2 買い物をし、料理を作る。 3 どうしても残った物について考える。 4 生活する上でゴミを少なくする方法を話し合い、まとめる。			<ul style="list-style-type: none"> 必要な量だけ買う、無駄な包装をさける等について話し合わせる。 材料のすべてを使う料理の工夫をさせる。 交通安全に気をつけさせる。 残ったものを分別し、目の前に置いて活用を考えさせる。 材料の端……料理をして食べる。 入れ物……活用を考える。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全について指導する。 包丁の使い方や火の取り扱いに気をつけさせる。 		

II 人とのふれあい活動

A 人に学ぶ



1	自然学校発表会		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校の中で調査研究したことや創作したものなどを発表する。 友だちの良さや素晴らしさを発見する。 		
時間	1時間～半日	準備物	
活動内容			留意事項
1 発表のテーマを決定する。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 水辺の生き物について 自然観察路の植物について 竹田城の歴史について はさまの古墳について など 			<ul style="list-style-type: none"> 個人やグループでテーマを決定させる。 テーマ設定理由、調査方法、わかったこと、感想等ポイントをしばってまとめさせる。 まとめ、発表などすべての児童が手分けをして作り上げさせる。 それぞれの良さを認め合い、自由研究へと発展するように指導する。 発表したものをしばらく展示させる。
2 発表内容をまとめる。			
3 発表する。			
4 感想を話し合う。			
安全指導のポイント			

2	家族への手紙		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校での様子を手紙などで知らせ、家族愛を培う。 手紙を書く機会を与えて、書き方についての理解を深める。 		
時間	1～2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1 手紙の基本的な書き方について聞く。			<ul style="list-style-type: none"> 楽しかったこと、新しく学んだことなど、自然学校での様子がよくわかるように書かせる。 郵便番号、住所、氏名など書きまちがいや抜かしているところがないか点検させる。 手紙は、切手を各自で貼らせる。 施設のポストを利用させる。
2 各自、自然学校における活動や生活を振り返り、手紙に書き表す。			
3 書いた文やあて先などを見直す。			
4 手紙を投函する。			
安全指導のポイント			

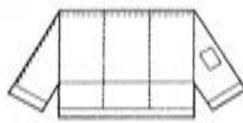
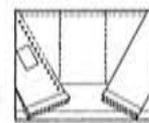
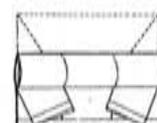
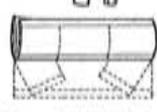
II 人とのふれあい

A 人に学ぶ

3	作品鑑賞会				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな作品を鑑賞することにより、創作のすばらしさや喜びを味わう。 ・ 友だちや地域の人々とのふれあいを深める。 				
時間	2時間	準備物	展示板 長机 クリップ		
活動内容			留意事項		
1 作品展示の準備をする。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員で協力して、準備をさせる。 ・ 地域の人を招待する場合は、事前に案内状を作らせ配布する。 (施設職員と事前に打ち合わせをする。) 		
2 作品を展示する。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示の仕方を工夫させる。 ・ 作品を大切に扱わせる。 ・ 説明や工夫、苦勞についての一言メッセージをつけさせても良い。 		
3 作品を鑑賞する。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫しているところ、すばらしいところなど、友だちの作品のよいところを知る。 		
安全指導のポイント					

4	自然学校の絵本・絵巻物づくり				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然学校の思い出を絵本や絵巻物に表現し、創作の喜びを味わうとともに、自然学校のまとめをする。 ・ 簡単な絵本や絵巻物の作り方を理解する。 				
時間	半日	準備物	はさみ カッターナイフ カッティングマット のり 巻き紙 模造紙 画用紙 筆記用具 絵の具 油性ペン 厚紙		
活動内容			留意事項		
1 自然学校の思い出に残るいろいろな場面を絵日記風に画用紙か模造紙にまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵と説明をかかせる。それぞれかく場所を工夫させる。 ・ 思い出は、毎日の反省として作っておけばはやくできる。 ・ 絵巻物の場合は、巻紙に貼るか、直接描かせてもよい。 		
2 表紙、とびら、裏表紙、目次などを作る。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 色画用紙か色模造紙などに貼らせる。 		
3 それぞれを貼り合わせ、絵本としてまとめる。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵巻物の場合は、ひもをつけとめられるようにする。 ・ 時間があれば飛び出す絵本形式にしたり、装丁をしっかりさせたりする。 		
4 お互いに鑑賞する。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの良いところを見つけ合うようにさせる。 		
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> ・ カッターナイフなどの正しい使い方を指導する。 			

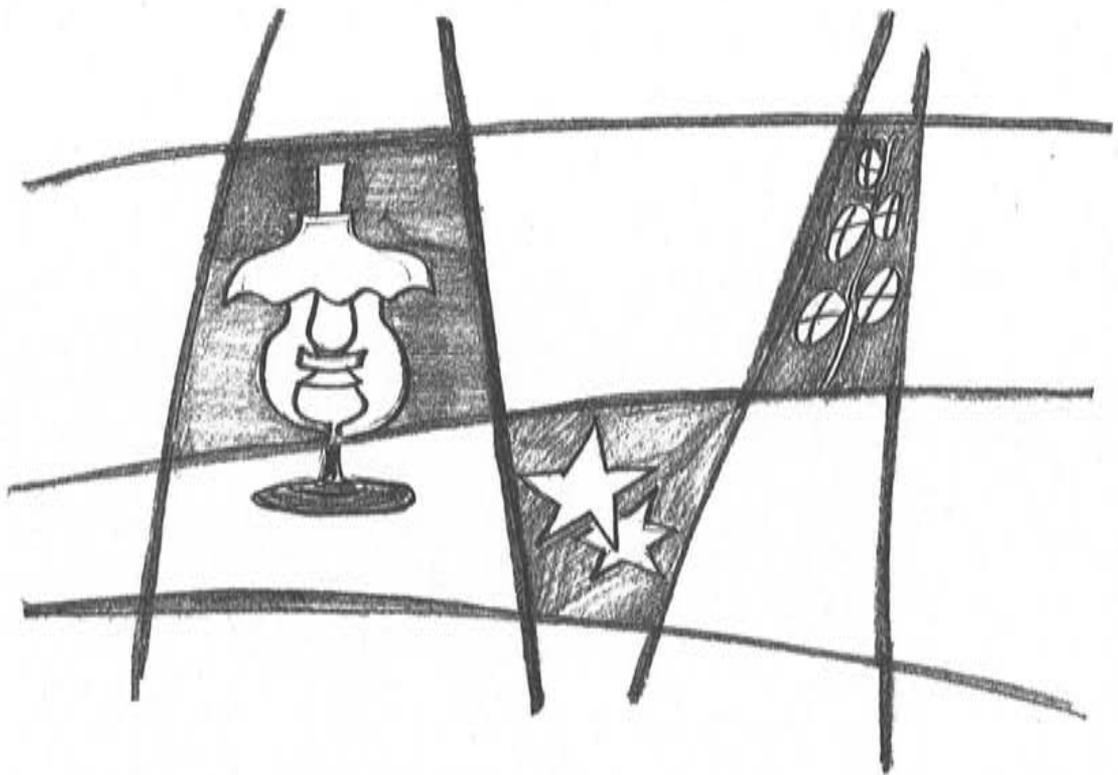
5	テント設営		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> テント設営の基本的技術を身につける。 自分の役割を果たしながら、協力することの大切さを学ぶ。 		
時 間	2時間	準備物	
活 動 内 容			留 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 場所を決め、地面を整える。 グラウンドシートを敷き支柱の位置を決めて、親綱を張る。 (南但馬自然学校のテントは、グラウンドシートと一体型) 出入口を閉め、四隅の角綱を張る。 残りの腰綱を張る。 裾布をグラウンドシートの下に敷き込む。 フライシートを同じ要領で張る。 			<ul style="list-style-type: none"> 入り口は傾斜下、風下にさせる。 テントの中に入っている用具と数を確認させる。 二組の角綱がそれぞれ対角線上にくるように位置を決めさせる。 張り終わったら、テント袋、木づちなどをまとめさせる。 夜間に張り綱につまづかないよう、白布などをくくりつけさせる。 荷物は、非常時に対応できるようにまとめさせる。 晴れた日は、テントの風通しをよくして乾燥させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ペグを打ち込むとき、指を打たないように注意させる。 軍手をして作業をさせる。 		

6	テント撤収		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> テント撤収の技術を身につける。 各自の役割を果たしながら、協力することの大切さを学ぶ。 		
時 間	2時間	準備物	
活 動 内 容			留 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 撤収作業を始める数時間前からテントの出入口を開け、通風をよくする。 テント内の荷物を外へ出し、グラウンドシート、フライシートをはずし、よく汚れを取る。 ペグをぬき、水洗いをして泥を落とし乾燥させる。 テント本体の汚れを落とす。 張り綱類は、短く結わえる。 本体をたたむ。 付属品の数を確認、収納袋へ納める。 			<ul style="list-style-type: none"> ビニールコーティングされていない面は、ぬれぞうきんでふかせない。 <p>* テントのたたみ方 (家型テント) の1例</p>  <p>1.とびらを閉め、ロープをゆるめて、地面に平らに横たえる。</p>  <p>2.とびらを中央へ折り込み、すべてのロープをたぐってしまふ。</p>  <p>3.むねの方から中へ折り(収納袋のサイズに合わせて三ツ折か四ツ折かきめる)。</p>  <p>4.ウォールの方を次に折る。</p>  <p>5.支柱とくいの入った袋を中に巻き込んでテントを巻いていく。</p>  <p>6.収納袋(ごみ袋)へ納める。</p>
安全指導の ポイント			

7 ね ら い 時 間	自然学校新聞づくり	<ul style="list-style-type: none"> 情報の集め方や新聞としてのレイアウトの取り方などの作業を通して、新聞づくりの方法を理解する。 自然学校の新聞づくりを通して、人とのふれあいを深める。 	
活 動 内 容		留 意 事 項	
<ol style="list-style-type: none"> 新聞づくりの方法について話を聞く。 どんな新聞を作るか構想を練る。 記事を集め、新聞づくりをする。 掲示する。 		<ul style="list-style-type: none"> 楽しいこと、がんばっていることが表れるように工夫させる。 それぞれの特技が発揮できるように役割分担を考えさせる。 取材の仕方をよく指導しておく。 レイアウトを工夫させる。 お互いの特徴や良さを見つけさせる。 印刷したものは、学校や家に送ったり、地域に配布してもよい。 	
安全指導の ポイント			



B 共に生きる



II 人とのふれあい

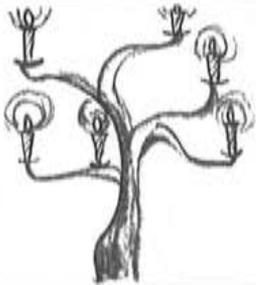
B 共に生きる

1	学級パーティ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係を深め、思いやりの心や協力する心を養う。 手作りのおやつ作り方を学ぶ。 		
時間	半日	準備物 野外炊飯道具 ガスコンロ 自転車 ヘルメット プロテクター まき ガスボンベ 軍手 ナップサック お金	
活動内容			留意事項
1	おやつを何にするかを決める。		<ul style="list-style-type: none"> 予算内で材料や量などを考えさせる。 手作りのおやつにさせる。 買い物係、準備係など手分けをさせる。
2	買い物に行く。		
3	おやつ作りをする。		<ul style="list-style-type: none"> みんなで協力して作らせる。
4	会場を整えて会食する。		<ul style="list-style-type: none"> 座席など工夫させる。
5	みんなで遊ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> ふれあいスペースや芝生広場を使って、グループごとや学級全員でゲームなどをして人間関係を深めさせる。
6	後かたづけをする。		<ul style="list-style-type: none"> 生ゴミの始末をさせる。 借りた道具は、数を確認して返させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 自転車を利用する場合は、乗り方を十分指導する。 交通安全指導を徹底する。 包丁や火の取り扱いに注意させる。 		

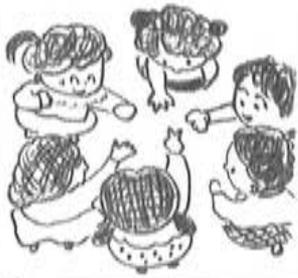
2	自然学校ファイヤー		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 火を囲み、これからの自然学校に向けての決意を新たにする。(前半) 仲間達との生活を振り返り、友情と親睦をさらに深め、今後の学校生活に向けて決意を新たにする。(後半) 		
時間	1～2時間	準備物 アコーディオン キーボード ギター マイク なた バケツ トーチ棒 灯油 ファイヤー用のまき スタンプの道具	
活動内容			留意事項
1	点火する。		
2	発表の集いをする。		<ul style="list-style-type: none"> 自然学校に向けての意欲や自然学校で学んだことをグループや個人で発表させる。 発表時間は5分程度とし、体を使って表現させる。 ゲームや歌なども入れて楽しい雰囲気をつくる。
3	自己を見つめる。		<ul style="list-style-type: none"> 仰向けに寝転び、星空を観察したり動物や虫の鳴声、葉のふれあう音などを聞く。 火をだんだん小さくしていく。
4	分火する。		<ul style="list-style-type: none"> 火を分火する。 分火の時は、火を受け取る側からトーチ棒を差し出させる。 炭の処理は、翌朝にさせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ファイヤーの火を必要以上に大きくしない。 トーチ棒で火傷をしないように正しい持ち方を指導する。 		

II 人とのふれあい

B 共に生きる

3	キャンドルサービス		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校での生活を振り返るとともに、キャンドルを囲んで神秘的な光の中で、ゲームをしたり歌を歌ったりして楽しく過ごす。 		
時間	1～2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1 点火する。 2 発表の集いをする。 3 分火する。			<ul style="list-style-type: none"> 地域に伝わる民話等を劇化して、発表させる。 新しく発見したことを、体を使って発表させる。 各グループの発表は、5分程度とする。 ゲームや歌なども入れて楽しい雰囲気をつくる。 静かな歌を歌わせる。 分火用のろうそくの配り方をしっかりと打ち合わせをする。 分火の時は、火を受け取る側からろうそくを差し出させる。 ろうそくの回収や退場の方法など決めておく。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ろうそくで火傷をしないよう正しい持ち方を指導する。 		

4	清掃活動		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> みんなで力を合わせて清掃し、勤労の喜びや感謝する心を養う。 		
時間	1時間	準備物	
活動内容			留意事項
1 清掃の方法や分担について話し合う。 2 清掃をする。 3 清掃用具の後かたづけや点検をする。			<ul style="list-style-type: none"> すみずみまできれいにさせる。 来たときよりも美しくを目標に、清掃に取り組ませる。 ゴミは、燃えるゴミと燃えないゴミに仕分けさせる。
安全指導のポイント			

5	スタンツ練習		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校ファイヤーを感動的でより思い出に残るものにさせるために、創意工夫をして表現する。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容		留意事項	
1 テーマや素材、表現方法について話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> 自然学校の中でのできごとを素材にさせる。 	
2 スタンツを作る。		<ul style="list-style-type: none"> 発表時間は、1グループ5分程度にさせる。 動作を大きく、声が良く通るように表現させる。 	
安全指導のポイント			

6	洗濯実習		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯の基本的な技術を身につける。 		
時間	1時間	準備物	
活動内容		留意事項	
1 洗濯の仕方について説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 洗濯機を使うか洗濯板を使うかは、学校で選択する。 	
2 簡単に洗濯できるものを準備する。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 靴下 ・ハンカチ 体操服 ・シャツ など 		<ul style="list-style-type: none"> 洗濯機や乾燥機の使い方を指導する。 	
3 洗濯する。			
4 干す。			
5 後かたづけをする。			
安全指導のポイント			

7	入校式・退校式		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自然学校に対する決意を新たにしたり、自分の目標を再確認したりして、より充実した自然学校とするための心構えを持つ。 お世話になった方々に対する感謝の気持ちや自然学校の思い出を心に留める。 		
時間	30分	準備物	
活動内容			留意事項
入校式 1 開会 2 校旗掲揚 3 校長先生のお話 4 南但馬自然学校長のお話 5 児童代表の言葉 6 施設の使い方について 7 連絡 8 閉会 退校式 1 開会 2 校長先生のお話 3 南但馬自然学校長のお話 4 児童代表の言葉 5 校旗降納 6 連絡 7 閉会			<ul style="list-style-type: none"> 児童の手で司会進行できるようにさせる。 校歌（入校式の歌）を歌いながら掲揚させる。 内容については、各学校で工夫する。
安全指導のポイント			

8	はじめまして（合同実施校出合いの活動）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 出合いを工夫し、友だちとのふれあいを深める。 		
時間	1日	準備物	
活動内容			留意事項
1 代表者による学校紹介をする。 2 グループの見つけカードをもとに自分たちのパートナーのグループを捜す。 3 お互いに名刺交換をして自己紹介をする。 4 仲間づくりのためのゲームをする			<ul style="list-style-type: none"> 学校の特徴や学年の様子、校旗や校歌の説明、自然学校への期待などを話させる。 A校とB校のグループがうまく対応するよう考慮してカードを渡す。 事前に自分たちのグループを紹介するカードを作らせておく。そこには、会話をしないとわからないような事柄を書かせておく。 楽しいユニークな名刺をあらかじめ用意させる。 自己紹介をした後、話が発展するようにいくつかの話題を用意させておく。 ふれあいを深められるゲームをする。
安全指導のポイント			

II 人とのふれあい

B 共に生きる

9	みんな楽しんでいるかい		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 意見を出し合い振り返ることを通して、一人一人を大切に思いやりの心を育てる。 		
時間	2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1 一人で活動を振り返る。			<ul style="list-style-type: none"> 自分の感じたことを思ったままに書かせる。 自分の行動だけでなく友達とのかかわり方についても考えさせる。
2 グループで話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> 感動したこと、うれしかったこと、分かったことなどを十分に発言させる。 自分の思いを十分発言できない子に配慮する。 問題点はみんなで話し合い、解決させる方向へ導き支援する。 自分は楽しかったけど、グループの子や他の子も楽しかったかを考えさせ、思いやりややさしさを育てる。
3 明日の活動について話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の動きをみんなが知り、認め、連帯感が高まるよう指導し、明日への意欲を高める。
安全指導のポイント			

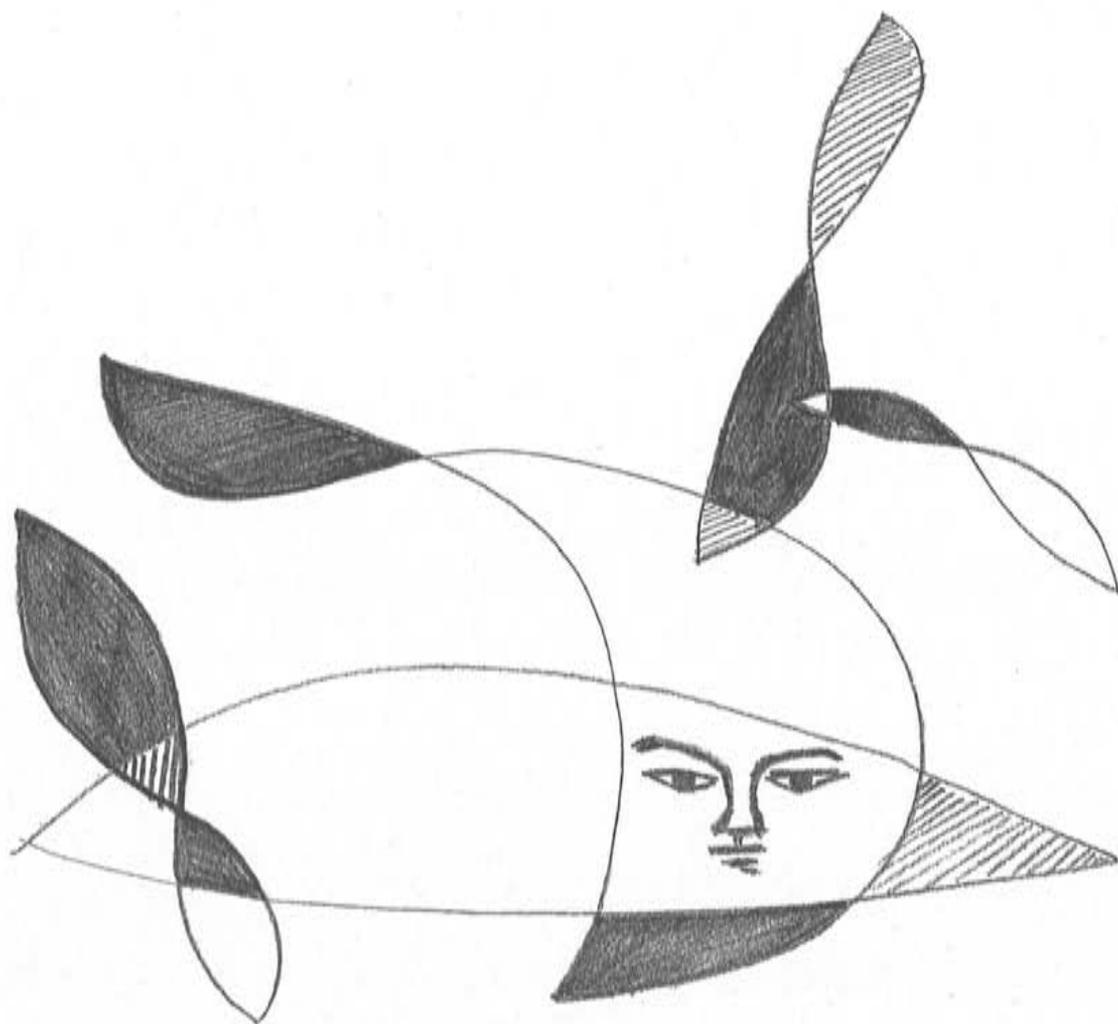
10	お年寄りへの便り		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 手紙を書くことにより、思いやりの気持ちやお年寄りへの感謝の気持ちを養う。 手紙の書き方を身につける。 		
時間	1時間	準備物	
活動内容			留意事項
1 便りを出す相手を確認する。			<ul style="list-style-type: none"> 事前に身の回りの人か地域のお年寄りかを決めておき、住所録などの準備しておく。 (施設職員と事前に打ち合わせをする。)
2 手紙の書き方を学習する。			<ul style="list-style-type: none"> 手紙の正しい書き方を指導する。
3 手紙を書く。			<ul style="list-style-type: none"> 感謝や思いやりの気持ちをもって書かせる。 自然学校の様子を中心に書かせる。
4 手紙を投函する。			<ul style="list-style-type: none"> 施設のポストを利用する。 地元のお年寄りに出す場合は、活動の趣旨を十分理解していただく。
安全指導のポイント			

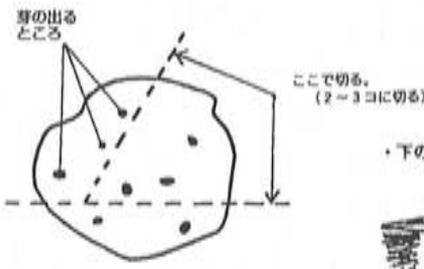
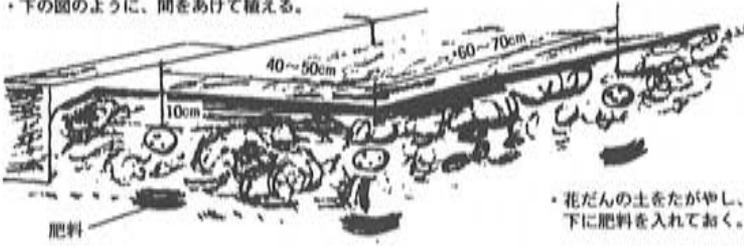
11 ねらい	<p>挑戦 マラソンウォーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間とともに苦しいことに挑戦することを通して、持久力や耐久力を育成するとともに助け合い支え合う温かい人間関係を育てる。 		
時間	1日	<p>準備物</p> <p>ゼッケン マップケース トランシーバー 地図 救急バッグ チェックカード タオル 水筒 リュック 雨具 飴</p>	
活動内容		留意事項	
<p>1 説明を聞き、話し合う。</p> <p>2 グループごとに出発する。</p> <p>3 ゴールする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> コース図を渡し、危険箇所やトイレの場所、チェックポイントを知らせる。 チェックポイントを必ず通過するよう指導する。 緊急の場合の連絡について指導する。 踏破するためにはどんなことが大切かグループで話し合わせる。 チェックポイントに飲み水などを用意しておく。 チェックポイントで健康チェックをする。 健康チェックをする。 十分休養させる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全の指導を徹底する。 出発前の健康チェックを徹底する。 歩いている途中で体調が悪くなった場合の対応を指導する。 		



III 地域とのふれあい活動

A 地域に学ぶ



1 ねらい	農業体験 ・ 農業体験を通して、みんなと力を合わせて働く喜びや勤労の尊さを学ぶ。		
時間	半日	準備物 農作業道具 長靴 たねいも 枝豆の種 大根の種 軍手 帽子 タオル	
活動内容		留意事項	
1 畑を耕す。 2 じゃがいもの植え方の説明を聞く。 3 じゃがいもを植える。   <p>・花だんの土をたがやし、下に肥料を入れておく。</p>		・ くわの正しい使い方、うねの作り方の指導をする。 ・ くわを高く振り回さないようにさせる。 ・ 大きなたねいもは、2~3に切って植えさせる。 ・ 10cmの深さのところに植えさせる。 ・ いもといもとの間隔を40~50cmあけさせる。 ・ 使った道具は、きれいに洗って返させる。	
安全指導のポイント	・ くわ、包丁などの正しい使い方を指導する。		

2 ねらい	但馬の言葉 (方言学習) ・ 方言と共通語を比べて、言語への興味や関心を高める。 ・ 言語の由来を考え、地域の生活への理解を深める。		
時間	2時間~半日	準備物 テープレコーダー 但馬の方言に関する資料 訪問する家の地図 筆記用具 ノート カセットテープ	
活動内容		留意事項	
(民家訪問の場合) 1 民家を訪ねて、地域の人々と懇談する。 2 話をしている中で、わからない言葉をメモする。 3 メモしたこと以外の方言について教えてもらう。 4 方言を使いながら話をする。		・ 民家を訪問するためのマナーについて事前に指導する。 ・ 懇談する内容についてあらかじめ考えさせておく。(施設職員と事前に打ち合わせをする。) ・ メモしたことを質問し、共通語に直させる。 ・ 自分の住んでいる所の言葉とも比較させる。 ・ 今、教えてもらった方言を使いながら、簡単な話をさせる。 ・ お礼をきちんと行って帰らせる	
安全指導のポイント	・ 交通安全に気をつけさせる。		

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

3	歴史の探検をしよう		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史調査を通して、地域への興味や関心を高める。 自ら計画し実践する活動を通して、学習意欲を高め、自主性や主体性を育てる。 		
時間	1日	準備物 スライド スクリーン スライド映写機 記録用紙 デジタルカメラ 模造紙 マジック パソコン	
活動内容			留意事項
1 地域の文化遺産を知る。 (例) ・地名の由来 ・遺蹟 ・古墳 ・お寺 ・神社 ・お地蔵さん ・城跡 ・伝統工芸 ・特産物 ・古くから伝わる行事 など 2 調べる内容や方法を話し合う。 ・係分担 ・記録方法 3 地域に出かけて調べる。 4 調べてきたことをまとめ発表する。			<ul style="list-style-type: none"> デジタルカメラ、スライド、地図、絵などを用意し理解を助ける。 個人選択により課題ごとのグループを作らせてもよい。 時間の計画もさせる。 交通安全に留意させる。 資料が見せていただけるよう、事前に依頼しておく。 みんなにわかりやすく発表させる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導を徹底する。 	

4	民家を訪ねて		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々とのふれあいを深める。 地域による生活文化の違いに気づく。 		
時間	半日	準備物 自転車 ヘルメット プロテクター テープレコーダー 民家の地図 救急バッグ 筆記用具 ノート カセットテープ	
活動内容			留意事項
1 民家でどのような話を聞くか相談する。 2 民家を訪問して話を聞く。 3 各グループごとに感想をまとめ発表する。			<ul style="list-style-type: none"> 何のために民家を訪問するのか課題を明確にさせる。(施設職員と事前に打ち合わせをする) 家を訪問するときのマナーや話の聞き方などについて指導をする。 帰るとき、お礼を丁寧に言って帰らせる。 自分たちの生活と比べて違っているところなどをまとめさせる。 印象に残ったことや地域の人々とふれあった感想などをまとめさせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 	

5	地域の昔の話		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々とのふれあいを深めるとともに、昔の生活と現在の生活を比べ、自分の生活を振り返る。 		
時間	1～2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1	講師の紹介を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 児童に司会進行させる。 現在の学校と比べながら話を聞かせる。 生活の違いが出てきた理由などを考えさせる。 話だけでなく、遊びを教えてもらったりするほうがよい。 児童代表にさせる。
2	昔の学校の様子を聞く。		
3	昔の生活の様子を聞く。		
4	昔の遊びの様子を聞く。		
5	お礼を言う。		
安全指導のポイント			

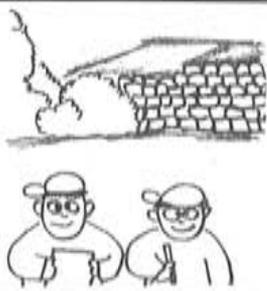
6	但馬の民話		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化や歴史への理解を深める。 民話を通して、伝承文化への興味や関心を高める。 		
時間	1～2時間	準備物	
活動内容			留意事項
1	講師の紹介を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 話の聞き方を指導する。 学校に帰ってからの発展学習とすることもできる。
2	民話を聞く。		
3	方言などわかりにくい言葉について質問する。		
4	感想を話し合う。		
5	但馬地方の方言を使って、民話を創作する。		
安全指導のポイント			

7		史跡めぐりサイクリング		
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化や歴史への理解を深める。 体力の向上を図るとともに、たくましい精神力を養う。 		
時間	半日～1日	準備物	自転車 ヘルメット 地図 トランシーバー 救急バッグ プロテクター 弁当 水筒 帽子 敷物 筆記用具 ノート	
活 動 内 容				留 意 事 項
1 コースを決める。 2 コースに従ってサイクリングをする。 3 感想などをまとめる。				<ul style="list-style-type: none"> (例) 学校→青年の山→県北農業技術センター→竹田城跡→学校 健康チェックをする。 文化財を見学し、その保護に対して関心を持たせる。 グループごとに出発する場合は、必ず指導者がつく。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 特に危険な下り坂でのスピードの出しすぎについて指導する。 		

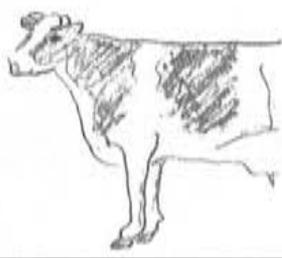
8		竹田城跡早朝ハイキング		
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 自然の美しさにふれる。 歴史への興味や関心を高める。 体力づくりとやりとげる心を育てる。 		
時間	半日	準備物	トランシーバー 救急バッグ 弁当 水筒 敷物 ナップサック	
活 動 内 容				留 意 事 項
1 施設を出発する。 2 竹田城跡で雲海や日の出を見る。 3 朝食を食べる。 4 施設に帰る。				<ul style="list-style-type: none"> 文化財の保護について話をする。 自然の美しさに十分ふれさせる。 竹田城について話を聞かせる。 ゴミはすべて持ち帰る。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 健康観察を十分にする。 交通安全に気をつけさせる。 帰った後は、十分休養させる。 		

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

9	竹田城跡探偵団		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 歴史への興味や関心を高める。 調査活動を通して探求心を養う。 		
時間	半日～1日	準備物 竹田城跡地図 竹田散策図 バイNDER テープレコーダー トランシーバー 探偵課題表 救急バッグ 弁当 模造紙 画用紙 絵の具 筆記用具 弁当 カセットテープ ナップサック 油性ペン	
活動内容		留意事項	
1	グループごとに探偵課題やコースを決める。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 竹田城を作った人、年代 城の造り、城の役割 竹田城と関連の深いお寺 竹田地域の家の造り 等 		<ul style="list-style-type: none"> 課題を決めることが難しいときは、課題を指導者が示す。
2	調査する。		<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護に留意させる。 地区の人に話を聞いたり、説明版を見たりしながら調べさせる。
3	調査したことをまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> 施設に帰ってからまとめさせる。
4	発表会をする。		<ul style="list-style-type: none"> ポイントをしばってから発表させる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 登山道の歩き方を指導する。 石垣から落ちないように十分指導する。 		

10	農業学習 (県立北部農業技術センター)		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 農業の研究にたずさわる人々の苦労や喜びを知り、農業への理解を深める。 		
時間	1日	準備物 自転車 ヘルメット ハンドマイク トランシーバー 救急バッグ プロテクター 弁当 水筒 タオル 帽子 筆記用具 ノート ナップサック	
活動内容		留意事項	
1	県立北部農業技術センターへ出発する。 <ul style="list-style-type: none"> 片道、約6.5km 		<ul style="list-style-type: none"> 健康観察をする。
2	県立北部農業技術センター内で見学したり体験したりする。		<ul style="list-style-type: none"> 体験の内容については、施設とよく相談する。
3	質問したり、感想を発表したりする。		<ul style="list-style-type: none"> 質問事項をまとめさせておくとよい。 まとめは施設に帰ってからさせる。
4	施設に帰る。		<ul style="list-style-type: none"> お礼をきちんと行って帰らせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に注意させる。 帰った後、休養を十分とらせる。 		

11	牛の見学		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 牛を飼っている農家を訪問し、地域の生活への理解を深める。 		
時間	2時間～ 半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	牛を飼っている農家を訪問する。		<ul style="list-style-type: none"> 自転車で移動の場合は、交通安全に注意させる。(施設職員と事前に打ち合わせをする。)
2	牛を飼う苦労や喜びなどについて話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 話の聞き方についてよく指導する。
3	牛の世話をする。		<ul style="list-style-type: none"> 牛の角や足の動きに注意させる。 牛をびっくりさせたり、からかったりしないように注意させる。
4	質問したり、感想を発表したりする。		<ul style="list-style-type: none"> 見学して学んだことをノートにまとめさせる。(まとめは施設に帰ってからでもよい。)
5	施設に帰る。		<ul style="list-style-type: none"> お礼をきちんと行って帰らせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 自転車を使う場合は、交通安全指導を徹底する。 		

12	名人入門		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 名人の苦労話を聞いたり、体験したりすることによって、自己の生き方を考える機会とする。 地域の人々とのふれあいを深める。 		
時間	半日～1日	準備物	
活動内容			留意事項
1	どこにどのような名人がいるか説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 地図を配布し、説明をする。(施設職員と事前に打ち合わせをする。)
2	どの名人に入門するか決める。 <ul style="list-style-type: none"> 炭焼き 魚つり わら細工 など 		<ul style="list-style-type: none"> 子たちたちの興味や関心を大切にしながら、グループの人数を調整する。 名人の苦労や工夫について予想させ、質問したいことをまとめさせる。
3	名人に会いに行き、話を聞いたり、体験したりする。		<ul style="list-style-type: none"> 行き帰りの安全確保と活動に対する助言のため、グループごとに必ず指導者を配置する。 帰ってからの報告会のため、メモを取るなど工夫させる。
4	報告会をする。		<ul style="list-style-type: none"> 感動したこと、気づいたことを報告させる。 お礼の手紙を書かせる。
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導を徹底する。 体験によっては危険なこともあるので注意させる。 		

13		アイディア郷土料理大会		
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特産物を素材として料理を作ることを通して、地域の食文化を知る。 ・ 料理の楽しさを味わわせるとともに、地域に対する関心を高める。 		
時間	1日	準備物	自転車 ヘルメット プロテクター 野外炊飯道具 たわし 洗剤 薪 炊飯材料 現金 軍手 ふきん 審査票 リュック	
活動内容			留意事項	
1 料理を作る計画を立てる。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の素材をひとつ指定し、それを利用した新しいアイディアの料理に挑戦させる。 ・ 野外炊事の道具だけで作れる料理を計画させる。 	
2 材料の買い出しに行く。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料費の上限を設定する。 ・ 施設内で得られる材料があれば、それも利用させる。 	
3 料理を作る。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間的なゆとりを持って取り組ませる。 ・ 料理に名前をつけさせる。 	
4 試食会を開く。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査基準は事前に明らかにしておく。 	
5 感想を話し合う。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦労したところやうまくいったところを互いに発表させる。 	
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車の安全な乗り方を指導する。 ・ 買物時の交通安全に気をつけさせる。 ・ 火傷をしないよう軍手を使用させる。 		

14		地域の仕事をしよう		
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事の苦労や楽しさを体験する。 ・ 仕事体験を通して地域の仕事や生活の様子を知る。 		
時間	1日	準備物	必要な道具 のこなた タオル 軍手	
活動内容			留意事項	
1 山仕事の話聞く。(例)			<ul style="list-style-type: none"> ・ 山仕事で危なかったことや気をつけていることも話してもらえよう依頼しておく。 ・ 仕事の意義がわかるよう、その必要性についても話してもらえよう依頼しておく。 	
・生活の様子 ・仕事の内容や必要性 ・道具の使い方				
2 山仕事の体験をする。(例)			<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者が目の行き届く人数で活動させる。 ・ 安全に配慮した服装で活動させる。 ・ 安全確保のために、休憩をきちんと取らせる。 	
・枝打ち ・薪づくり ・下草刈り ・苗づくり ・苗植え ・間伐 ・伐採 ・皮むき ・つる切り 等				
3 感想を話し合ったり、仕事の苦労や楽しさを聞く。			<ul style="list-style-type: none"> ・ その時だけでなく、仕事が数十年にわたることや1年間に繰り返される季節に合わせた仕事のことなども話してもらえよう依頼しておく。 	
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具の安全な使用方法を指導する。 		

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

15	観光マップをつくろう		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 地図づくりを通して、探求心を養うとともに地域の人々とのふれあいを深める。 地域への興味や関心を高める。 		
時 間	1日	準備物 地域の地図 テープレコーダー 白地図 地図記号の一覧表 カセットテープ デジタルカメラ パソコン	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 どのような地図を作るのか、班ごとに話し合う。 2 地図の作り方について説明を聞く。 3 地域を歩き、調べる。 4 地図作りをする。 5 班ごとに発表する。			<ul style="list-style-type: none"> 地図記号の一覧表で記号のおさらいをさせる。 わからないことや、困ったことについては、地域の人にすすんで質問させる。 学校からあらかじめ地区の方に、子どもたちが出歩く旨、連絡を入れておく。 色分けをする等、分かりやすく工夫させる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導を徹底する。 		

16	新聞記者になろう		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題や取り組みを知り、地域づくりへの関心を高める。 新聞づくりの方法を身につける。 		
時 間	1日	準備物 地域の地図 テープレコーダー デジタルカメラ 新聞づくりに必要な用具 カセットテープ	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 自分たちの住んでいる地域の課題についてまとめる。 2 自然学校実施地域がかかえている課題を予想させる。 3 取材活動をする。 4 取材したことをまとめ、新聞を作る。 5 掲示し、意見交換をする。			<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活に結びついた問題から意見を出させる。 自分たちならどうするかという意見をまとめさせておく。 内容を前もって市町の方に依頼しておく。 課題だけでなく、町おこしの事業についても取材させる。 子どもたちの自由な発想を大事にしながら新聞にまとめさせる。 自分たちの住んでいる地域のことも含めさせる。
安全指導の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導を徹底する。 		

B 地域に親しむ

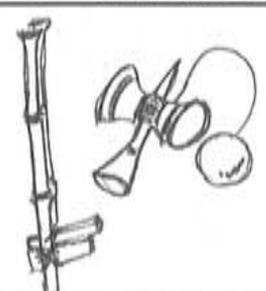


Ⅲ 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

1	ゲートボール交流		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> お年寄りと一緒に楽しくゲームすることで高齢者の人柄にふれ、思いやりの心や温かく接する態度を育てる。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
1	児童代表あいさつ。		<ul style="list-style-type: none"> 実技をしながら説明したほうが分かりやすい。 児童単独チーム、お年寄り単独チーム、混合チームなどいろいろな工夫させる。 お年寄りから指導を受ける。 指導を受けたりしながら、ふれあわせる。 ゲートボールのことなどについて質問したりして楽しく過ごさせる。
2	ゲートボールのルール説明を受ける。		
3	グループを決める。		
4	練習をする。		
5	ゲートボール大会をする。		
6	成績を発表する。		
7	交流会をする。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> スティックを振り回すなど、危険のないように注意させる。 		

2	ウォークラリー		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域へ出て行くことで、地域の人々とのふれあいを深める。 時と場に応じて、礼儀正しく真心をもって接する態度を養う。 		
時間	半日～1日	準備物	
活動内容			留意事項
1	ウォークラリーの方法についての説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 健康観察をする。 グループでそろって行動するようにさせる。 事前に下見をして、危険な箇所がないかチェックする。 何を学ばせるかねらいをはっきりさせ、子どもたちが興味を持って取り組めるものにする。 課題解決をさせる。 分岐点には標識などの目印を設置する。 ポイントで指導をする。
2	コースを歩く。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に注意する。 健康観察をする。 危険箇所のチェックをし、指導をする。 		

3	昔の遊び		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域のの人に昔の遊びを覚えてもらうことにより、地域の人々とふれあいを深める。 昔の遊びの楽しさを知ることにより、自分たちの遊びを見直す。 		
時間	半日	準備物	
活動		内容	
1 遊び方について話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 遊び方、ルールなどについて説明を聞く。 	
2 グループ編成をする。		<ul style="list-style-type: none"> 遊びに適したグループの人数にする。 	
3 遊びの準備をする。		<ul style="list-style-type: none"> 場所を考えて道具の準備をさせる。 	
4 遊ぶ。 ・竹馬 ・けん玉 ・ビー玉 など		<ul style="list-style-type: none"> グループごとに遊ばせる。 	
5 他の遊びなどをする。		<ul style="list-style-type: none"> 時間を決めてローテーションさせる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 竹馬に乗る場合、ふざけないようにさせる。 		

4	地元の学校との交流		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地元の小学校や保育園の児童、園児との交流を通して、ふれあいの輪を広げる。 		
時間	2時間～半日	準備物	
活動		内容	
1 対面式をする。		<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ児童代表による打ち合わせの機会をもつとよい。 	
2 交流活動について説明する。		<ul style="list-style-type: none"> 学校紹介などをさせる。 遊びの説明をしたり、グループ分けをしたりする。 学校ごとのグループや混合グループなどいろいろ工夫させる。 	
3 交流する。		<ul style="list-style-type: none"> 楽しくふれあいをさせる。 	
4 お別れの式をする。		<ul style="list-style-type: none"> 感想などを発表させる。 	
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 学校や保育園を訪問する場合は、交通安全指導を徹底する。 		

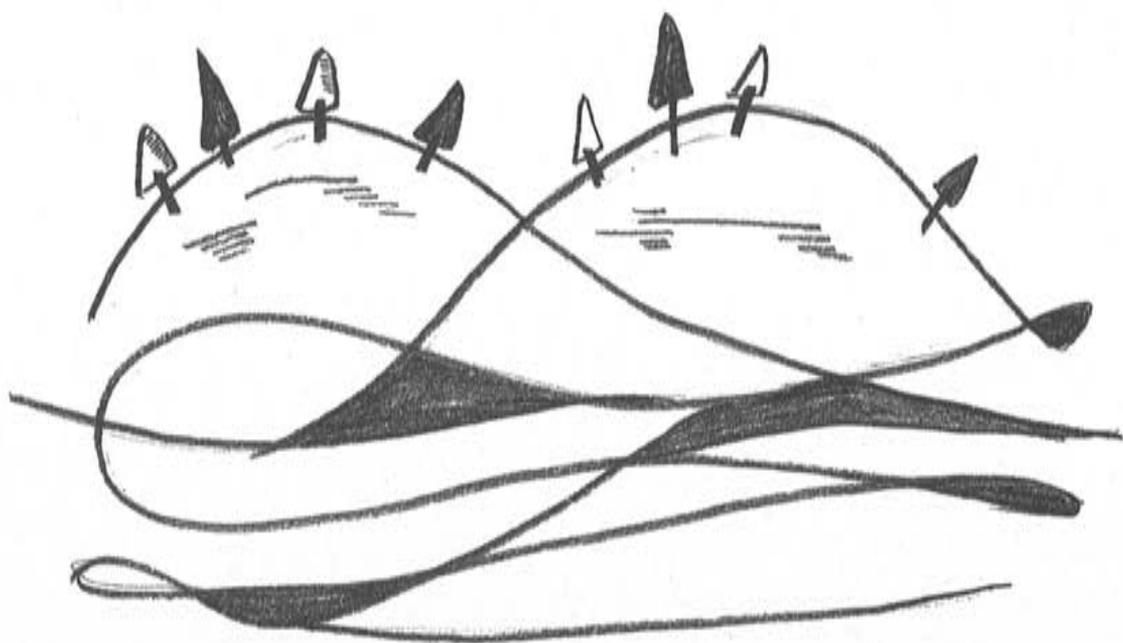
Ⅲ 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

5	買い物（食事材料の買い出し）		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの力で買い物をすることにより、金銭感覚や自主的、実践的な態度を養う。 自分の役割を責任を持って果たすことを身につける。 地域の人々とのふれあいを深める。 		
時 間	3時間	準備物 自転車 ヘルメット プロテクター トランシーバー 救急バッグ お金 買い物材料表 ナップサック	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 買い物の仕方について説明を聞く。 2 買い物の相談をする。 3 買い物をする。 4 買い物の報告をする。			<ul style="list-style-type: none"> 店の場所、品物等の下調べを事前にする。 事前に商店に連絡をしておく。 品物、金額、係分担などについて相談させる。 他のお客さんに迷惑にならないように買い物をさせる。
安全指導の ポイント		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に気をつけさせる。 	

6	いろいろカルタ		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとの心のふれあいを深める。 地域の生活や文化について興味や関心を高める。 		
時 間	1時間	準備物 兵庫県カルタ（草木、野鳥） 昆虫カルタ 百人一首	
活 動 内 容			留 意 事 項
1 カルタ大会のルールの説明を聞く。 2 カルタ大会をする。			<ul style="list-style-type: none"> 読む係、得点係など係分担を考えさせる。 個人戦やグループ対抗戦などをさせる。 自分たちの地域のカルタづくりに発展させる。
安全指導の ポイント			

C 地域に奉仕する



1	缶トリー遠足		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> みんなと協力して缶拾いを通して、奉仕の喜びや尊さを体験する。 		
時間	半日	準備物 計量器 一輪車 リヤカー かなばさみ 町内の地図 トランシーバー 軍手 タオル 帽子 ゴミ袋	
活動内容			留意事項
1	活動の意義や方法についての説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 道路以外にも目を向けさせるが、私有地には無断で入らないようにさせる。 缶の計量は行ってもよいが、競争意識をあおらないように注意させる。
2	各グループごとに、缶拾いをする。		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に注意させる。 草地にあるものは、かなばさみで拾わせる。 軍手を着用させる。 アルミ缶とスチール缶、ビン類を仕分けさせる。
3	缶の計量をする。		
4	集めた缶の多さを見ながら、感想を話し合う。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全について指導を徹底する。 必ず軍手を着用させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 草むらに手を入れないように注意させる。

2	草刈り		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> みんなと力を合わせて施設内や施設周辺の草刈りを行い、奉仕の喜びや尊さを体験する。 		
時間	2時間	準備物 鎌 熊手 一輪車 リヤカー ほうき ちりとり 長靴 救急バッグ 軍手 帽子 タオル	
活動内容			留意事項
1	草刈りの場所や方法について説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> グループごとに場所を設定する。 鎌の使い方の指導をする。
2	グループに分かれてやり方について相談をする。		<ul style="list-style-type: none"> 草刈りの区分や役割について話し合わせる。
3	草刈りをする。		<ul style="list-style-type: none"> みんなと協力して、草刈りをする。
4	後かたづけをする。		<ul style="list-style-type: none"> 刈った草の処理の仕方を確認する。 道具の点検をさせる。
5	感想を話し合う。		
安全指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 鎌の使い方を指導する。 軍手、長靴を使用させる。 ハチやマムシなどに気をつけさせる。 		

3	福祉体験活動（恵生園、真生園、平生園）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりの心をもち、共に生きる社会づくりをめざした福祉の心を育てる。 		
時間	半日～1日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 施設の意義や働いている人たちの話を聞く。 施設の人たちと話をする。 車椅子などの体験をする。 いっしょに活動をする。 （例） <ul style="list-style-type: none"> はがきづくり ・あみもの 竹細工 ・たまかご しょうゆ入れ切り など 奉仕活動をする。 清掃など 施設職員に質問をしたり、感想を話し合う。 			<p>あらかじめ施設職員と十分打ち合わせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉学習をしておくことが大切である。 事前に話しの内容などを考えさせておくことよい。 施設内の行動は静かにさせ、遊び半分にならないようにさせる。 グループに分かれて交流を深める。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 施設までの交通に気をつける。 	

4	登山道づくり		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> みんなで力を合わせて登山道づくりをすることにより、自然学校をより思い出深いものにする。 自然や環境に対して興味関心を高める。 		
時間	半日	準備物	
活動内容			留意事項
<ol style="list-style-type: none"> 登山道づくりの意義を聞く。 現場まで行く。 グループに分かれて道を作る。 下山する。 感想を話し合う。 			<ul style="list-style-type: none"> 事前に職員と相談して、作業場所や作業内容、作業量などを決定する。 道具を持ち運ぶ場合は注意をさせる。 自然の状況を変えることは最小限度にさせる。 道具の使い方に注意させる。 道具を忘れないようにさせる。 道具の持ち運びに気をつけさせる。
安全指導のポイント		<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方を指導する。 長袖、長ズボン、軍手を着用させ、ヘルメット、長靴を使用させる。 	

参 考

- 自然学校の円滑な実施のために
- 自然学校推進事業補助金交付要綱
- 自然学校に活用されている主な宿泊施設
- 自然学校で活用されている主な県立施設

○ 自然学校の円滑な実施のために

自然学校は各学校が主体的に計画し実施するものであるが、昭和63年度の実施以来、県教育委員会では、自然学校をより充実したものとするためさまざまな施策を講じてきた。

平成10年度においては、下記のことからについて、重点的にその徹底を図ってきた。

(1) 自然学校専門指導員等の配置及びその活動

① 自然学校専門指導員等の配置

- ア 教育事務所等配置 → 実施校の事前相談・現地指導・事後指導、プログラム指導、プログラム開発及び研究調査、指導員・救急員等の確保等
- イ 県立拠点施設等配置 → 実施校の現地指導、受入れ準備、プログラム相談・開発、下見相談調査・統計等

嬭野台生涯教育センター、母と子の島、西はりま天文台公園、兎和野高原野外教育センター

② 自然学校救急員の配置 → 実施校の健康安全指導・事前指導

子どもの病気・けが等の応急処置及び医療機関利用の判断
子どもの健康状況調査、施設内の安全指導等

嬭野台生涯教育センター、母と子の島、西はりま天文台公園、兎和野高原野外教育センター
丹有・西播磨・但馬教育事務所、南但馬自然学校

③ 自然学校専門指導員等の派遣

自然学校の実施に際し、教育事務所等に配置している自然学校専門指導員等を実施校の要請に応じて派遣する。

- ア 指導内容 → 事前指導、現地指導、事後指導
- イ 派遣場所及び範囲 → 自然学校専門指導員等が所属する教育事務所管内の県立及び市町組合立等施設及び所属する教育事務所管内の実施校
- ウ 派遣申請 → 派遣を希望する自然学校実施校は、市郡町組合教育委員会を通じて教育事務所長に「自然学校専門指導員等派遣申請書」を提出する。

④ 自然学校救急員の派遣

自然学校の実施に際し、教育事務所等に配置している自然学校救急員を実施校の要請に応じて派遣する。

ア 派遣施設

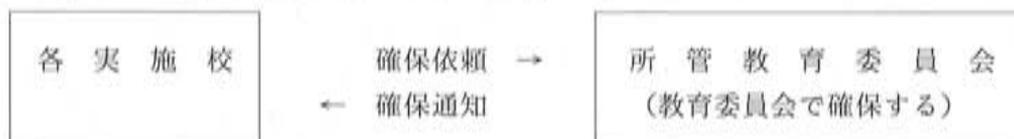
配 置	派 遣 先
丹有教育事務所	管内の公立施設、奥猪名健康の郷
西播磨教育事務所	管内の公立施設
但馬教育事務所	管内の公立施設（豊岡市、城崎郡、出石郡、浜坂町、温泉町）
南但馬自然学校	但馬教育事務所管内の公立施設（朝来郡、養父郡、村岡町、美方町）

- イ 派遣申請 → 派遣を希望する自然学校実施校は、市郡町組合教育委員会を通じて、教育事務所長に「自然学校救急員（非常勤）派遣申請書」を提出する。

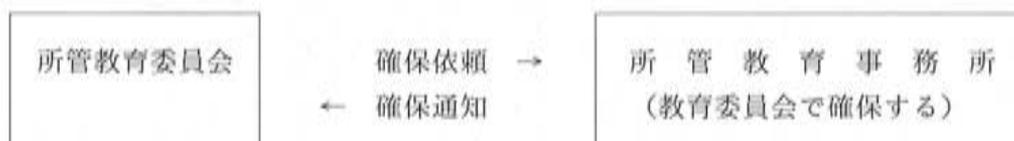
(2) 指導員等の確保方法

実施校が、実施計画に基づき、必要な人材の確保を所管の教育委員会に依頼すれば、教育委員会は責任を持って教育事務所、野外活動施設と連携し、当該自然学校の円滑な実施が図られるようにする。

① 実施校が所管の教育委員会に確保を依頼する。



② 所管の教育委員会で確保が困難な場合は、管内の教育事務所に確保を依頼する。



③ 野外活動施設等は、当該活動施設で確保できる人材（技術指導員、指導補助員、救急員）を学校、教育委員会、管内教育事務所に明示し、十分連携できるようにする。

(3) 事業費の補助について

① 市町が県の補助を受けて実施する自然学校に要する経費に対し、自然学校推進事業補助金交付要綱の規定により補助金を交付する。

② 自然学校推進事業の実施にかかる補助申請及び経費の執行に当たっては、事業の趣旨を踏まえ主体的に計画された各実施校のプログラム等が円滑に実施できるよう配慮する。

〈平成11年度自然学校実施にかかる補助対象事業費限度額〉 単位（千円）

クラス規模	1	2	3	4	5	6	7 (1C1増すごとに加算)	補助額は 事業費の 2 / 3
事業費	580	920	1,285	1,505	1,735	1,995	150	

○ 自然学校推進事業補助金交付要綱

(通 則)

第1条 自然学校推進事業補助金（以下「補助金」という。）の交付については、この要綱の定めるところによる。

(交付の目的)

第2条 この要綱は、市町（市町の組合含む。以下同じ。）が、心身ともに調和のとれた健全な児童の育成を図るため、豊かな自然環境の中での集団宿泊生活を通じて自然とのふれ合いや人とのふれ合いを体験する学校教育活動を推進する自然学校推進事業（以下「補助事業」という。）を実施するために必要な経費の一部を補助し、もって学校教育の充実に資することを目的とする。

(交付の対象及び補助金の額等)

第3条 県は、市町に対して、補助事業に要する経費について、予算の範囲内で別表に定める補助対象経費及び学級規模の事業費限度額により、その3分の2以内の額を補助するものとする。

(申請手続)

第4条 補助金の交付を受けようとする市町は、交付申請書（様式第1号）に収支予算書（様式第2号）を添えて県教育長に対しその定める時期までに提出しなければならない。

(交付決定)

第5条 県教育長は、前条の申請書の提出があったときは、審査の上、補助金を交付すべきものと認めるときは、交付の決定を行い、交付決定通知書（様式第3号）により通知するものとする。

(申請の取下げ)

第6条 市町は、前条の通知を受領した場合において交付決定の内容又はこれに付した条件について不服があるときは、交付決定の通知を受領した日から10日以内に補助金の交付の申請を取り下げることができる。

2 前項の申請の取下げがあったときは、当該申請に係る交付決定はなかったものとみなす。

(補助事業の遂行)

第7条 補助金の交付決定を受けた市町（以下「補助事業者」という。）は、補助事業を遂行するために契約を締結し、又は支払いを行う場合には、法令の定めに従い、公正かつ最小の費用で最大の効果をあげ得よう経費の効果的使用に努めなければならない。

(計画変更の承認)

第8条 補助事業者は、補助事業の内容を変更しようとする場合には、事業計画変更承認申請書（様式第4号）を提出し、その承認を受けなければならない。

ただし、補助金の額に増減をきたすことなく、かつ、実施校数又は児童数の20%を超える変更以外の変更については、この限りでない。

2 県教育長は、前項の承認をする場合においては、必要に応じて交付決定の内容を変更し、又は条件を付すことができる。

(事業の中止又は廃止)

第9条 補助事業者は、補助事業を中止又は廃止しようとするときは、事業中止（廃止）等を記載した承認申請書（様式第5号）を県教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

(交付決定額の変更)

第10条 補助事業者は、第5条の規定により通知された金額（以下「交付決定額」という。）の変更を受けようとするときは、県教育長が指定する期日までに補助金変更交付申請書（様式第6号）を提出しなければならない。

2 県教育長は、前項の申請があったときは、第5条の規定に準じ決定を行い、補助金交付決定変更通知書（様式第7号）により通知するものとする。

(事業遅延の届出)

第11条 補助事業者は、補助事業が予定の期間内に完了する見込みがないとき、又は事業の遂行が困難となった場合には、速やかにその旨を記載した報告書を県教育長に提出し、その指示を受けなければならない。

(状況報告)

第12条 補助事業者は、補助事業の遂行及び支出状況について、県教育長が指定する日までに、状況報告書（様式第8号）を県教育長に提出しなければならない。

(実績報告)

第13条 補助事業者は、補助事業が完了したとき（廃止の承認を受けたときを含む。）は、その日から起算して30日を経過した日又は補助金の交付決定のあった年度の3月31日のいずれか早い日までに実績報告書（様式第9号）に収支決算書（様式第10号）を添えて県教育長に提出しなければならない。

(補助金額の確定等)

第14条 県教育長は、前条の報告を受けた場合においては、報告書等の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、その報告に係る補助事業の実施結果が補助金の交付の決定の内容（第8条に基づく承認をした場合は、その承認された内容）及びこれに付した条件に適合するものであるかを調査し適合すると認めるときは、交付すべき補助金の額を確定し、補助事業者に補助金額確定通知書（様式第11号）により通知するものとする。

2 県教育長は、確定した補助金の額が、交付決定（第10条第2項の規定により変更された場合にあつては、同項の規定により通知された金額をいう。）と同額であるときは、前項の規定による通知を省略することができる。

(補助金の交付等)

第15条 補助金は、前条第1項の額の確定後、補助事業者から提出される補助金請求書（様式第12号）により交付する。

2 県教育長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず概算払をすることがある。

(交付決定の取消し)

第16条 県教育長は、次に掲げる場合には、第5条の交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

- (1) 第9条の補助事業の中止又は廃止の申請があったとき。
- (2) 補助事業者が、この要綱の規定に違反したとき。
- (3) 補助事業者が、補助金を補助事業以外の用途に使用したとき。
- (4) 補助事業者が、補助事業に関して不正、怠慢、その他不適切な行為をしたとき。
- (5) 交付の決定後生じた事情の変更等により、補助事業の全部又は一部を継続する必要がなくなったとき。

(補助金の返還)

第17条 県教育長は、前条の取消しをした場合において、当該取消しに係る部分に関する補助金が既に交付されているときは、期限を定めてその返還を命ずることができる。

- 2 県教育長は、第14条第1項の額の確定を行った場合において、既にその額を超える補助金が交付されているときは、期限を定めてその超える部分の補助金の返還を命ずることができる。

(加算金及び遅延利息)

第18条 補助事業者は、第16条第1号から第3号までに定める事由により、前条第1項の規定による補助金の返還を命じられたときは、その命令に係る補助金の受領の日から納付の日までの日数に応じ、

当該補助金の額につき年10.95%の割合で計算した加算金を県に納付しなければならない。

- 2 補助事業者は、補助金の返還を命じられ、これを期限までに納付しなかったときは、納付期限の翌日から納付の日までの日数に応じ、当該未納付額につき年10.95%の割合で計算した遅延利息を県に納付しなければならない。

(補助金の経理)

第19条 補助事業者は、補助事業について収支簿を備え、他の経理と区分して補助事業の収入額及び支出額を記載し、補助金の用途を明らかにしておかなければならない。

(補助金調書)

第20条 補助事業者は、当該補助金事業に係る歳入・歳出の予算書及び決算書における計上科目別計上金額を明らかにする調書を作成しておかなければならない。

(帳簿の備付け)

第21条 補助事業者は、当該補助事業に係る収入及び支出について証拠書類を整理し、当該補助事業が完了した年度の翌年度から5年間保存しなければならない。

(書類の経由)

第22条 この要綱の規定により県教育長に提出する書類の提出部数は2部とし、補助事業者（神戸市を除く。）は所轄の教育事務所を経由して、兵庫県教育委員会事務局義務教育課へ提出するものとする。

(補 則)

第23条 この要綱に定めのない事項については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）及び補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）の規定によるものとする。

別 表

補助対象とする経費の範囲は、次のとおりとする。

1 技術指導謝金	現地で専門家、技術者による講義、技術等の指導を委嘱する場合の講師等に対する謝金とする。
2 指導補助員謝金	<p>教員を助けて児童の引率や指導を行う指導補助員を委嘱する場合の指導補助員に対する謝金とする。</p> <p>指導補助員については、養護教諭の代替としての看護婦等を補助員(救急員)として委嘱する場合も補助対象とする。</p>
3 交通費	<p>児童が学校から自然学校の間となる施設等への移動及び帰校に要する児童が学校から自然学校の間となる施設等への移動及び帰校に要する</p> <p>指導補助員については、養護教諭の代替としての看護婦等を補助員(救急員)として委嘱する場合も補助対象とする。</p>
4 施設使用料	自然学校に利用する施設・設備等の使用料とする。なお、食事代、見学科(観賞料)及び引率教員に係る施設使用料は含まれない。
5 消耗品費	<p>自然学校の実施に必要な消耗品の購入に要する経費とする。</p> <p>なお、教材・教具等で明らかに個人の所有に帰するものは含まない。</p>
6 要保護・準要保護児童にかかる食事代等に要する経費	要保護・準要保護児童にかかる食事代、見学科、教材費などの負担にする経費とする。

○ 自然学校に活用されている主な宿泊施設

区分	施設名	所在地	宿泊定員	連絡
国立	淡路青年の家	〒656-0543 三原郡南淡町阿万塩屋757-39	400	0799-55-0460
県立	南但馬自然学校	〒669-5134 朝来郡山東町迫間字原189	270	0796-76-4730
	総合体育館	〒663-8142 西宮市鳴尾浜1丁目16-8	約400	0798-43-1143
	奥猪名健康の郷	〒666-0201 川辺郡猪名川町杉生字奥山1-22	180	0727-69-0485
	丹波林間学校	〒669-2145 篠山市木津字前山191-2	100	0795-79-3088 篠山市教育委員会 0795-94-1131
	嬉野台生涯教育センター	〒673-1415 加東郡社町下久米1227-18	480	0795-44-0711
	母と子の島	〒672-0100 飾磨郡家島町西島	217	07932-7-1508
	西はりま天文台公園	〒679-5313 佐用郡佐用町西河内407-2	128	0790-82-0598
	三室高原青少年野外活動センター	〒671-3232 宍粟郡千種町河内字真所	120	0790-76-2249 千種町教育委員会 0790-76-2210
	西播磨文化会館	〒679-4311 揖保郡新宮町宮内458-7	80	0791-75-3663
	但馬文教府	〒668-0056 豊岡市妙楽寺41-1	78	0796-22-4541
	兎和野高原野外教育センター	〒667-1336 美方郡村岡町宿字兎和野791-1	184	0796-94-0211
	但馬牧場公園	〒669-6813 美方郡温泉町丹土	69	0796-92-2641
	但馬長寿の郷	〒667-0021 養父郡八鹿町八鹿1675	100	0796-62-8456
	淡路文化会館	〒656-1521 津名郡一宮町多賀600	60	0799-85-1391
	市町組合立等	神戸市立自然の家	〒657-0101 神戸市灘区六甲山町中一里山1-1	208
宝塚市立少年自然の家		〒669-1211 宝塚市大原野字松尾1	192	0797-91-0314
伊丹市立野外活動センター		〒669-1412 三田市木器南下山1266-10	280	0795-69-1165
三田市立野外活動センター		〒669-1401 三田市小楠949	160	0795-69-0388
事務組合立丹波少年自然の家		〒669-3803 氷上郡青垣町西芦田イゲ32-2	320	0795-87-1633
明石市立少年自然の家		〒674-0064 明石市大久保町江井島567	230	078-947-6181
加古川市立少年自然の家・野外活動センター		〒675-0435 加古川市東神吉町天下原715-5	220	0794-32-5177
財団法人三山人と馬とのふれあいの森協会 三木ホースランドパーク エオの森研修センター		〒673-0435 三木市別所町高木	160	0794-83-8110
西脇市立青年の家		〒677-0039 西脇市上比延町字伊勢山1434-8	200	0795-22-3703
加美町立青年の家		〒679-1201 多可郡加美町豊部1840-53	100	0795-35-1572
高砂市立青年の家		〒676-0031 高砂市高砂町向島町1710	106	0794-43-2155
姫路市立藤ノ木山野外活動センター		〒679-2113 姫路市山田町南山田1354-4	320	0792-63-2997
姫路市立引原野外活動センター		〒671-4204 宍粟郡波賀町引原307-3	326	0790-73-0453
姫路市立星の子館		〒671-2222 姫路市青山1470-24	100	0792-67-3050
神崎町立グリーンエコー笠形		〒679-2411 神崎郡神崎町根宇野1019-13	300	0790-32-1307
神崎町立新田ふるさと村		〒679-2401 神崎郡神崎町新田340-1	150	0790-33-0870
姫路市立梯野外活動センター		〒671-2513 宍粟郡山崎町梯313-13	420	0790-62-3121
波賀町サイクリングターミナル (波賀高砂の家)		〒671-4213 宍粟郡波賀町原625	270	0790-75-2355
尼崎市立美方高原自然の家		〒667-1532 美方郡美方町新屋(中サバ)	260	0796-97-3601
あけのべ自然学校		〒667-0435 養父郡大屋町和田1184(明延)	225	0796-68-0258
西宮市立山東少年自然の家		〒669-5125 朝来郡山東町粟鹿字細田2179	260	0796-76-4100
休暇村竹野海岸		〒669-6201 城崎郡竹野町竹野1047	157	0796-47-1511
但馬海岸豊岡簡易保険保養センター		〒669-6123 豊岡市小島字荷柄1188-8	90	0796-28-3375

○ 自然学校で活用されている主な県立施設

施設名	所在地	主な活動	連絡
防災科学館	〒651-1102 神戸市北区山田町下谷上字中一里山15-13	・防災学習(地震体験)	078-741-6533
海洋体育館	〒659-0032 芦屋市浜風町30-2	・カヌー、ヨット、ボート体験	0797-32-2255
人と自然の博物館	〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目	・屋内展示の自然史めぐり ・環境学習等	0795-59-2001
丹波年輪の里	〒669-3312 水上郡柏原町田路102-3	・クラフト創作を主とした木の文化にふれる活動	0795-73-0725
フラワーセンター	〒679-0187 加西市豊倉町飯森1282-1	・四季の草花を楽しむ活動 ・野外広場での活動	0790-47-1182
播磨中央公園	〒679-0212 加東郡滝野町下滝野1275-8	・バラ園フラワーガーデン ・マウンテンバイク等	0795-48-5289
三木山森林公園	〒673-0433 三木市福井字三木山2465-1	・森林浴	0794-83-6100
東はりま日時計の丘公園	〒679-0312 多可郡黒田庄町門柳871-14	・燻製体験 ・木工クラフト ・ホタルの観察	0795-28-4851
歴史博物館	〒670-0012 姫路市本町68	・兵庫県の歴史学習 ・姫路城に関する学習	0792-88-9011
昆虫館	〒678-5227 佐用郡南光町船越617	・生きた昆虫の生態観察 ・昆虫の標本見本	0790-77-0103
赤穂海浜公園	〒678-0215 赤穂市御崎1857-5	・塩づくり体験 ・アスレチック	07914-5-0800
播磨科学公園都市オプトピア(P R館)	〒678-1201 赤穂郡上郡町金出土1499-3	・播磨科学公園都市の見学	07915-8-1155
水産試験場内水面漁業センター	〒679-3442 朝来郡朝来町田路1164	・淡水魚の生態観察 ・魚釣り体験	0796-78-1701
北部農業技術センター	〒669-5254 朝来郡和田山町安井123	・農産物の加工体験 ・牛の見学	0796-74-1230
森林・林業技術センター 緑化センター	〒669-5114 朝来郡山東町野間903-1	・樹木を中心とした体験学習	0796-76-2257
但馬長寿の郷	〒667-0021 養父郡八鹿町八鹿1675	・福祉体験 ・木工クラフト ・陶芸 ・里山散策	0796-62-8456
円山川公苑	〒668-0000 豊岡市小島荷柄1163	・カヌー、カヤック、カッター ・スケート体験 ・プール	0796-28-3085
但馬ドーム	〒669-5379 城崎郡日高町名色88-50	・ニュースポーツ等	0796-45-1900
但馬牧場公園	〒669-68 美方郡温泉町丹土1033	・但馬牛の博物館見学 ・牛の世話 ・ソリ遊び	0796-92-2641
淡路島公園	〒656-2401 津名郡淡路町岩屋大林2674-3	・園内散策 ・アスレチック	0799-72-5366
淡路ファームパーク	〒656-0402 三原郡三原町八木養宜上1396	・動植物とのふれあい体験	0799-42-2440
淡路ふれあい公園	〒656-0122 三原郡緑町広田広田1473-12	・野外での遊び	0799-45-1735
但州丸(香住高等学校)	〒669-6563 城崎郡香住町矢田40-1	・実習船但州丸の見学及び乗船	0796-36-1181
県立佐用高等学校	〒679-5381 佐用郡佐用町佐用260	・農業、畜産体験	0790-82-2434

平成10・11年度兵庫県立南但馬自然学校プログラム研究委員会委員名簿

(順不同)

分野	氏名	所属・職名
学識経験者	山田 誠	神戸市外国語大学教授(委員長)
	新穂 千賀子	県立姫路工業大学助教授(副委員長)
	人見 修一	兵庫教育文化研究所事務局長
野外活動施設関係者	中井 宏	県立兎野高原野外教育センター 自然学校専門指導員(施設駐在指導担当)
	佐伯 和樹	県立姫野台生涯教育センター 自然学校専門指導員(施設駐在指導担当)
自然学校専門指導員	石飛 弥生	阪神教育事務所 自然学校専門指導員(自然学校派遣指導担当)
	色波 亨	東播磨教育事務所 自然学校専門指導員(自然学校派遣指導担当)
	中川 光之	但馬教育事務所 自然学校専門指導員(自然学校派遣指導担当)
関係行政機関関係者	田近 敏之	県教育委員会義務教育課指導主事
自然学校実施校教員	川原 雅樹	篠山市立今田小学校教諭
	駒田 明子	香寺町立香呂南小学校教諭
	原田 武	一宮町立柳沢小学校教諭
南但馬自然学校	門脇 明好	県立南但馬自然学校主任指導主事
	福本 千歳	県立南但馬自然学校指導主事
	井上 正弘	県立南但馬自然学校指導主事
	垣尾 幸博	県立南但馬自然学校指導主事
	段畑 哲也	県立南但馬自然学校指導主事

平成11年度
自然・人・地域に学ぶ
平成12年3月発行

発行 兵庫県立南但馬自然学校
☎669-5134
兵庫県朝来郡山東町迫間字原189
☎0796-76-4731
印刷 藤原印刷所

